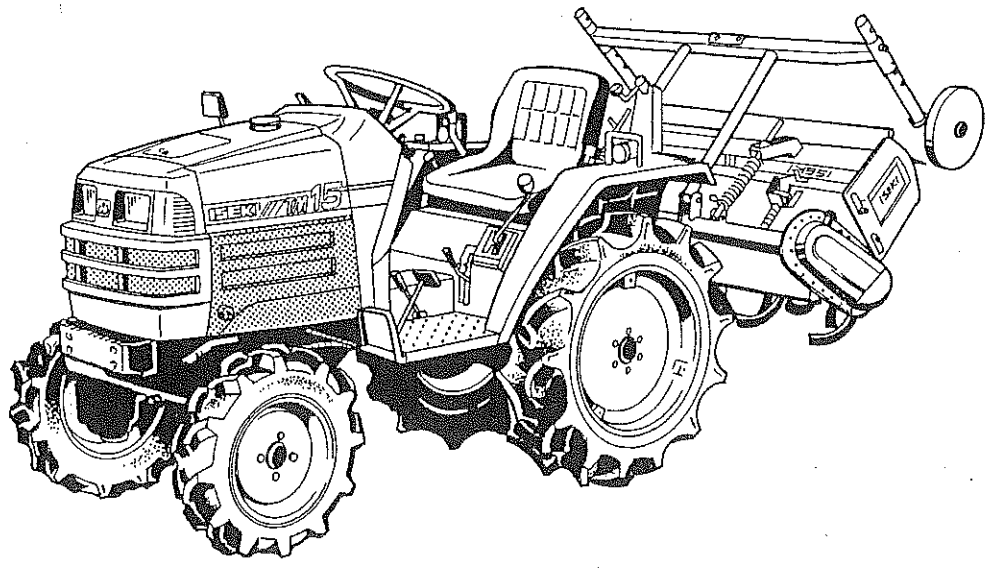
井セキトラクタ

取扱説明書

TM シリーズ

TM17
TM15



ご使用前に必ずお読みください。

井関農機株式会社

トラクタ重要安全ポイント

1．道路を走行するときは、
左右のブレーキペダルを連結 します。

2．農道を走行するときは、
スピードを落とし路肩 に注意します。

3．ほ場へ出入りするときは、
スピードを落としあぜに直角 に走行します。

4．トラクタや作業機を点検調整するときは、必ずエンジンを停止し、
パーキングブレーキをかけ、油圧ロック をします。

5．補助者と共同作業を行なうときは、
合図をし 安全を確認 します。

6．耕うん爪の点検や交換をするときは、
必ずエンジンを停止し、油圧ロック をします。

7．ロータリを着脱するときは、
平坦な場所で低速で 行ないます。
トラクタの後輪とロータリの間に 立たない。

8．運転・作業をするときは、
回転部分には、手や体を 近づけない。
必ず周囲の安全を 確かめます。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも本文の中で安全上ぜひ守っていただきたい事項を ⚠ を付して説明のつどとり上げております。
よくお読みいただくと共に必ず守っていただくようお願いいたします。

はじめに

●この度は、ヰセキトラクタをお買いあげいただき、まことにありがとうございました。

●この取扱説明書は、トラクタを使用する際に是非、守っていただきたい安全作業に関する基礎的事項、トラクタを適切な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成しております。

●トラクタを初めて運転される時はもちろん、日頃の運転・取扱いの前にも初心に立ち返り入念に読み、十分理解され安全・確実な作業を心がけてください。

●この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるように保管してください。

●トラクタを貸与または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書をトラクタに添付してお渡しください。

●この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買いあげいただいた、販売店・農協にご注文ください。

●なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。
その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本トラクタと一致しない場合がありますので、ご了承ください。

●もし、おわかりにならない点がございましたら、ご遠慮なくお買いあげいただいた販売店・農協にご相談ください。

●取扱説明書の中の ⚠ 重要 表示は、下記の様に安全上、取扱上の重要なことを示しております。よくお読みいただき、必ず守っていただくようお願いいたします。

表　示	重　要　度
⚠ 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しております。
⚠ 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しております。
⚠ 注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものを示しております。
重要	商品の性能を最大限発揮させるための注意事項を説明しております。

●この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分のトラクタについて併記してあります。お買いあげいただいた、トラクタの型式・区分名を、機体に貼付してある銘板で確認され、該当する部分をお読みください。

区分記号	装備内容	区分記号	装備内容
F	4輪駆動	P1	2柱ロプス（可倒式）
D	メカオート	J13	玉ねぎ仕様
Z	逆転PTO	Z03	サトウキビ仕様
N	底床	NZP03	狭幅管理仕様
S	キーストップ付（TM15）	NP03	ゴボウ管理仕様
U	パワーステアリング バックアップ	A3	耕幅1.3m ロータリセット
X	水平制御	A2	耕幅1.2m ロータリセット
P	2柱ロプス（固定式）		

目　次

安全のポイント ---- 1

小型特殊自動車としての取扱い ---- 1
安全な作業をするために ---- 3
安全表示ラベルについて ---- 15
安全表示ラベル貼付位置 ---- 16
電装関係を扱うときは ---- 18
安全フレームの取扱い ---- 20

保証とサービス ---- 22

各部の名称とはたらき ---- 23

計器およびスイッチの取扱い ---- 23
レバー・ペダル・シート関係の取扱い ---- 25

作業前点検 ---- 31

運転のしかた ---- 32

作業のしかた ---- 40

油圧装置の取扱い ---- 40
バックアップ装置の取扱い（U型式） ---- 42
水平ロータリの取扱い（X型式） ---- 43
オートロータリの取扱い（D型式） ---- 47
作業運転のしかた ---- 50
輪距の調節 ---- 54

点検整備 ---- 55

定期点検整備箇所一覧表 ---- 55
給油・給水一覧表 ---- 57
点検と清掃 ---- 58
電機系統の点検と清掃 ---- 66
調整のしかた ---- 70
格納時の取扱い ---- 74

ロータリについて ---- 76
ロータリの取り付け・取り外し ---- 76
作業前の点検 ---- 80
作業に適した調整と使いかた ---- 81
作業方法 ---- 83
畦立器の取り付けと作業のしかた ---- 84
耕うん爪について ---- 85
ロータリの手入れと点検・整備 ---- 88
不調時の処置 ---- 92
農作業を安全に行うために ---- 98
サービス資料 ---- 104
推奨潤滑油一覧表 ---- 104
主要諸元 ---- 105
走行速度表 ---- 108
付属工具一覧表 ---- 108
主な消耗部品一覧表 ---- 109
注文部品一覧 ---- 111
索　引 ---- 112
配　線　図 ---- 115

安全のポイント

本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行なってください。

小型特殊自動車としての取扱い

このトラクタは、小型特殊自動車（農耕トラクタ）として、型式認定を受けております。
ご使用の際は以下の点を遵守してください。

■小型特殊自動車とは

(1) 小型特殊自動車は、法で定められた条件を満足していなければなりません。次のようなことは絶対しないでください。

①トラクタ各部構造の改造。

②型式の異なるエンジンの搭載。

③届け出タイヤ以外のタイヤの装着。

④各封印部分の開封。

これらの改造変更は、「不法改造」に該当し、違法行為となり一切の保証は致しませんのでご注意ください。

その他の法規について

(1) 道路走行輪距

道路を走行するときは、必ず下表の輪距で走行してください。これ以外の輪距や作業機をとりつけたままでの道路走行は違法になります。

	名　称	区分	タイヤサイズ	輪 距 (㎜)		名　称	区分	タイヤサイズ	輪 距 (㎜)
前輪	TM15		5.00-12	785	後輪	TM15		8-18	820
		N	5-12	755			N	8-16	820
	TM17		5.00-12	785		TM17		8-18	820
		N	5-12	755			N	8-16	820

(2) 道路走行時の作業灯

作業灯を装着された場合。この作業灯を点灯したまま道路を走行することは違法行為となります。道路走行時、作業灯は必ず消灯してください。

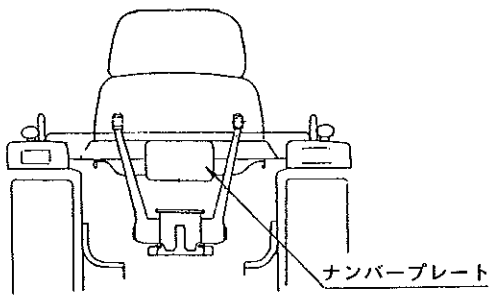
■市町村役場への届出とナンバープレートの取付け

(1) このトラクタの所有者となられた方は、市町村条令の定めにより市町村役場に届け出て、ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

(2) 届出には、小型特殊自動車取得証明書（「お買いあげ先」で準備致します）と、軽自動車税および印鑑を添えて提出してください。
尚、届出の手続きは、市町村により多少異なることがありますので、詳細は「お買いあげ先」にご相談ください。

(3) 交付されたナンバープレートは、トラクタ後部のナンバープレート取付場所に確実に取付けてください。

ナンバープレート取付位置



■運転免許証の携帯

このトラクタを運転し、道路走行する場合は、小型特殊自動車の運転免許が必要です。運転中は、必ず運転免許証を携帯し、道路交通法の定めに従って安全で正しい運転をしてください。また、けん引して道路を走行する場合、けん引する車両の総重量が、750kgを越える場合は、けん引免許が必要となります。

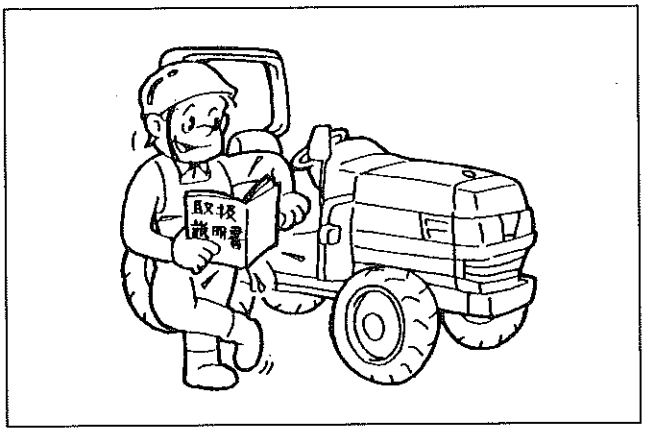
■保険について

農作業用の小型特殊自動車には、自動車損害賠償責任保険を付保することができません。万一の交通事故補償に備えて、任意保険に加入しておかれることをお勧めします。

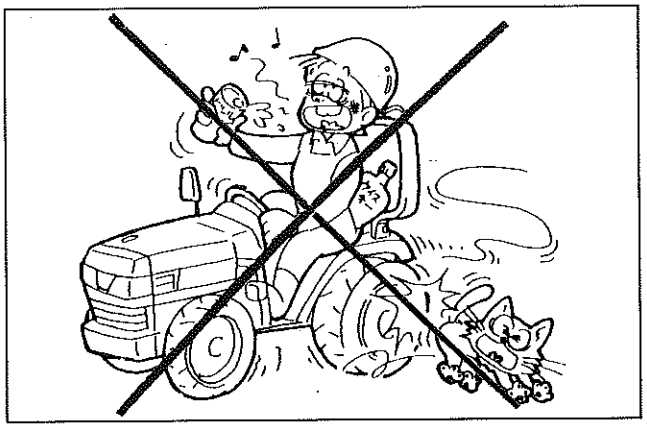
安全な作業をするために

■運転者の条件

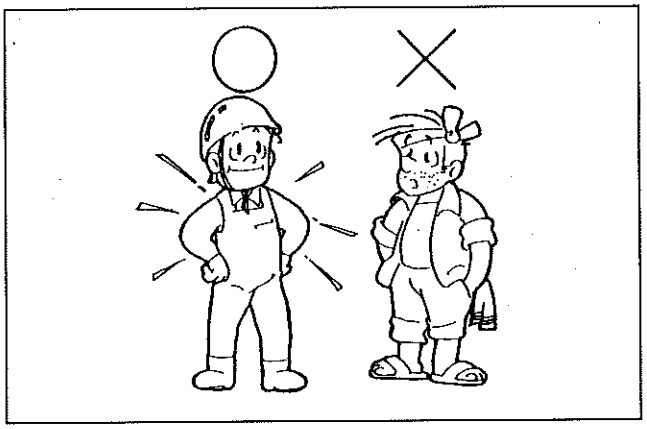
(1) この「取扱説明書」をよく読むことからはじめてください。これが安全作業の第一歩です。



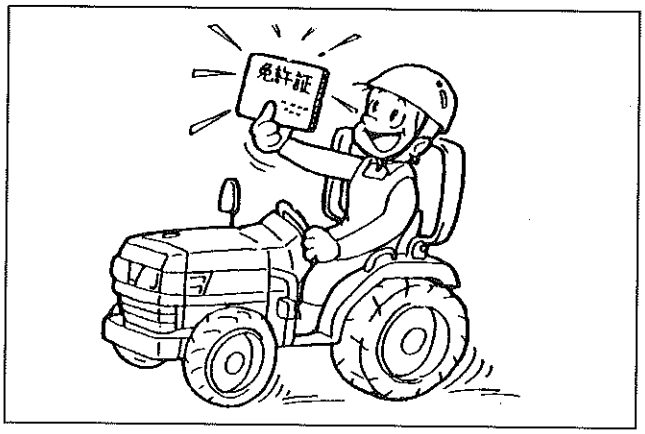
(2) 飲酒時や過労ぎみの時、作業をしてはいけません。このようなとき作業を行なうと、誤操作などで思わぬ事故を引き起こします。作業するときは、必ず心身とも健康な状態で行なってください。



(3) 服装は作業に適したものを着てください。
服装が悪いと、衣服が回転部に巻き込まれたり、靴がスリップしたりして大変危険です。
ヘルメットや適正な保護具も着用してください。



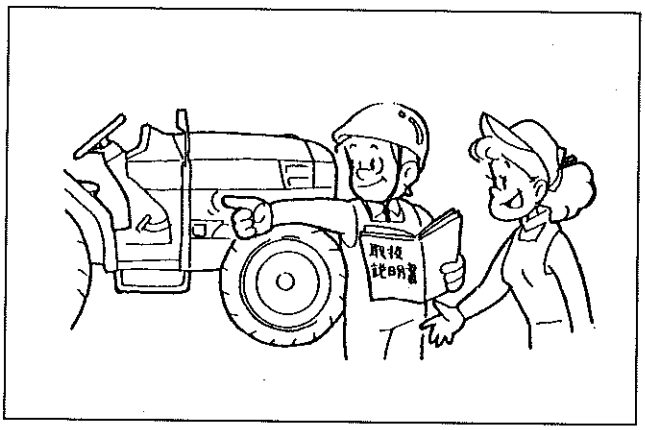
(4) このトラクタの運転には、小型特殊自動車の運転免許が必要です。運転中は、必ず運転免許証を携帯してください。



妊娠している人、18才未満の人は運転をしないでください。

■人に機械を貸すときは

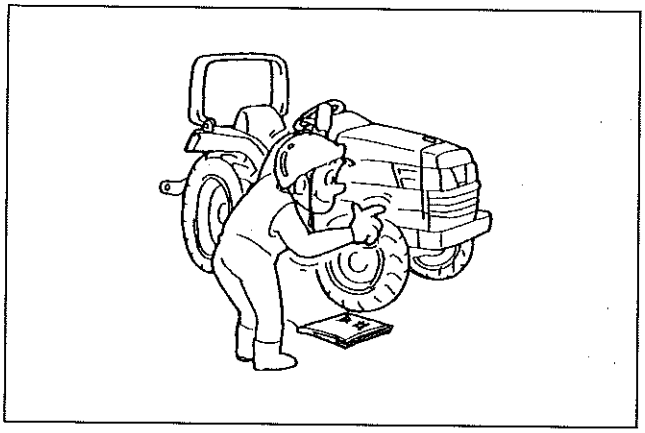
機械を貸すときは、取扱いの方法をよく説明し、使用前に取扱説明書を熟読するように指導してください。借りた人が、機械の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。



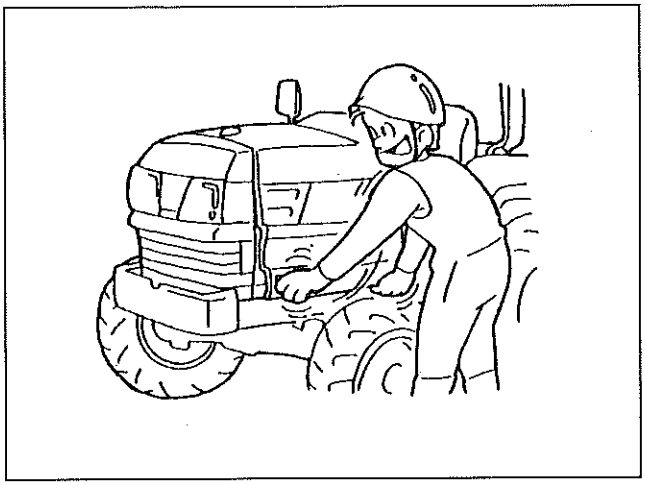
■作業を開始する前に

(1) 無理、無駄のないゆとりある作業計画をたてましょう。無理な作業計画は、あせりなどから思わぬ事故を引き起こすことがあります。

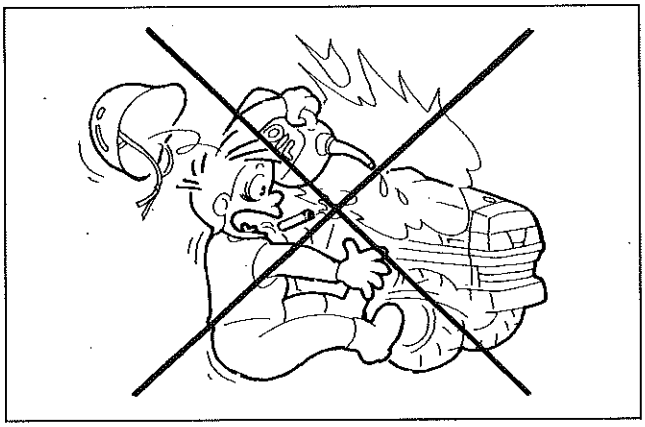
(2) 作業する前に、この取扱説明書を参考に必要な点検は必ず行なってください。
特に、ブレーキおよび主クラッチ関係は、忘れないでください。点検を怠ると、ブレーキの効きが悪かったり、クラッチが切れなかったりして、走行中や作業中の思わぬ事故につながります。



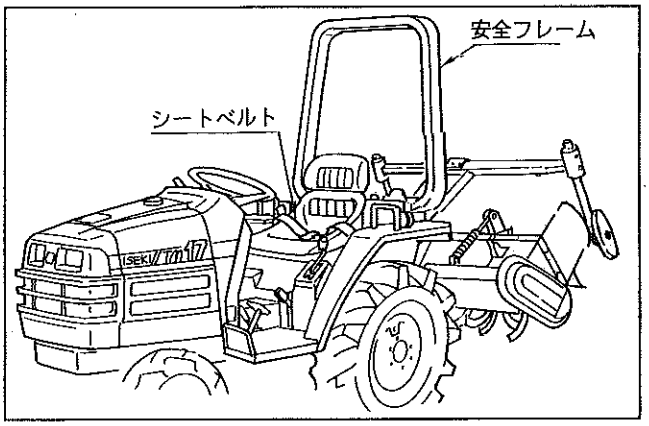
(3) 安全カバー類が外されたままになっていないか確認しましょう。外れたままエンジンをかけたり、作業を行なうと危険な部分が露出して大変危険です。



(4) 燃料を補給するときは、エンジン各部が十分冷えているのを確認してください。また、くわえタバコなどの火気厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になります。

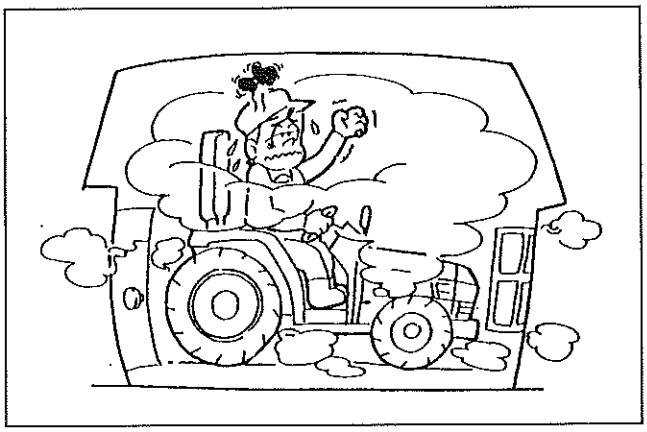


(5) トラクタを使用するときは、確実に安全フレームを立てた状態で装着し、必ずシートベルトを着用してください。
怠ると、転倒したときに重大事故を引き起こすことがあります。

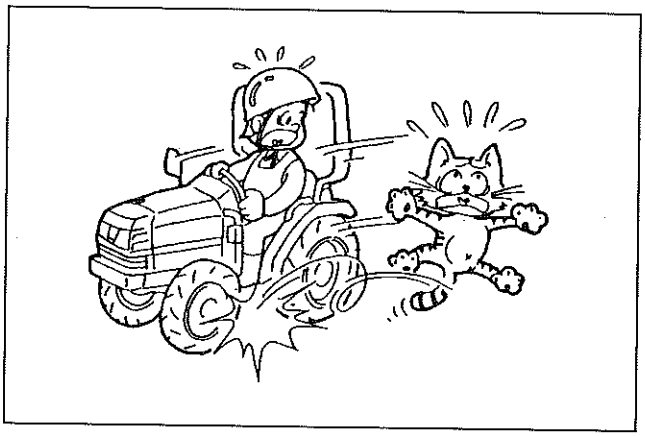


■エンジンの始動と発進

(1) 室内でエンジンを運転するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行なってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。



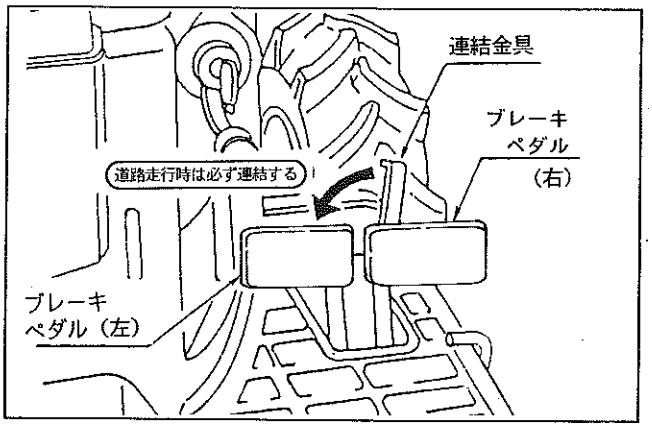
(2) エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行なってください。確認を怠ると、急発進したりして大変危険です。



(3) 発進するときは、周囲の安全を確認して、ゆっくり発進してください。急発進すると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。
(特に子供に注意してください。)

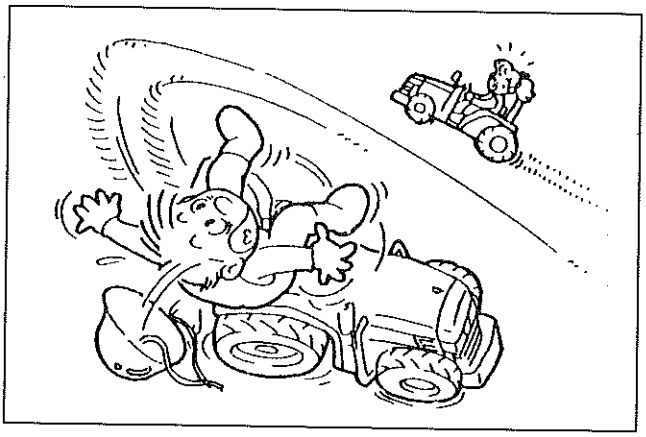
■走行するときは

(1) 道路走行するときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。連結を忘れると、ブレーキが片ぎきして、転倒事故を引き起こします。



(2) 道路走行するときは、デフロックペダルを解除してあるか確認してください。
解除していないと転倒事故を引き起こします。

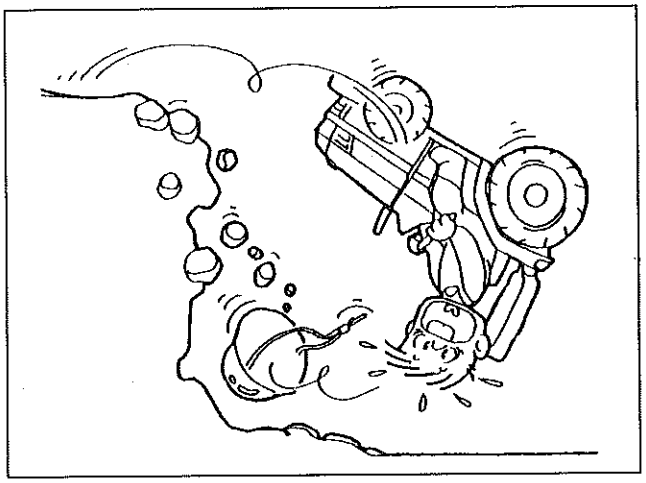
(3) 高速で急旋回しないでください。急旋回すると転倒事故につながり大変危険です。



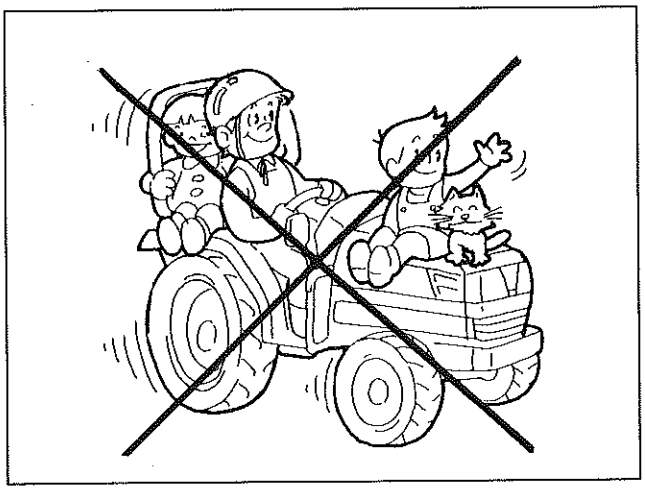
(4) 凹凸の激しい道路での高速走行は、しないでください。路面状態に応じた安全な速度で走行してください。
これを怠ると衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

(5) 坂道では、急な旋回をしてはいけません。
急旋回すると、転倒事故の原因になり大変危険です。
また坂道を上るときは、低速でゆっくりと、下るときは、エンジンブレーキをかけ、決して変速レバーを中立状態にしないようにしてください。足ブレーキの多用は、ブレーキを傷めるとともに、スリップや転倒の原因になり大変危険です。

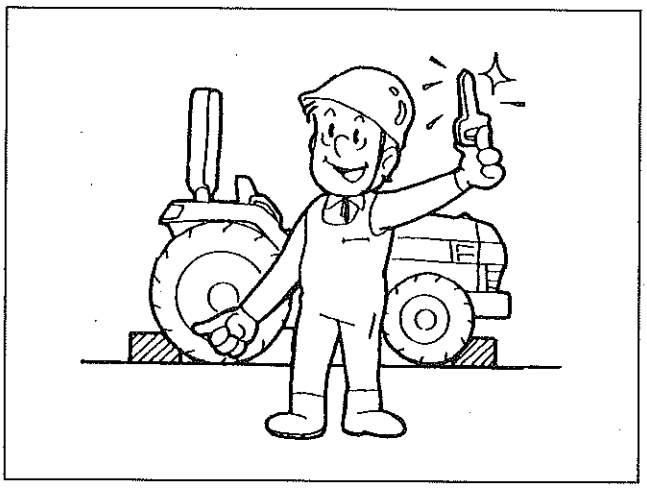
(6) 側溝のある農道や、両側が傾斜している農道を走行するときは、速度を落として十分注意して走行してください。路肩が崩れて、転倒したりして大変危険です。



(7) トラクタの上や連結部には、いかなる場合も、絶対に人は乗せないでください。
人が転落したりして大変危険です。



(8) トラクタから離れるときは、エンジンを停止し、キースイッチを抜き取り、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。
また、止めるところは、広い地面の硬い場所を選んでください。トラクタが、自然に動き出したりして大変危険です。



(9) トラクタを草やワラの上に止めて空吹かしをしたり、高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより、ワラなどに着火し火災の原因になる恐れがあります。

(10) 夜間にトラクタの運転をするときは、変速レバーやその他レバー・ペダル類の位置の確認を、特に注意して行なってください。十分な確認をしないと、予想外の作動をしたりして大変危険です。
夜間作業をされる方には、作業灯の装着をお勧めいたします。
道路走行中には絶対に作業灯は点灯しないでください。

■トラックへの積み・降ろし

(1) 積み込むトラックは、エンジンを止めて、変速を「１速」または「後進」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをして行なってください。これを怠ると、積み・降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあります。

(2) 誘導者を付けて、周囲の安全を十分確認して行なってください。また、機械の直前や直後には、絶対に立たないでください。傷害事故の原因になり大変危険です。

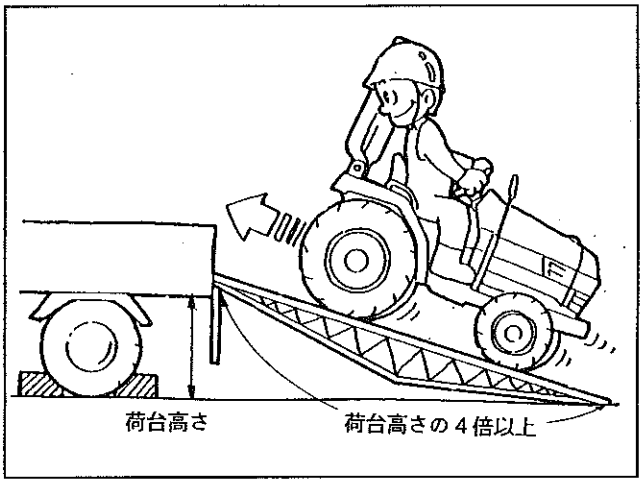
(3) 積み・降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミを使用し、直進性を見定めて、積み込みは「後進」、積み降ろしは「前進」で、ゆっくり行なってください。これを怠ると、転落事故の原因になり大変危険です。

(4) 積み・降ろし中は、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。
また、クラッチペダルを踏み込んだり、ブレーキペダルを踏み込んだりしてはいけません。機体が横ブレして、転落事故の原因になり大変危険です。

(5) 万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行なってください。

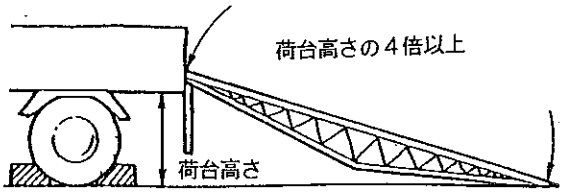
(6) トラック等で運搬するときは、必ずロープ等で荷台に固定してください。また、運搬中は、不必要な急発進・急旋回・急ハンドルをしてはいけません。機械が移動して大変危険です。

(7) アユミは、基準以上のものを使用し、トラクタの重量でアユミが傾かない場所を選んでください。



〈アユミの基準〉

○長さ



○ 幅 ：35cm以上
○強度：1000kg以上
○すべり止めの処理があること。

(8) アユミのフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。

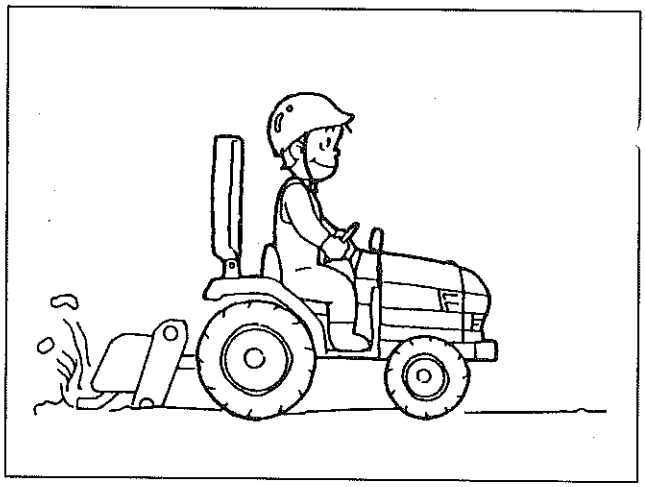
(9) 万一にそなえて、トラクタの周辺には人を近づけないでください。

(10) アユミから荷台に移る時、急に機体の角度が変わりますので、十分注意してください。

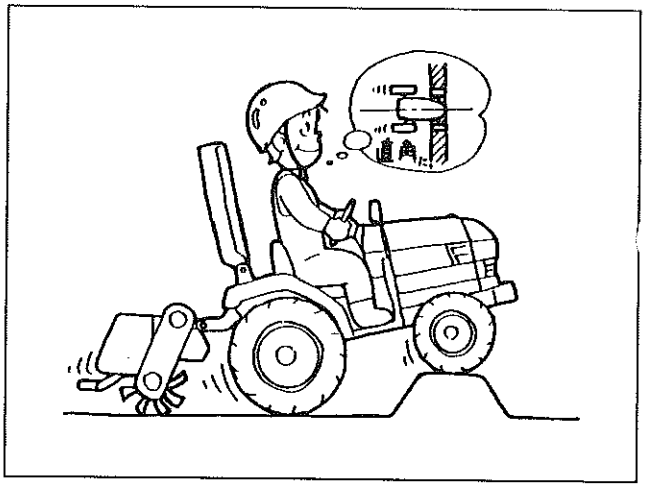
■作業中は

(1) 作業中は、作業者以外の人を機械に近づけてはいけません。機械自体や、作業による飛散物等で、傷害事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

(2) 作業を開始するときは、周囲の安全を確認し、特に補助者とともに作業するときは、ホーン等で合図してから行なってください。怠ると、傷害事故の原因になり大変危険です。

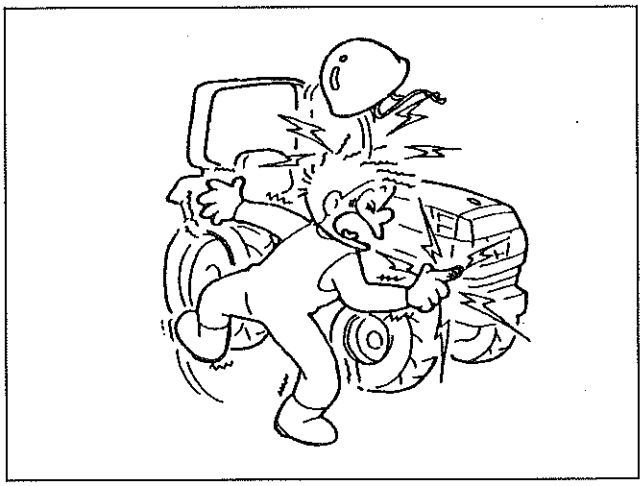


(3) 畦を横断するときは、作業機の回転を止め作業機を低くして低速で、畦と直角にゆっくり走行してください。斜めになると、スリップや転倒の原因になり大変危険です。



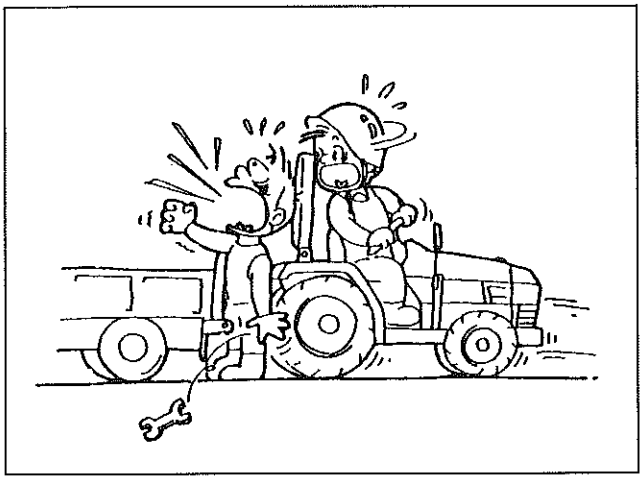
(4) 畦の高さが高いところでのほ場の出入りでは、必ずアユミを使用してください。
使用しなかった場合、衝撃で機械を破損させたり、転倒することがあり大変危険です。

(5) 回転部や作業部・マフラ・ラジエータ・エンジン等の過熱部、バッテリ端子などの通電部など危険な箇所には、手を触れないようにしてください。傷害事故の原因となり大変危険です。



(6) けん引作業は、トラクタ用純正ドローバを使用してください。けん引はこのトラクタに合った作業機を使用してください。適切でない作業機をけん引すると傷害事故の原因になり大変危険です。
不明な点がありましたら、購入先に相談し、無理なけん引は避けてください。

(7) 作業機の取付け取外しは、トラクタと作業機の間に立ってしないで、脇から扱うようにしてください。トラクタと作業機の間にはさまれたりして、傷害事故を起こす恐れがあり大変危険です。

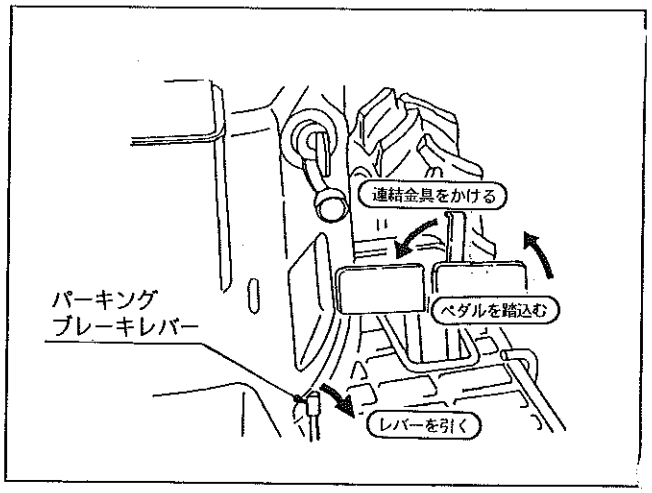


(8) 夜間作業をされる方には作業灯の装着をお勧めいたします。
道路走行中には絶対に作業灯を点灯しないでください。

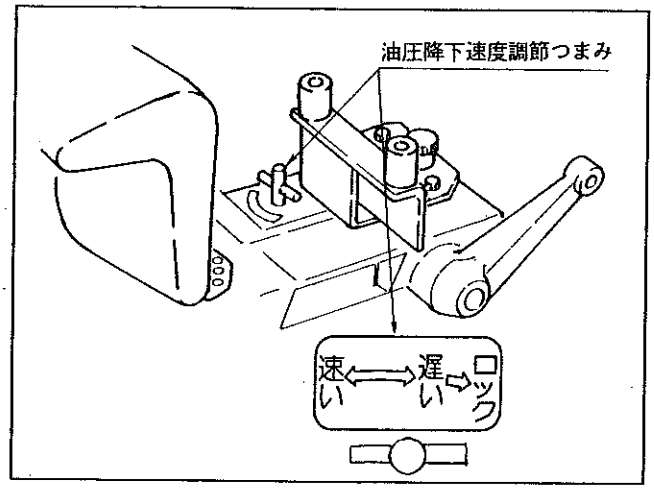
■点検・整備

(1) 点検・整備するときは、明るく平たんな広い場所で行なってください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(2) 必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけ、油圧降下速度調節つまみを回して油圧をロックしてから行なってください。怠ると手や衣服が巻きこまれたり、はさまれたりして大変危険です。



「ロック」 ……つまみを時計方向にいっぱい回します。



(3) 適正な工具を正しく使用して行なってください。間に合わせの工具で行なうと、整備中の傷害事故や整備不良による思わぬ事故を引き起こし大変危険です。

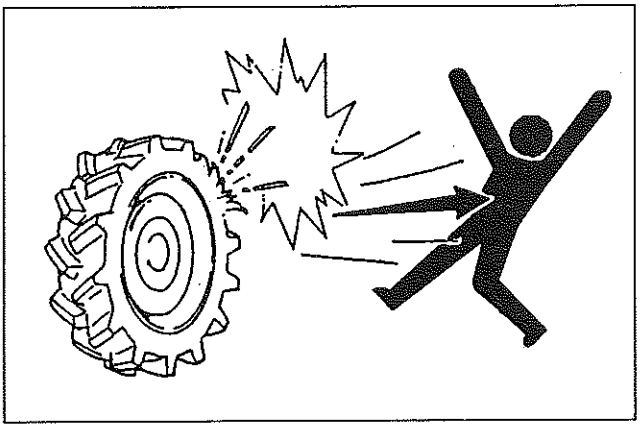
(4) エンジンを切ってすぐに、点検・整備をしてはいけません。エンジンなどの過熱部分が、完全に冷えてから行なってください。怠ると、やけどなどの原因になります。

(5) ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。運転停止後10分以上たってよく冷えてから注意しつつ開けてください。怠ると、熱湯が噴出してやけどをする危険があります。

(6) 指定以外のアタッチメントの取付けや、改造は、絶対にしてはいけません。
故障や、事故の原因になり大変危険です。

(7) 点検・整備で取外した安全カバー類は、必ず元の通りに取付けてください。外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因になり大変危険です。

■タイヤ・ホイールの取扱い

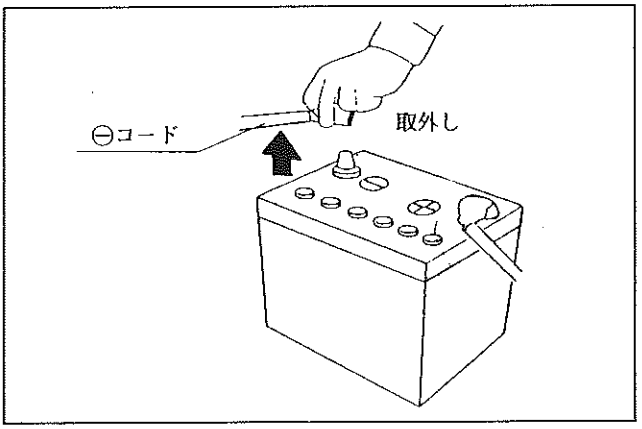


(1) タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。(P73参照)
空気の入れ過ぎは、タイヤ破損のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。

(2) タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。
タイヤの破損のおそれがあります。

(3) タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は、必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように、法で決められています。）

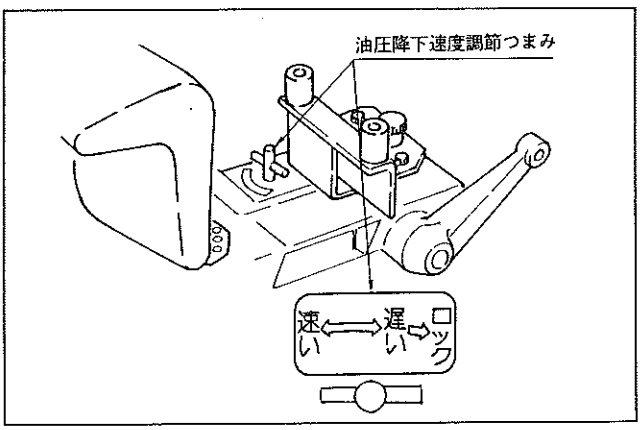
■格納・保管時は



(1) 作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です。

(2) 長期格納する場合は、バッテリケーブルを外しておいてください。外しておかないと、ネズミ等がかじって、ケーブルがショートし、発火して火災の原因になり大変危険です。

■耕うん爪の点検や交換時



(1) エンジンを止めてください。

(2) 油圧降下速度調節つまみを時計方向にいっぱい回して「ロック」の位置にしてください。

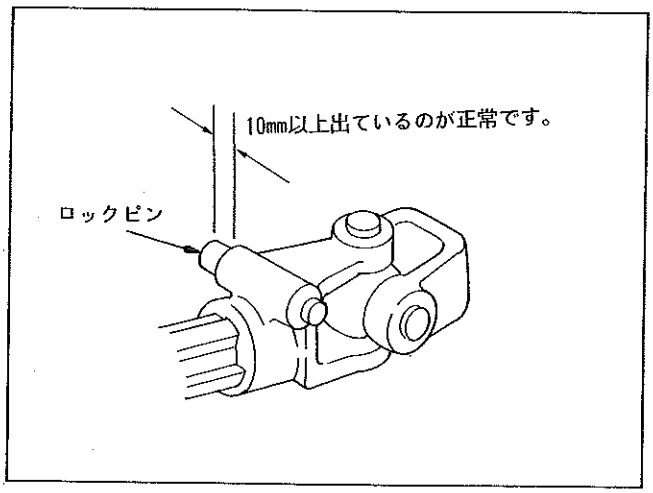
(3) 駐車ブレーキをセットしてください。

■ロータリの着脱・調整時

(1) トラクタを移動してロータリを装着する場合は、平たんな所で低速で行ないトラクタの後輪とロータリの間に立たないでください。トラクタとロータリにはさまれたりして、傷害事故を起こす恐れがあり、大変危険です。

(2) 必要以外はエンジンを止めてください。

(3) ユニバーサルジョイントのロックピンが外れていないか確認してください。



■運転・作業時

(1) ユニバーサルジョイントや、爪軸等の回転部分には、手や体を近づけないでください。
衣類などがまきこまれて、大きな傷害事故を起こす恐れがあり大変危険です。

(2) ロータリの上には乗らないでください。

(3) ロータリを持上げ、バック及び急旋回する時は、必ず周囲の安全を確認してから行なってください。

安全表示ラベルについて

●本機には、安全に作業をしていただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。必ずよく読んで、これらの注意に従ってください。

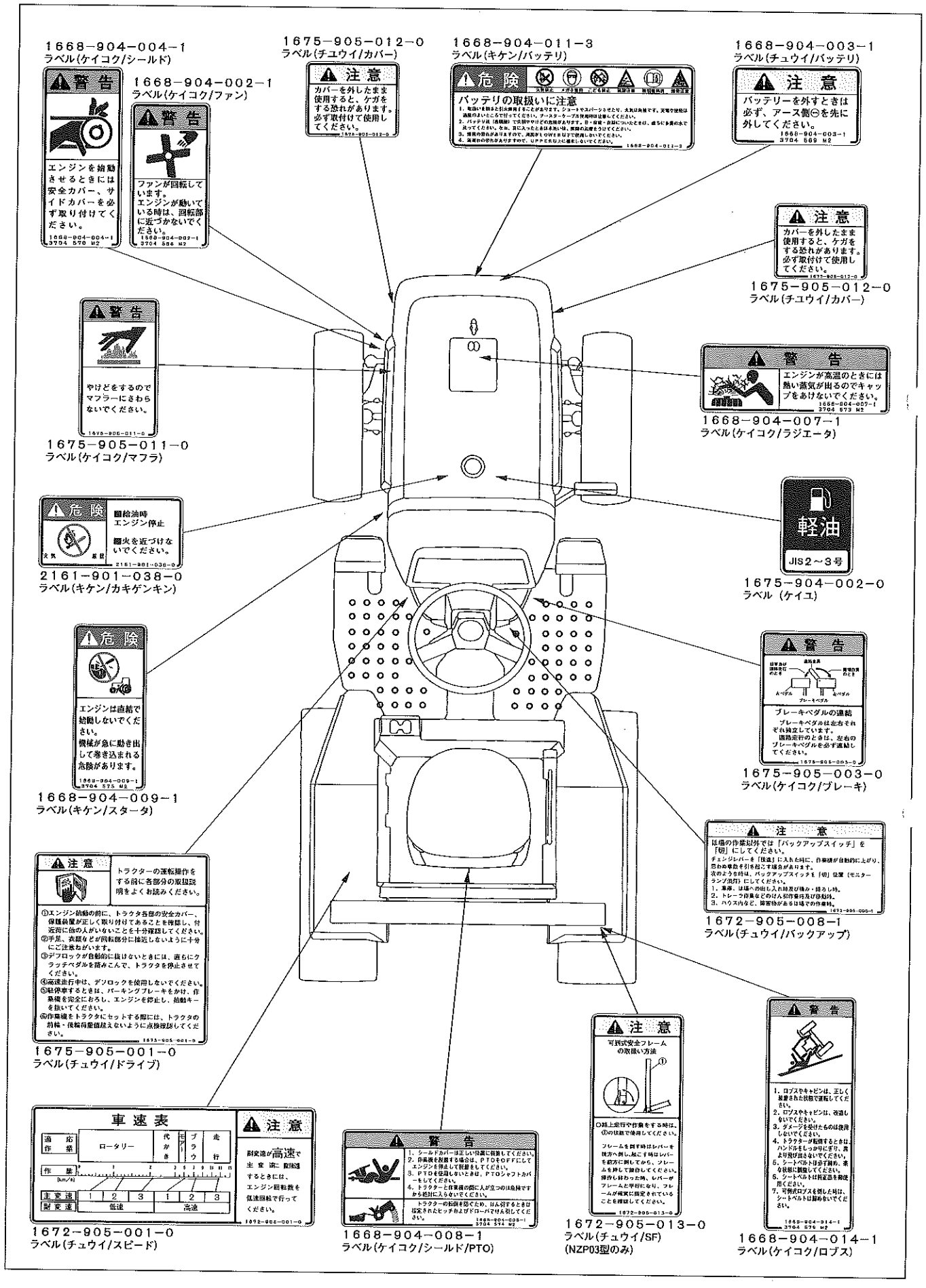
●安全表示ラベルが破損したり、なくなったり読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。

●泥等が付いた場合は、きれいに拭きとり、いつでも読めるようにしてください。

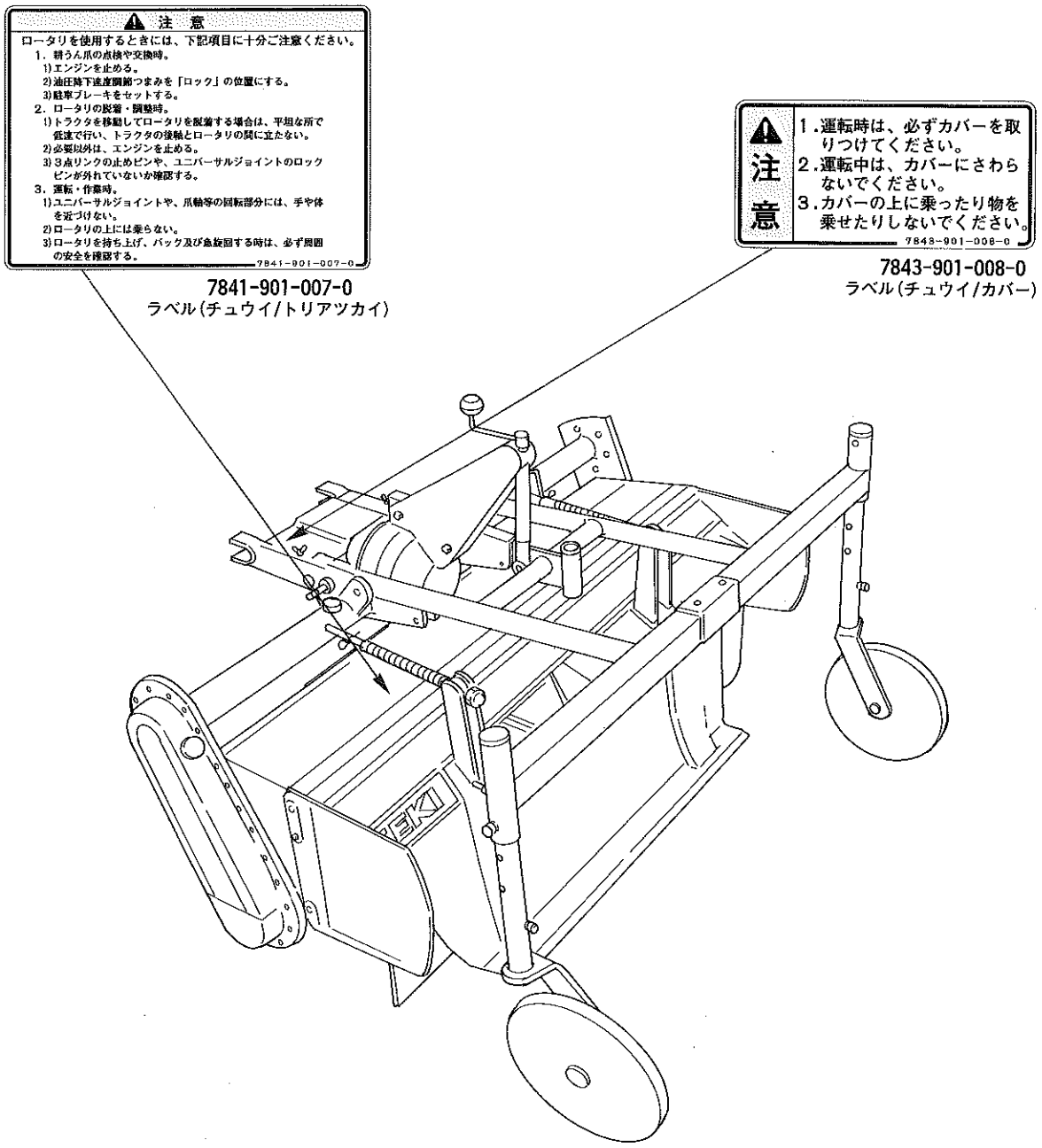
●安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合、同時に安全表示ラベルもお買いあげいただいた販売店・農協へ注文してください。

●高圧洗浄機で洗車すると、圧力水によりラベルがはがれるおそれがあります。
圧力水を直接ラベルにかけないでください。

安全表示ラベル貼付位置



ロータリ

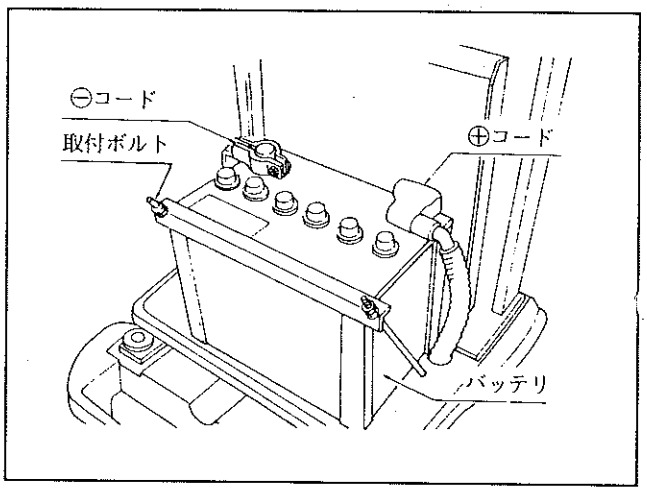

⚠ 注 意
ロータリを使用するときには、下記項目に十分ご注意ください。
1. 耕うん爪の点検や交換時。
1)エンジンを止める。
2)油圧降下速度調節つまみを「ロック」の位置にする。
3)駐車ブレーキをセットする。
2. ロータリの脱着・調整時。
1)トラクタを移動してロータリを脱着する場合は、平坦な所で低速で行い、トラクタの後軸とロータリの間に立たない。
2)必要以外は、エンジンを止める。
3)3点リンクの止めピンや、ユニバーサルジョイントのロックピンが外れていないか確認する。
3. 運転・作業時。
1)ユニバーサルジョイントや、爪軸等の回転部分には、手や体を近づけない。
2)ロータリの上には乗らない。
3)ロータリを持ち上げ、バック及び急旋回する時は、必ず周囲の安全を確認する。
7841-901-007-0
7841-901-007-0
ラベル(チュウイ/トリアツカイ)
⚠ 注意
1.運転時は、必ずカバーを取りつけてください。
2.運転中は、カバーにさわらないでください。
3.カバーの上に乗ったり物を乗せたりしないでください。
7843-901-008-0
7843-901-008-0
ラベル(チュウイ/カバー)

電装関係を取扱うときは

■電気配線点検時の注意事項

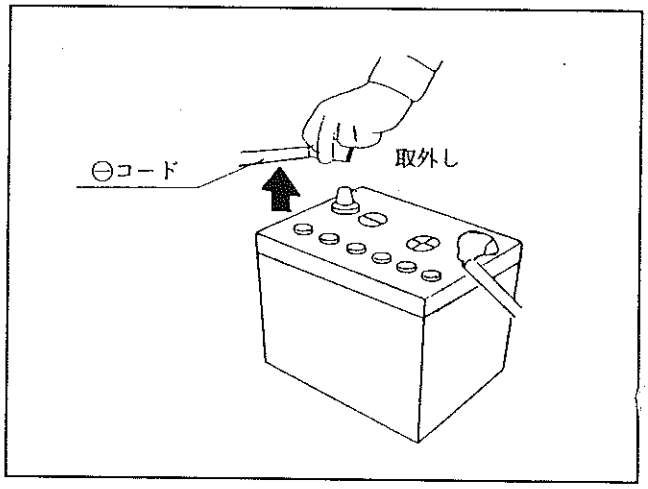
(1) 電気配線の点検は、必ずエンジンを停止して行なってください。エンジンをかけた状態での点検は、手や衣服を回転部に巻き込まれたりして大変危険です。

(2) 接続部の点検は、メインスイッチを「停止」位置にし、バッテリの㊀コードを外して行なってください。これを怠ると、火花がとんだり、感電したり思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



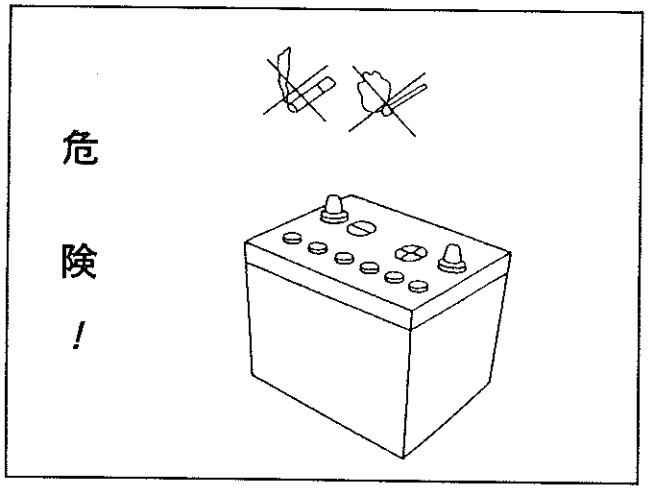
(3) 配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり火災事故になる恐れがあり大変危険です。傷んだ配線は、早めに交換・修理してください。

(4) バッテリ、電気配線およびマフラやエンジン周辺部のワラくず・ゴミなどは、取り除いてください。これを怠ると火災の原因となります。



■バッテリ取扱い時の注意事項

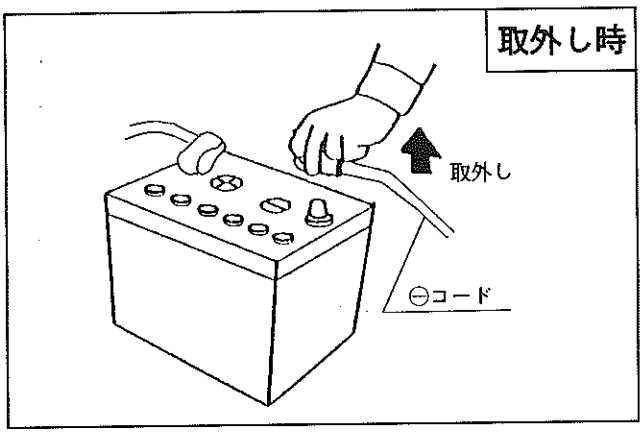
(1) ショートやスパークさせたり、たばこ等の火気を近づけないでください。また充電や使用は、通風のよいところで行なってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。

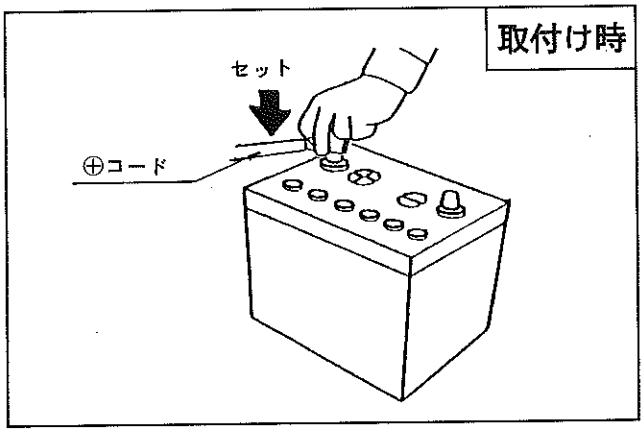


(2) バッテリ液（電解液）は、希硫酸で劇毒物です。バッテリ液を体や服につけないようにしてください。失明ややけどをすることがあり大変危険です。もし目・皮膚・服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

(3) バッテリの脱着および点検をするときは、エンジンを停止し、メインスイッチを「停止」位置にしてください。これを怠ると、電気部品を損傷したり、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(4) バッテリコード（端子）を取外すときは、⊖コードを先に外します。バッテリコードを取付けるときは、⊕コードを先に取付けます。これを怠るとショートして火花がとんだりして危険です。





■ブースタケーブル使用時の注意事項

ブースタケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。

(1) バッテリの補水キャップを取外してから接続してください。補水キャップが取外してあれば、万一引火しても爆発力は低下しますので、被害は少なくなります。

(2) ブースタケーブル接続前には、エンジンを停止してください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(3) ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。通電容量が小さすぎると、ブースタケーブルが熱をもったり、焼損したりして危険です。

安全フレームの取扱い

安全な作業をしていただくために、安全フレームの取扱いには特に注意して、「安全な作業をするために」の章とあわせてよくお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

⚠ 警告

(1) 安全フレームは、正しく装着された状態で運転してください。トラクタを使用するときは、確実に安全フレームを垂直にした状態で装着し、必ずシートベルトを装着してください。これを怠ると、転倒したときに重大事故を引き起こすことがあります。

(2) 安全フレームの改造はしないでください。改造すると安全フレームとしての機能がなくなり、転倒したときに重大事故を引き起こすことがあります。

(3) 万一事故により安全フレームが変形したり損傷した場合は、「曲げたり、溶接したり」の修理をしないで新しい純正部品と交換してください。これを怠ると安全フレームとしての機能がなくなり、転倒したときに重大事故を引き起こすことがあります。

(4) 万一トラクタが転倒したときは、ハンドルをしっかりにぎり、座席より飛び出さないでください。これを怠るとトラクタの下敷きになったりして、重大事故を引き起こします。

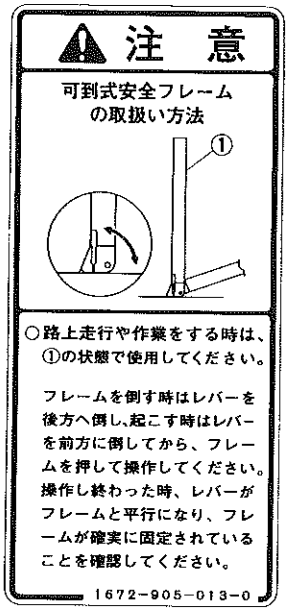
(5) 高さに限度のある屋内、果樹園、ハウス等での作業は安全フレームを後方にたおすことができますが、この状態では体を保護することができませんのでシートベルトを着用しないでください。

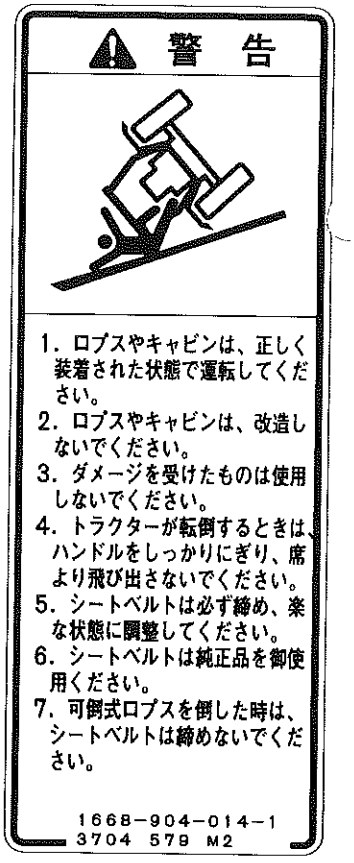
重要

●安全フレームをたおすときは、安全フレームと作業機のスキマを確保してください。作業機をゆっくりと最大高さまで上げて確認してください。

尚、作業機とのスキマは最大上げの状態で、十分確保してください。

（目安10cm）





安全フレームのたおしかた・おこしかた

安全フレームを「たおす」または「おこす」ときは、次の要領で行なってください。

■たおしかた

(1) 安全フレームを片手で支えて、ロック解除レバー(左右各１カ所)を車体後方へ止まるまで回してください。

(2) 安全フレームを後方へたおしてください。

(3) ロック解除レバーが自動的に回転し、安全フレームがロックされます。

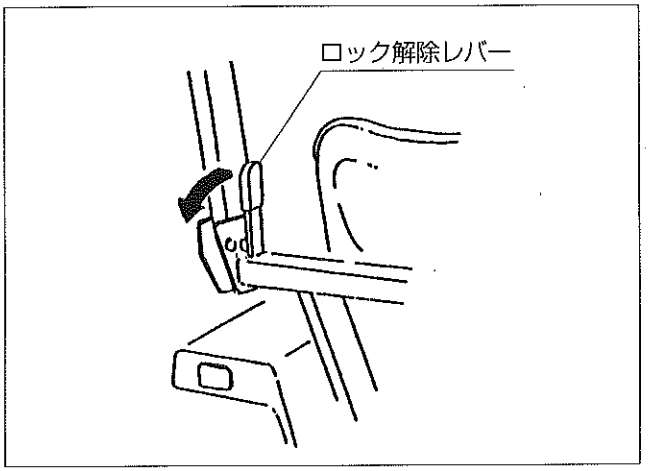
(4) 安全フレームを前後に押し、フレームが確実にロックされていることを確認してください。

⚠ 警告

高さに限度のある屋内、果樹園、ハウス等以外は、必ず安全フレームを垂直に「おこして」使用してください。安全フレームを「たおした」状態では、安全フレームとしての機能はありませんので、転倒時には重大事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

⚠ 注意

安全フレームを「たおす」または「おこす」ときは平たんな場所でパーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを停止して行ってください。



■おこしかた

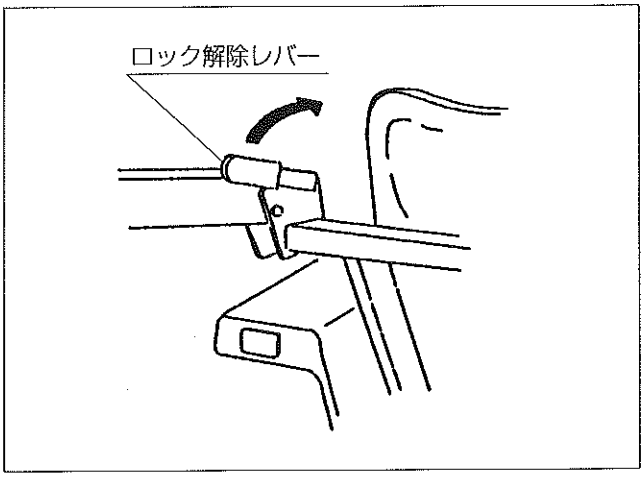
(1) 安全フレームを片手で支えて、ロック解除レバー(左右各１カ所)を車体前方へ止まるまで回してください。

(2) 安全フレームをおこしてください。

(3) ロック解除レバーが自動的に回転し、安全フレームがロックされます。

(4) ロック解除レバーが、安全フレームと平行になることを確認してください。

(5) 安全フレームを前後に押し、フレームが確実にロックされていることを確認してください。



保証とサービス

■商品の保証

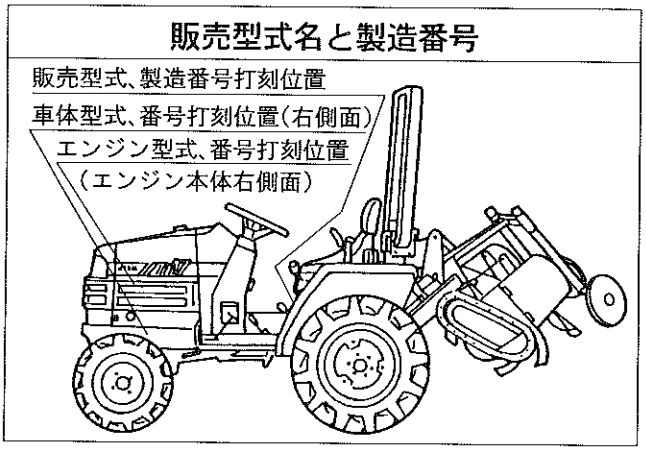
この商品には、ヰセキ保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

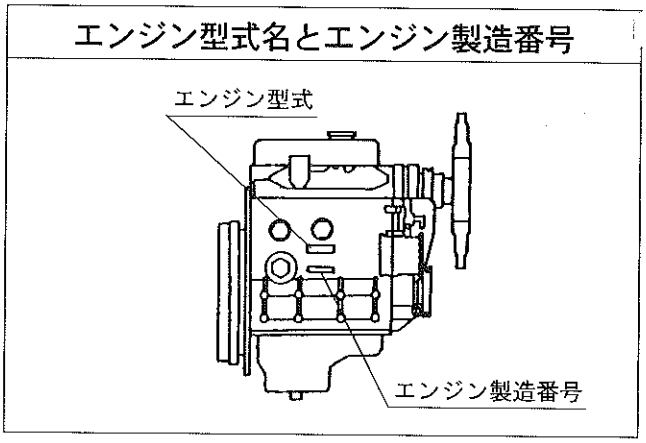
■サービスネット

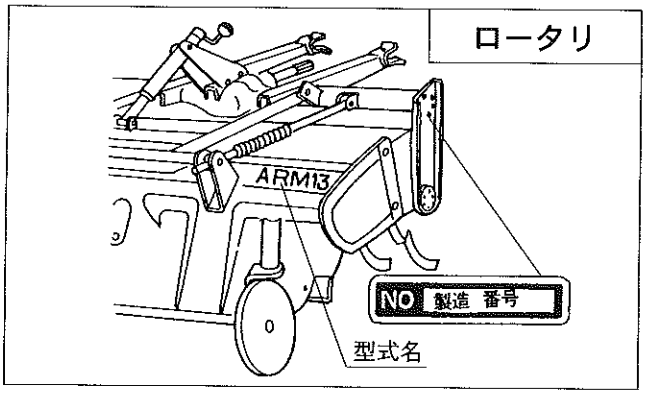
ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店、農協へお気軽にご相談ください。
その際、

(1)　販売型式名と製造番号(本機、ロータリ共)
(2)　エンジン型式名とエンジン製造番号

を併せてご連絡ください。







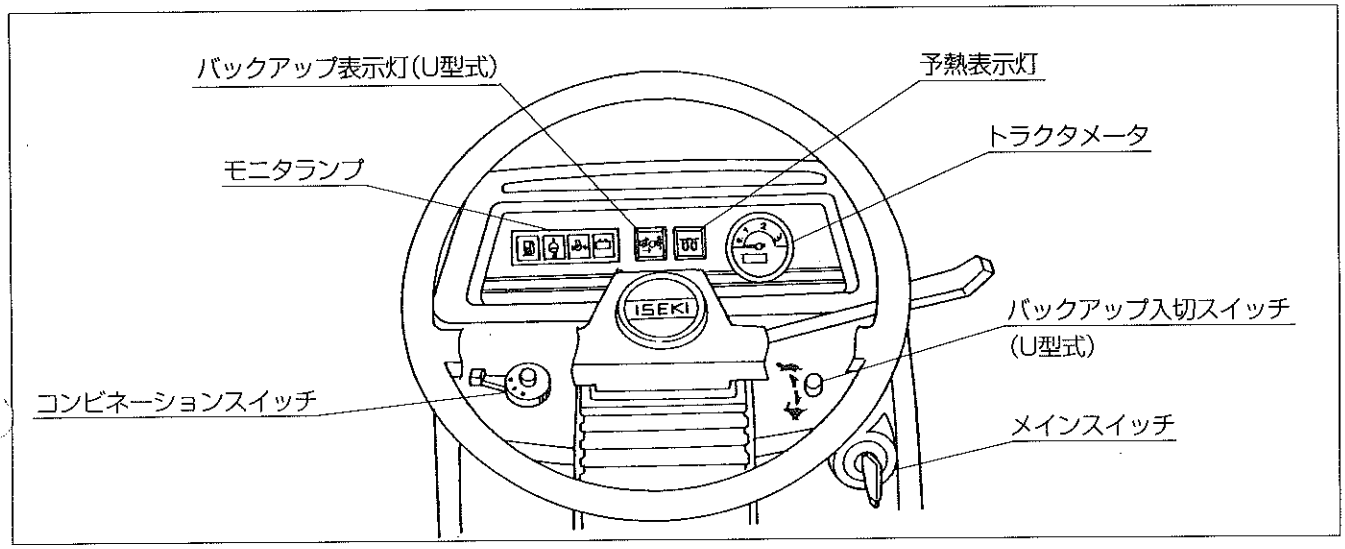
■補修用部品供給年限について

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後トラクタ本機は12年、ロータリは9年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

各部の名称とはたらき

計器およびスイッチの取扱い

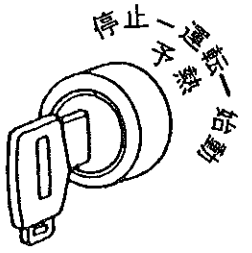


■メインスイッチ

停止……エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置

運転予熱……予熱位置、およびエンジン回転中の位置

始動……クラッチペダルをいっぱいに踏込んで、エンジンを始動する位置。
手を離せば自動的に「運転・予熱」位置に戻ります。



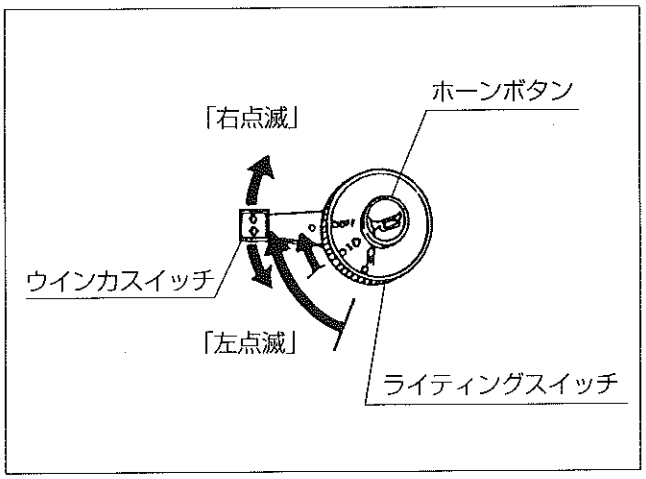
■コンビネーションスイッチ

▶ライティングスイッチ

OFF ……ヘッドランプ消灯位置

≡D ……ヘッドランプ上向き照射位置

≡D ……ヘッドランプ下向き照射位置



▶ウインカスイッチ

(1) スイッチを操作すると、ウインカランプが点滅します。

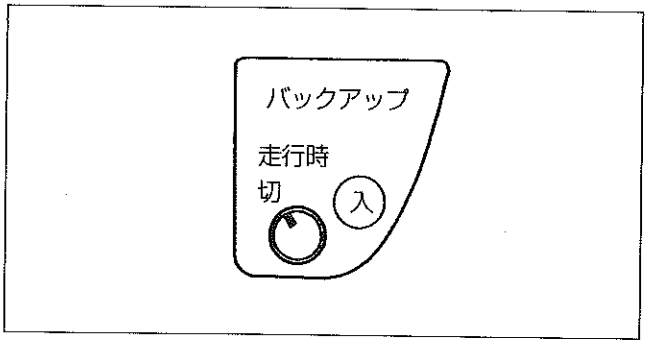
(2) 右折または左折が終わったら、スイッチを中央に戻しましょう。

▶ホーンボタン

メインスイッチを「運転・予熱」位置にし、ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

▶バックアップスイッチ(U型式)

バックアップスイッチを「入」にするとバックアップ表示灯が点灯し、主変速レバーを「後進」位置にすると自動的に作業機が上昇します。
バックアップスイッチを「切」にするとバックアップ表示灯は消灯し、バックアップ装置は働きません。



重要

- **上げ規制の必要な作業機を装着した場合は、バックアップスイッチを「切」にしてください。もし守らない場合は、作業機等が破損します。**
- **可倒式ロプス型式(P1型)の場合は必ずロプスを起こした状態でバックアップスイッチを「入」にしてください。**

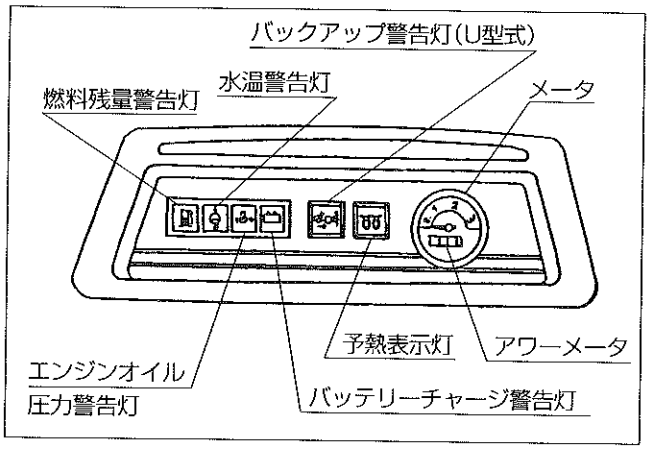
■トラクタメータ

▶メータ

エンジン回転数、および最高速度段の走行速度を示します。

▶アワーメータ

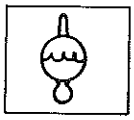
積算時間は、4桁になっています。
最後の1桁は、1/10時間を示します。



■モニタランプ

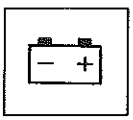
▶水温警告灯

メインスイッチが「運転・予熱」位置にし、ラジエータの温度がオーバーヒートすると点灯します。点灯したときはオーバーヒートの状態ですから「不調時の処置」の項を参照してください。



▶バッテリチャージ警告灯

エンジン運転中充電しているとランプが消えます。

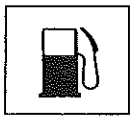


▶エンジンオイル圧力警告灯

エンジン回転中、潤滑系統が異常のとき点灯して警告します。
点灯したままのときは、エンジンオイル量および潤滑油系統を点検してください。

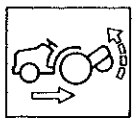
▶燃料残量警告灯

燃料残量が極少量になると点灯します。



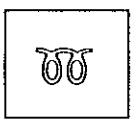
▶バックアップ表示灯(U型式)

U型式の場合、バックアップスイッチを「入」にすると、点灯します。バックアップ装置が使用可能状態にあることを表示します。

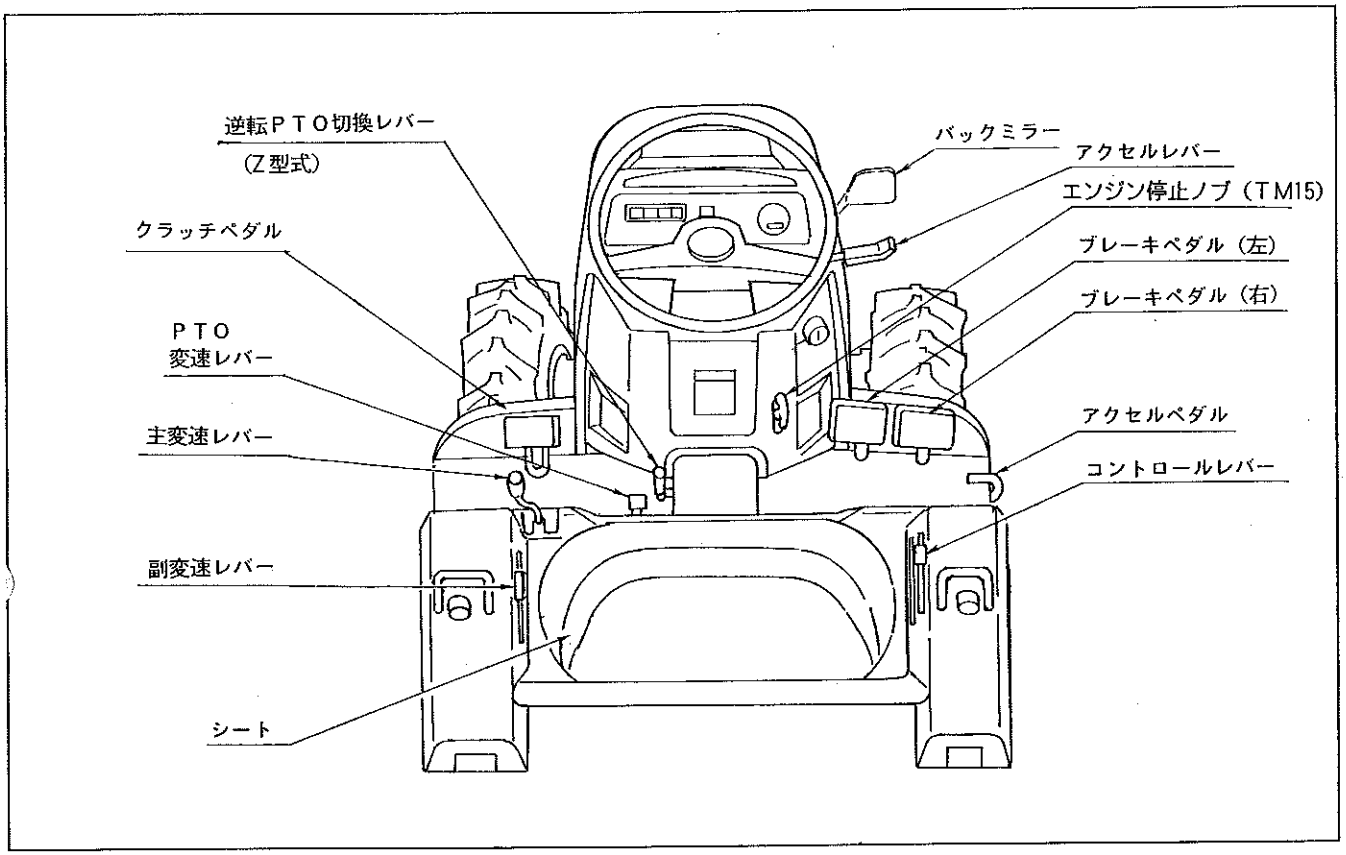


▶予熱表示灯

予熱作動中に点灯します。
(詳細は32ページを参照してください。)



レバー、ペダル、シート関係の取扱い



■アクセルレバーとアクセルペダル

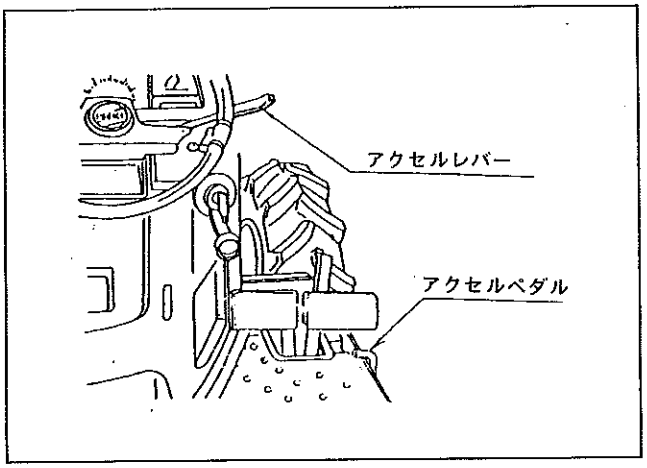
▶アクセルレバー

エンジンの回転数を制御するレバーです。

・手前に引くと高速回転になります。

・前方に押すと低速回転になります。

主に農作業時に使用します。



▶アクセルペダル

アクセルペダルは、アクセルレバーと連動しており、

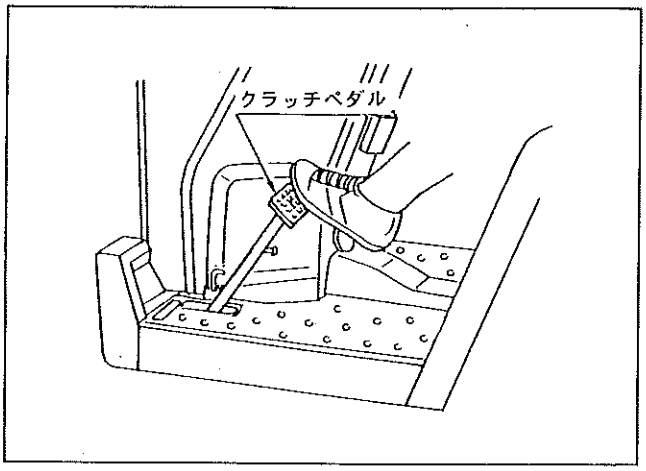
ペダルを踏込む ……エンジン回転が上がります。

ペダルから足を離す ……アクセルレバーのセット位置まで戻ります。

主に道路走行時に使用します。

■クラッチペダル

ペダルを踏込む ……クラッチが切れます。
ペダルから足を離す‥クラッチがつながります。

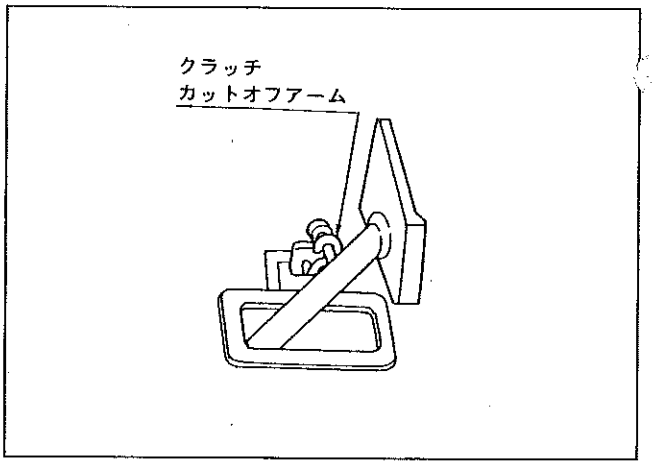


重要

- **クラッチペダルは、切るときは早く、つなぐときはゆっくりと操作してください。**

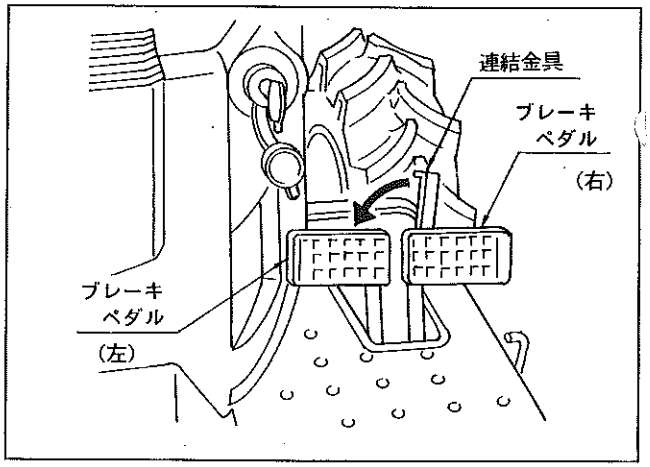
■クラッチカットオフアーム

長期格納時は、クラッチ保護のため、クラッチを切った状態にしておきます。
クラッチペダルを踏み、アームを引っかけてください。



■ブレーキペダル

ブレーキペダルは、左右それぞれ独立しています。左側を踏込むと左側の後輪、右側を踏込むと右側の後輪にブレーキがかかります。

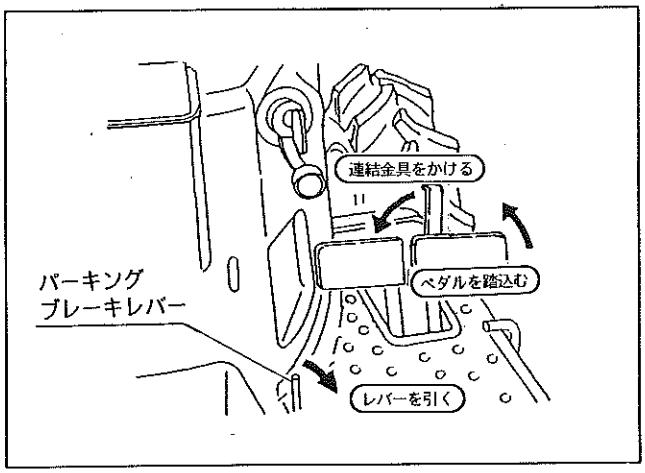


警告

道路走行するときは、必ず左右のブレーキを「連結」してください。またブレーキは必ず左右同時に利くよう定期的に点検してください。
「連結」を忘れると、ブレーキが片利きして衝突・転倒事故を引き起こします。

■パーキングブレーキレバー

左右のブレーキペダルを連結し、ペダルをいっぱい踏みレバーを矢印方向に「引いて」固定してください。
ブレーキペダルを強く踏めば、パーキングブレーキは自動的に解除されます。



注意

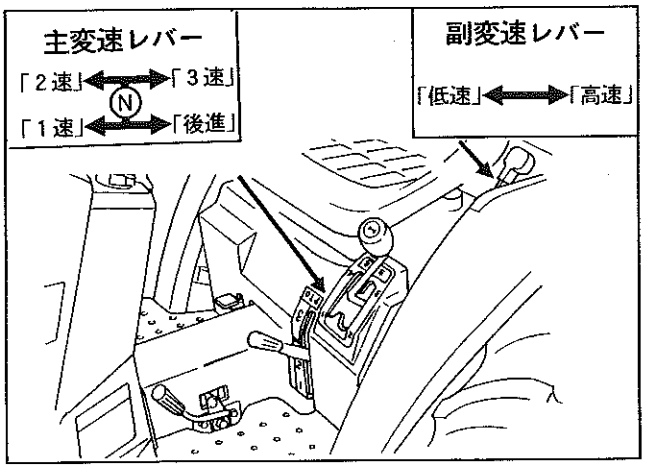
駐車時、停車時には必ずパーキングブレーキを確実にかけてください。これを怠るとトラクタが自然に動き出したりして大変危険です。

重要

- **パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキを傷めます。**

■主変速レバー

前進３段後進１段の変速ができ、副変速レバーとの組み合せにより、前進６段後進２段の変速ができます。



■副変速レバー

低速、高速の２段変速ができます。

重要

- **各シフトレバーは、クラッチペダルを踏みトラクタが完全に停止してから操作してください。走行中に変速するとミッションの損傷につながります。**

■ＰＴＯ変速レバー

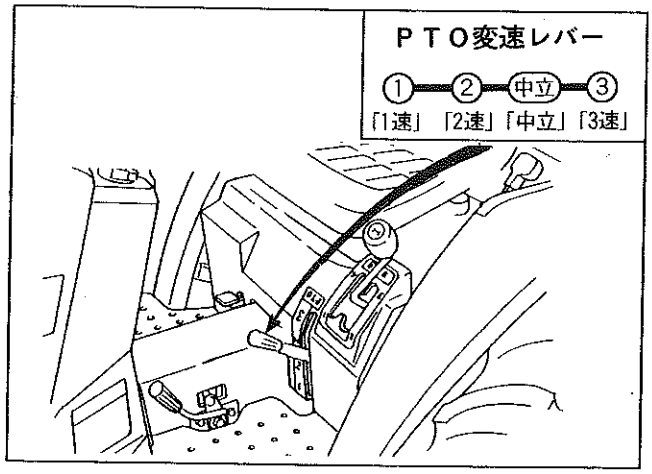
ＰＴＯ軸（動力取出し軸）の回転速度は、レバー操作により、３段階に変速できます。

「中立」……中立になります。

「１」……荒起し耕うん作業をします。

「２」……通常耕うんをします。

「３」……砕土耕うん作業をします。



注意

低速回転で使用すべき作業機を高速回転で使用しないでください。作業機に指定されたＰＴＯ回転速度を厳守してください。これを怠ると作業機を破損したり、思わぬ事故の原因になります。

重要

ＰＴＯ変速レバーは、必ずクラッチペダルを踏込んで、ＰＴＯ軸回転が完全に停止してから行なってください。入りにくい場合は、もう一度クラッチペダルを踏み直してから操作してください。

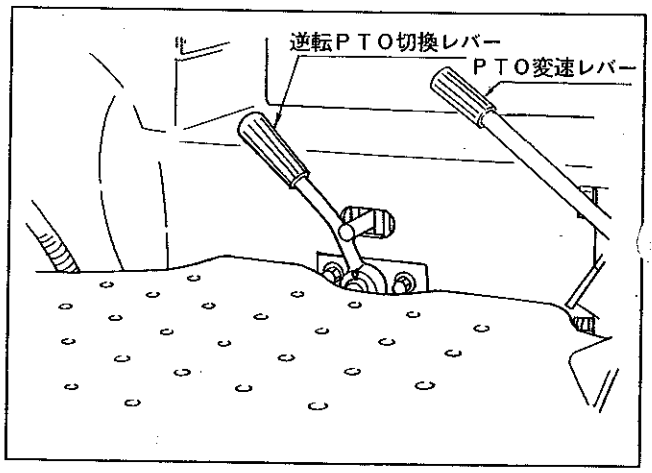
■逆転ＰＴＯ切換レバー（Ｚ型式）

ＰＴＯ軸の回転方向を逆転することができます。

(1) ＰＴＯ変速レバーを「中立」位置に操作後、クラッチペダルを踏んでから、レバーを「逆転」位置にするとＰＴＯ軸は逆転します。

(2) ほ場の四隅に土がたまった場合の土寄せ作業に威力を発揮します。

(3) 逆転ＰＴＯを使用しない時は逆転ＰＴＯレバーは必ず「正転」位置にしてください。



注意

逆転でロータリ作業機を使用するときは、エンジン回転は低くしてお使いください。これを怠ると土・小石等が飛散して周囲の人や作業者に危害を及ぼす恐れがあります。

重要

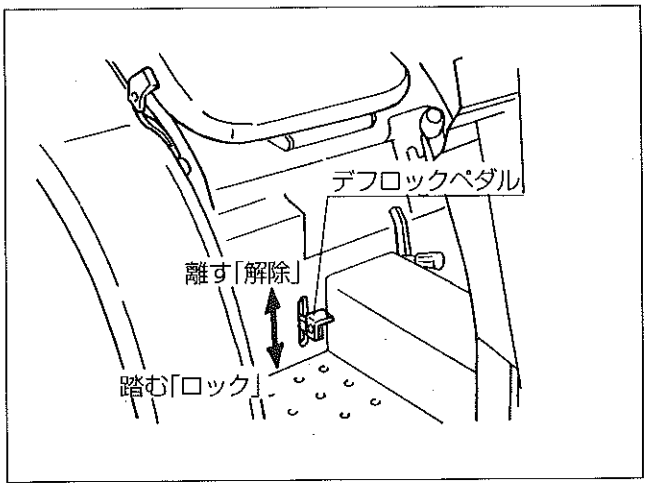
- 逆転での未耕地耕うん作業は行なわないでください。
- 逆転での作業を終えた後、爪の増し締めを行なってください。
- 使用法を誤るとトラクタ・作業機の故障の原因となります。

■デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動する装置で、片側の後輪がスリップしたとき、ペダルを踏込めばスリップが防止できます。

ペダルを踏込む…… ロックされます。

ペダルから足を離す… 自動的にロックが外れます。外れない場合は、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。



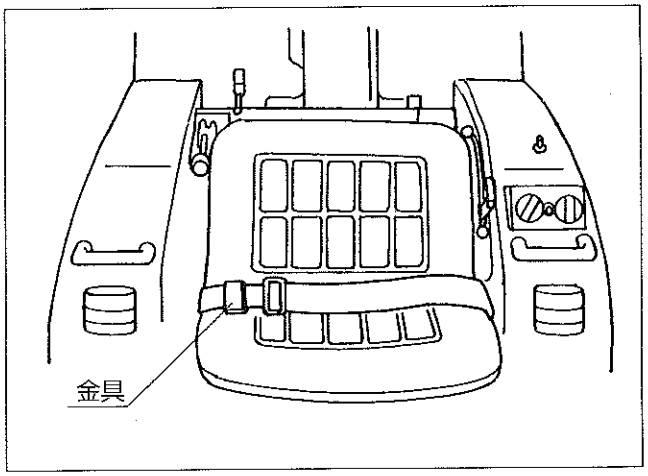
⚠ 警告

(1) 道路走行するときは、でフロックペダルを解除してあるか確認してください。これを怠ると衝突・転倒事故を引き起こします。

(2) デフロックを入れたままで旋回しないでください。これを怠ると衝突・転倒事故等につながり大変危険です。

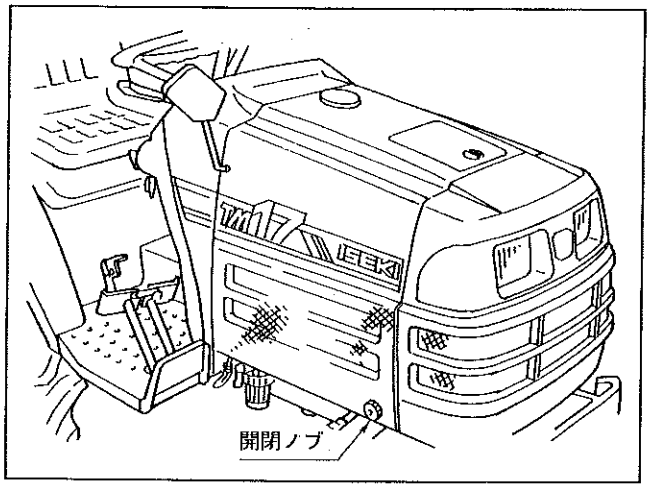
■シートベルト(P型式、P1型式)

安全フレーム機にはシートベルトがついています。体形に合わせてベルトの長さを調節し、金具を押込み装着します。外すときは金具の中央の部分を押すと外れます。



■サイドカバー

エンジンルーム左右のサイドカバーは、カバー前下部のノブを反時計まわりにまわしてはずし、手前に引いた後に持上げるようにして外してください。



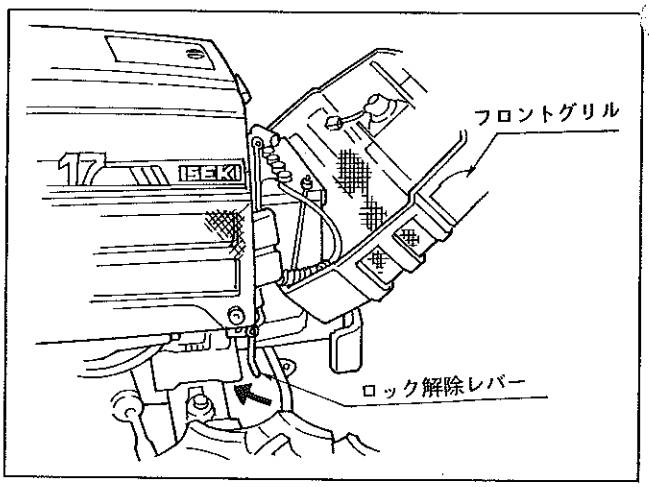
■フロントグリルの開閉

(1) ボンネット右下部のレバーを後方向に引くとロックが解除されます。

(2) ヘッドランプの配線部カプラ（２箇所）を外します。

(3) フロントグリルを少し持ち上げ下部の差し込みが抜けたら、手前に引けばフロントグリルは取外せます

(4) 取付けるときは逆の順序で行ないます。



作業前の点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
始業点検は毎日欠かさず行なってください。

警告
必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけ、油圧降下速度調節つまみを回して油圧をロックしてから行なってください。怠ると手や衣服が巻きこまれたり、はさまれたりして大変危険です。

■点検は次の順序で実施してください。

参照ページ

(1)前日、異常のあった箇所
(2)トラクタの回りを歩いて
- タイヤの空気圧、及び摩耗、損傷 ……73ページ
- タイヤなどの足回りのボルトやナットのゆるみ
- 油もれ及び水もれ
- エンジンオイルの量及び汚れ ……59ページ
- ミッションオイル、ロータリギヤケースの量及び汚れ……64, 89ページ
- 冷却水の量……61ページ
- ファンベルトの張り具合、損傷 ……72ページ
- エアクリーナの清掃……63ページ
- 燃料フィルタの水、沈殿物の点検 ……59ページ
- 車体・ロータリ各部の損傷、及びボルト・ナットのゆるみ
- 作業機取付けピンの脱落、ロックピンのロック確認
- 各ランプ類の損傷
- ラジエータの清掃……62ページ
- ナンバープレートの汚れ、損傷

(3)運転席に座って
- クラッチペダル、ブレーキペダルの遊びと作動……70ページ
- パーキングブレーキの作動 ……71ページ
- バックミラーの汚れ及び損傷

(4)メインスイッチを入れて
- 燃料は十分か、燃料キャップの締付け
- ランプ類及びモニタランプの点灯及び汚れ
- メータ類の作動
- ホーン、ウインカランプの作動

(5)エンジンを始動して、徐行しながら
- バッテリチャージ警告灯・エンジンオイル圧力警告灯の消灯
- 水温警告灯の作動
- 排気ガスの色、異常音
- ブレーキの効き、片利き
- ハンドルの重さ、振れ、取られ、遊び ……73ページ

運転のしかた

■エンジンの始動

警告

(1) 室内でエンジンを運転するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行なってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。

(2) エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行なってください。これを怠ると急発進したりして大変危険です。

▶始動のしかた

(1) 座席に座り、パーキングブレーキがかかっている事を確認します。

(2) 油圧コントロールレバーで作業機を地面まで降ろします。

(3) クラッチペダルを踏込んでクラッチを「切」にします。

(4) 主変速レバーを「中立」にします。

(5) ＰＴＯ変速レバーを「中立」にします。

(6) アクセルレバーを「中程」まで引きます。

(7) メインスイッチにキーを差込み「運転・予熱」位置にします。
この時モニタランプの
エンジンオイル圧力警告灯
バッテリチャージ警告灯
予熱表示灯
が点灯していることを確認してください。

(8) モニタランプの （予熱表示）が消えてからメインスイッチを「始動」の位置に回し、エンジンを始動してください。
エンジンが始動したらただちにメインスイッチから手をはなします。

(9) 始動後エンジンオイル圧力警告灯、バッテリチャージ警告灯が消灯していることを確認してください。

重要

●エンジン回転中は、メインスイッチを「始動」の位置にしないでください。

●スタータの作動は１回10秒程度とし、始動しないときは10秒程度停止してから再び操作をくり返してください。

●クラッチペダルを踏込みクラッチを「切」にしないと、エンジンは始動しません。

■エンジンの停止

(1) ●エンジンを低速にし、エンジン停止ノブを手前に引くとエンジンは停止します。（TM15F型）

●エンジンを低速にし、メインスイッチを「停止」位置にすると、エンジンは停止します。（TM15F－U，S型式、TM17）

(2) 万一、故障しエンジンが停止しない時はサイドカバーを開け、

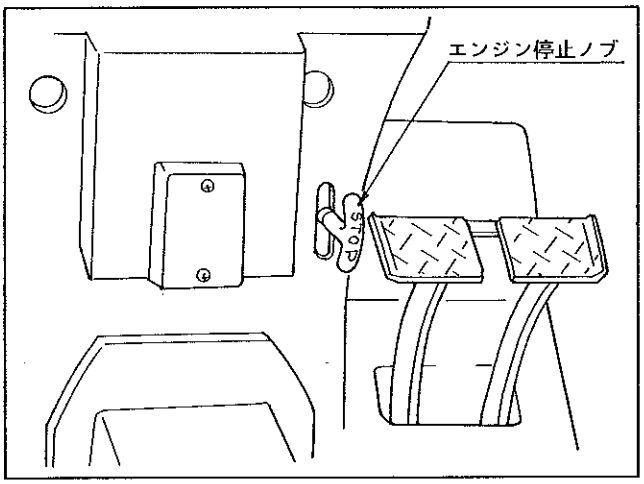
●図の要領でエンジン停止レバーを後方に引いてください。（TM15F型）

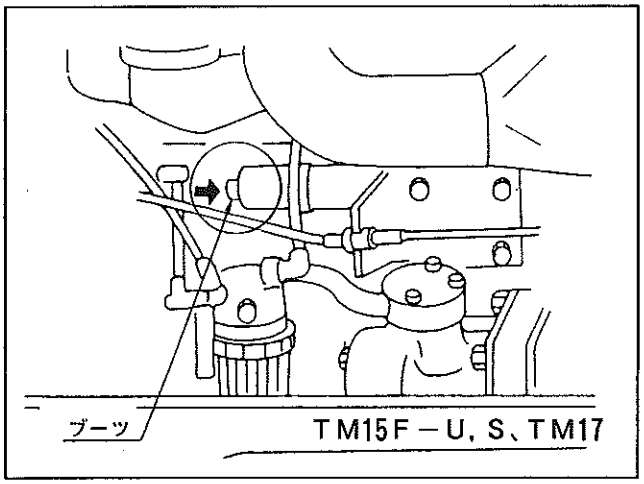
●図の要領でブーツ中心を停止するまで押してください。

（TM15F－U，S型式、TM17）

また故障の際には、お買いあげいただいた販売店・農協に相談ください。

(3) メインスイッチのキーは、必ず抜きましょう。

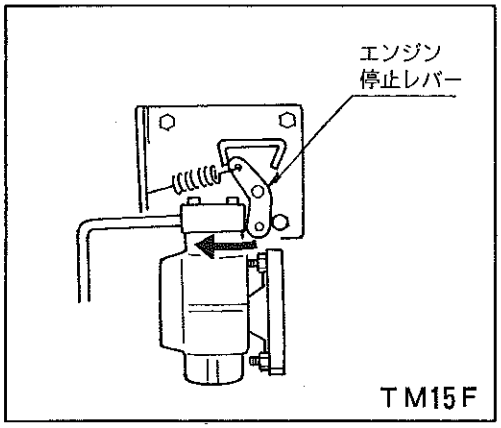




重要

●エンジンを高速回転のまま停止しないでください。

●長時間運転後は、アイドリング回転で5～10分間ほど無負荷運転を行なってからエンジンを停止してください。



■暖機運転

始動後、エンジン中速回転（約1500rpm）で十分に暖機運転を行なってください。気温により右表程度の暖機運転を行なってください。

気温	暖機運転時間
0℃以上	5～10分
0℃～－10℃	10～20分
－10℃～－20℃	20～30分
－20℃以下	30分以上

重要

- 暖機運転をしないで、走行・作業しますと、エンジンの寿命を短くしたり、油圧ポンプの焼付および油圧系の故障の原因となります。
- 本製品の油圧オイルは、ミッションオイルを兼用しています。寒冷時、気温が低下しオイルが冷えると、粘度が高くなり、油圧ポンプがオイルを吸込みにくくなったり、油圧系より音が発生したりしますので暖機運転は必ず行なってください。

注意

暖機運転中は、必ずパーキングブレーキをかけておいてください。これを怠るとトラクタが自然に動き出し大変危険です。

■発進・走行・変速のしかた

警告

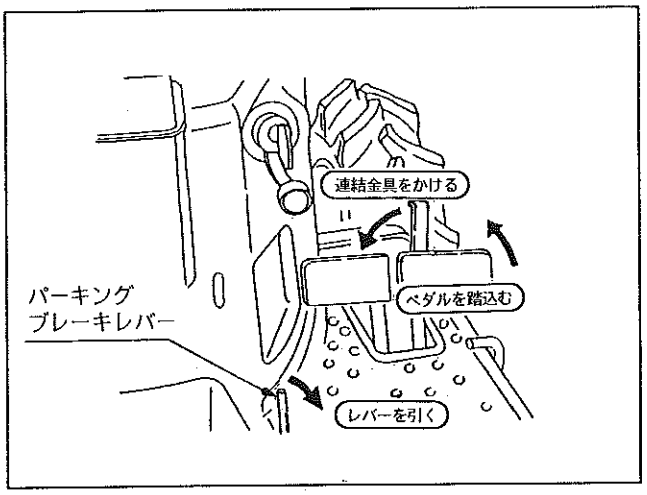
(1) 道路走行するときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。これを怠ると、ブレーキが片ぎきになり、車体が急旋回して、転倒・転落・衝突事故などを引き起こす危険があります。

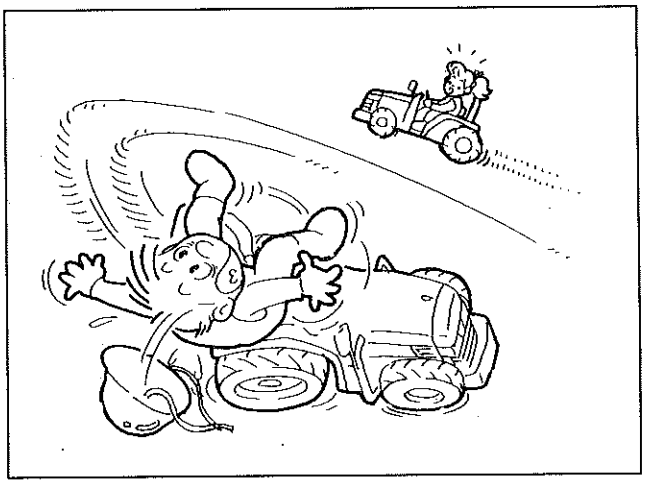
(2) 道路走行するときは、デフロックペダルが解除してあるか確認してください。解除していないと転倒・転落・衝突事故などを引き起こす危険があります。

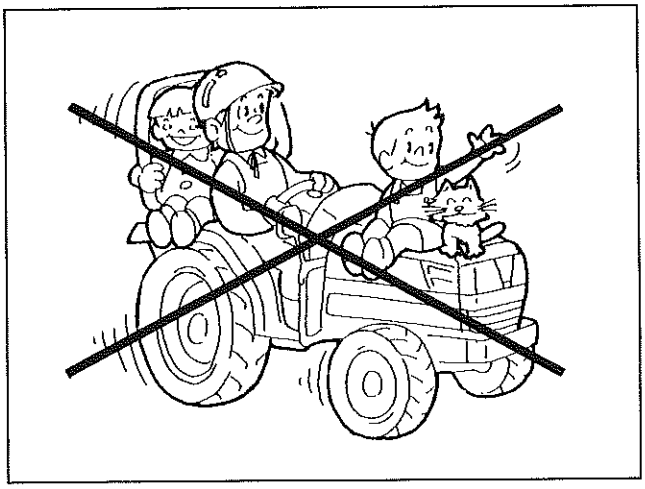
(3) トラクタを発進させるときは、前後左右の安全を確認し、トラクタの近辺に人を近づけないようにしてください。これを怠ると、傷害事故を引き起こす恐れがあります。

(4) 道路を走行するときは、必ずアクセルペダルを使用してください。これを怠ると、正常な走行スピードのコントロールができなくなる恐れがあります。

(5) トラクタや作業機に他の人や物を乗せないでください。人が転落したり、物が落下したりして大変危険です。







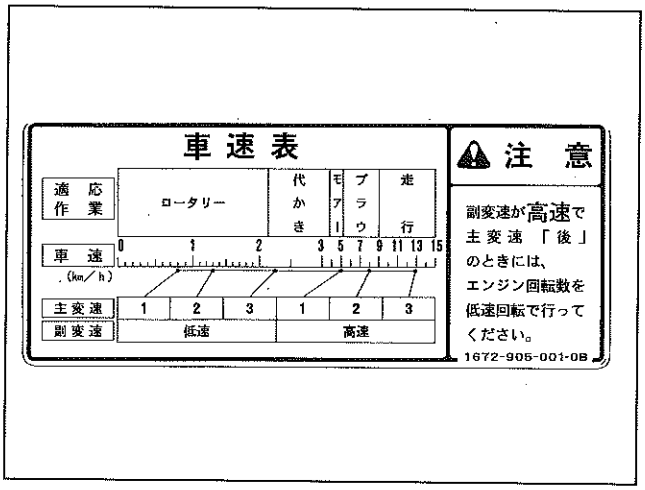
▶発進・走行のしかた

(1) クラッチペダルを踏込んでクラッチを切ります。

(2) 主変速レバー、副変速レバーを希望する変速位置に入れます。

(3) ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキを外します。

(4) アクセルレバーまたはアクセルペダルでエンジン回転を上げながらクラッチペダルをゆっくりと離します。



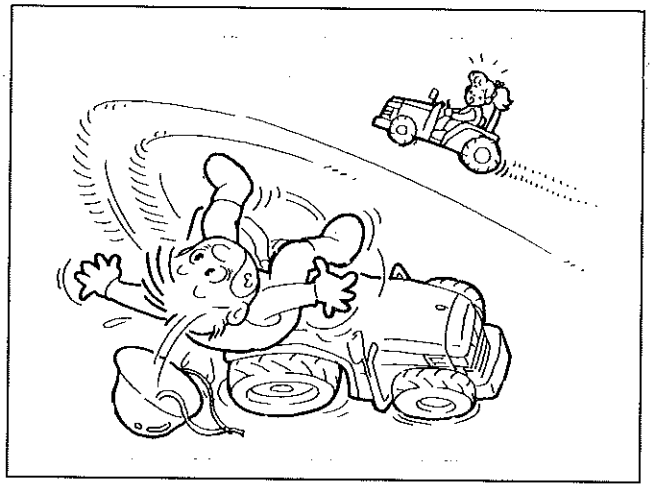
重要

- 走行中はクラッチペダルおよびブレーキペダルから足を離してください。
- クラッチの寿命を伸ばすため、発進以外は半クラッチ操作をできるだけ避けてください。速度調節をクラッチで行なわないようにしてください。
- 道路走行するときは、ＰＴＯ変速レバーは常に中立にしておいてください。

▶旋回のしかた

警告

旋回するときは、できるだけエンジン回転を落し、必要な場合は変速位置を低速にしてください。高速で急旋回すると、転倒事故につながり大変危険です。



▶坂道での運転

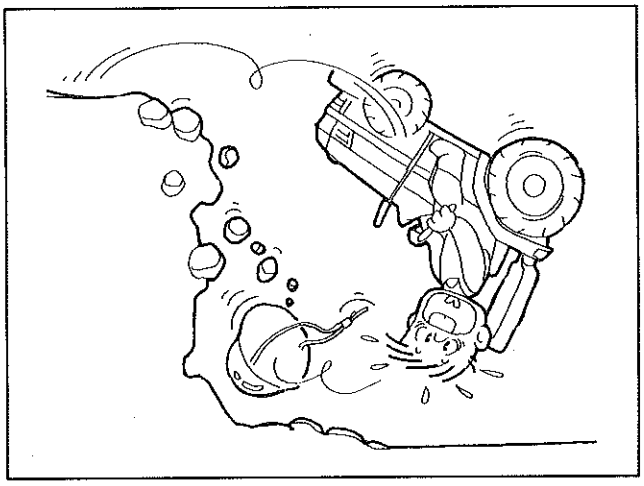
警告

(1) 坂道では、急な旋回をしてはいけません。急旋回すると、転倒事故の原因になり大変危険です。

(2) 坂の状況に応じた安全なスピードで、走行してください。スピードを出しすぎると思わぬ傷害事故を引き起こす恐れがあります。

(3) 坂の途中では、クラッチを切ったり、変速レバーを中立にしないでください。また下り坂では、エンジンブレーキを使用し、足ブレーキの多用はしないでください。これを怠るとスリップや転倒事故の原因になり大変危険です。

(4) けん引はこのトラクタに合った作業機をけん引ヒッチに取付けて使用してください。適切でない作業機をけん引すると傷害事故の原因になり大変危険です。不明な点がありましたら、購入先に相談し、無理なけん引は避けてください。



●急な上り坂での発進

(1) ブレーキペダルを踏込みます。

(2) クラッチペダルを踏込んで、クラッチを切ります。

(3) 各変速レバーを低速位置に入れます。

(4) アクセルレバーでエンジン回転を中速にします。

(5) クラッチペダルをゆっくりと離し、半クラッチ状態にします。

(6) 同時にブレーキペダルの踏込みを少しゆるめます。

(7) アクセルレバーをさらに引いて、エンジンの回転を上げながら、ブレーキペダルを離すと同時にクラッチペダルから足を静かに離すとトラクタは発進します。

●下り坂での運転

下り坂ではエンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで下るのは危険です。

■制動および駐車

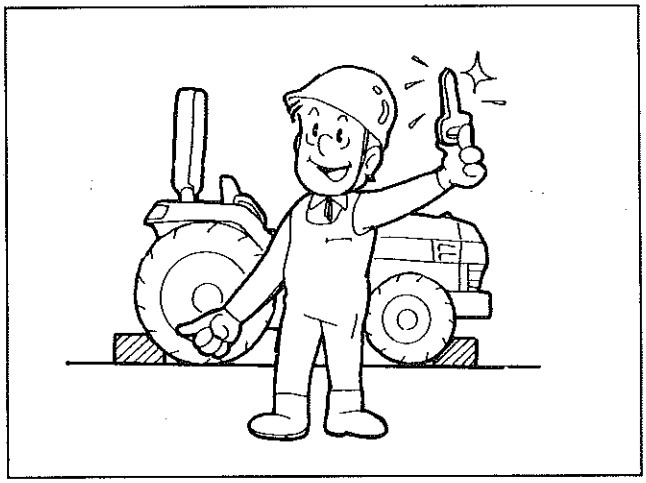
(1) エンジンの回転を下げます。
(2) クラッチペダルを踏込み、同時にブレーキを踏込みます。
(3) トラクタが完全に停止してから、主変速レバーを「中立」にします。
(4) パーキングブレーキをかけます。
(5) 作業機を装着している場合は、作業機を降ろします。

警告

(1) 駐車するときは、必ずパーキングブレーキを確実にかけてください。

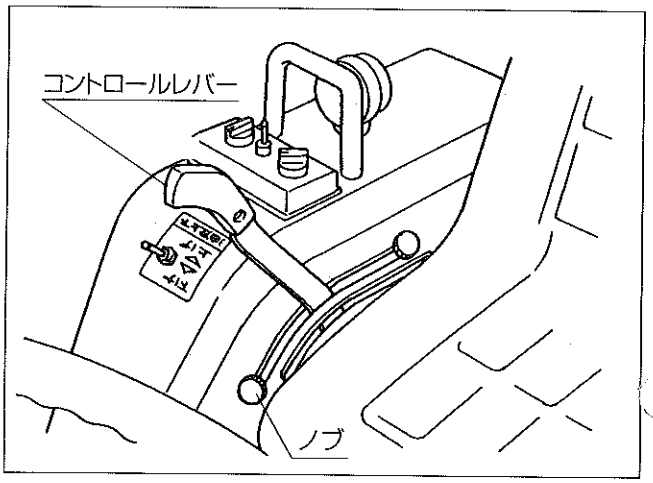
(2) トラクタから離れるときは、エンジンを停止し、キースイッチを抜き取り、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。
また、止めるところは、広い地面の硬い場所を選んでください。
トラクタが、自然に動き出したりして大変危険です。

(3) トラクタを草やワラの上に止めて空吹かしをしたり、高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより、ワラなどに着火し火災の原因になる恐れがあります。



油圧装置の取扱い

油圧装置は、油圧シリンダー、コントロールバルブを含む作業機昇降装置とエンジンに駆動されているポンプと配管より構成されています。



■コントロールレバー

(1) コントロールレバーで作業機を自由に上げ下げでき途中で止めると作業機もその位置を保ちます。(ポジションコントロール付)
(2) ストッパのノブをゆるめ任意の位置に固定することによって、同じ作業位置(深さ)が得られます。
(3) 上げストッパのノブをゆるめ、任意の位置に固定することによって、同じ作業位置(高さ)が得られます。

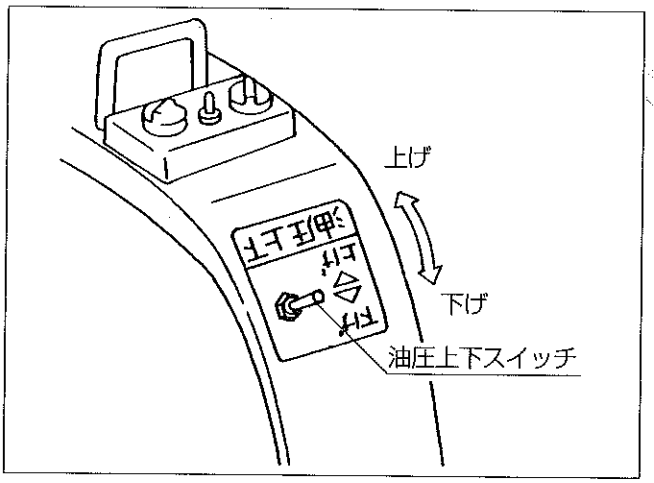
►操作方法

作業機上げ……レバーを後方に引くと、作業機は上がります。
作業機下げ……レバーを前方に倒すと、作業機は下がります。

■油圧上下スイッチ(U型)

U型は油圧上下スイッチで作業機の上げ下げを行なうことができます。

「上げ」 … スイッチを「上げ」方向に操作すると作業機が上がります。
「下げ」 … スイッチを「下げ」方向に操作するとコントロールレバーで設定された位置まで作業機が下がります。



重要

●上げ規制の必要な作業機を装着した場合は、油圧上下スイッチを使用してはいけません。
もし守らない場合は、作業機等が破損します。

●可倒式ロプス型式(P1型式)の場合は必ずロプスを起した状態で油圧上下スイッチを使用してください。

⚠ 警告

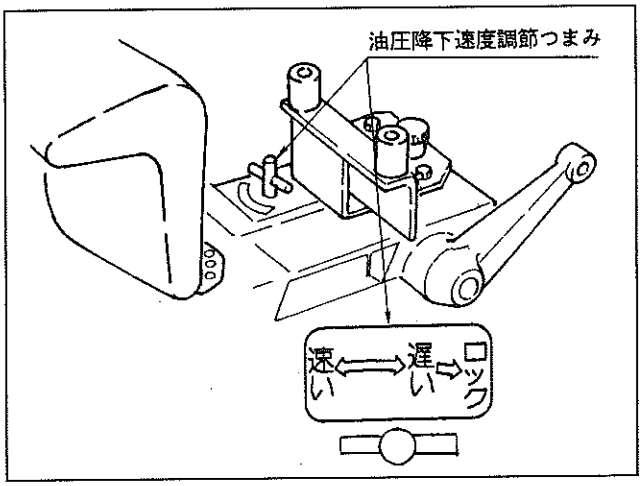
作業中トラクタから離れるときは、必ずエンジンを停止し、作業機を降してください。

■油圧降下速度調節つまみ

作業機の降下速度を調節します。

作業機の種類、作業状況によって降下速度を調節してください。

油圧降下速度調節つまみはシート下部にあります。



●ロータリ作業……降下速度を遅くしてください。

●プラウ作業……降下速度を速くしてください。

「遅　い」……つまみを時計方向に回すと降下速度は遅くなります。

「速　い」……つまみを反時計方向に回すと降下速度は速くなります。

「ロック」……つまみを時計方向にいっぱい回します。

警告

次のような場合は、必ず油圧降下速度調節つまみを「ロック」にしてください。その後コントロールレバーを作業機を下げる方向に動かして、作業機が落下しないことを確認してください。怠ると傷害事故の原因になり大変危険です。

(1) 道路走行するとき。

(2) ロータリの爪交換、草、ワラなどの除去

(3) 作業機の点検・調整

重要

●ロータリ作業を行なう場合は、油圧降下速度調節つまみで降下速度を1.0～1.5秒に調整してください。

バックアップ装置の取扱い(U型式)

バックアップ装置を使用しますと、枕地や回り耕などでバックする時に能率よく作業ができます。

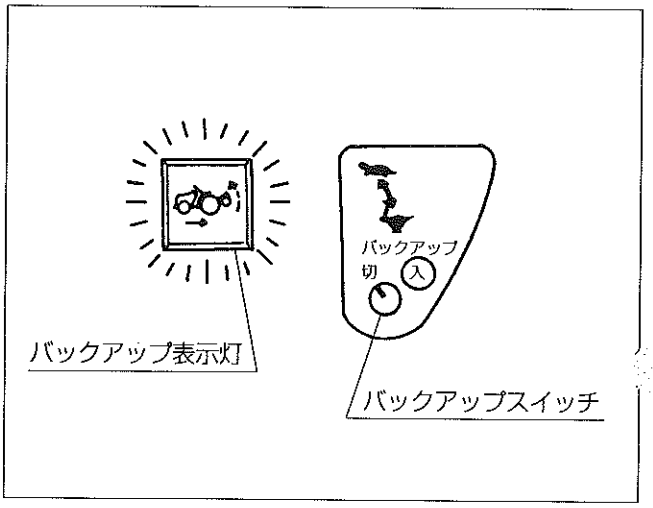
►操作方法

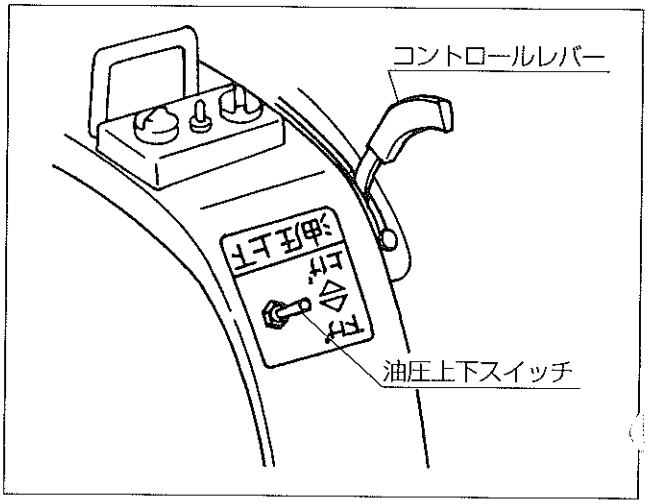
(1)バックアップスイッチを「入」にしてください。
バックアップ表示灯が点灯します。

(2)主変速レバーを「後進」位置に操作すると、作業機が自動的に上がります。

(3)バックアップ装置で上がった作業機はコントロールレバーまたは油圧上下スイッチを操作して下げることができます。

(4)バックアップ装置を使用しないときは、バックアップスイッチを「切」にしてください。





⚠ 警告

バックアップ装置をほ場以外で使用すると危険ですから、ほ場以外ではバックアップスイッチを「切」にしてください。特に

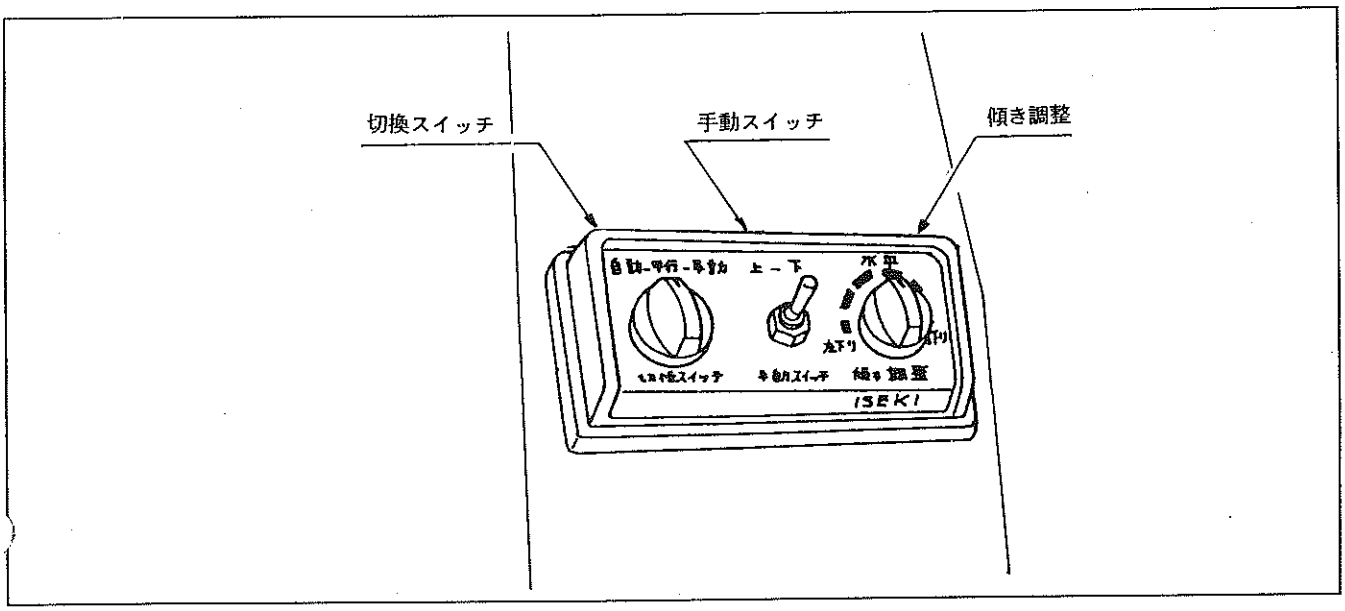
- ●トラックへの積み込み、積み降ろし
- ●あぜ超え、ほ場への出入り
- ●トレーラ作業
- ●果樹園、ハウス内など障害物のある時
- ●一般道路走行時

重要

- ●上げ規制の必要な作業機を装着した場合は、バックアップスイッチを「切」にしてください。もし守らない場合は、作業機等などが破損します。
- ●可倒式ロプス型式(P1型式)の場合は必ずロプスを起こした状態でバックアップスイッチを「入」にしてください。

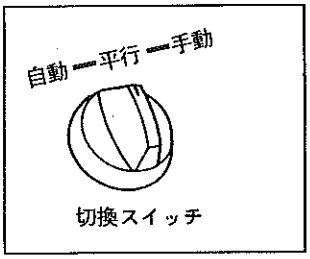
水平ロータリの取扱い（X型式）

■スイッチの名称と操作



■切換スイッチ

「自動」「平行」「手動」の切換ができます。

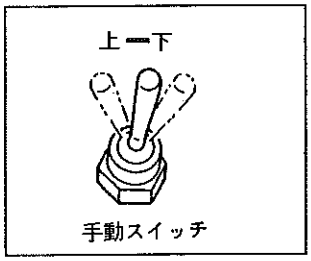


■手動スイッチ

作業機を手動で左右に傾斜させるときに使用します。

『上』……方向に倒すと作業機は右上り。

『下』……方向に倒すと作業機は右下りになります。



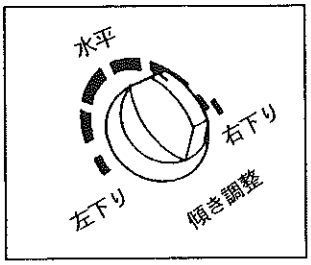
■傾き調整ダイヤル

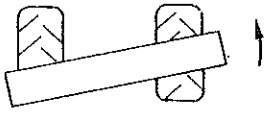
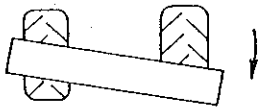
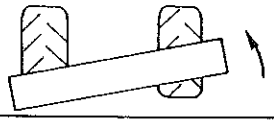
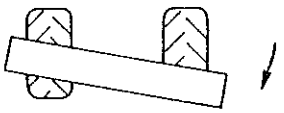
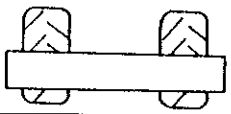
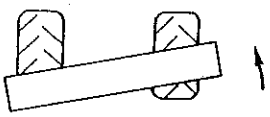
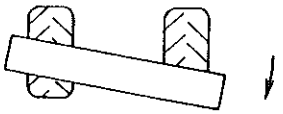
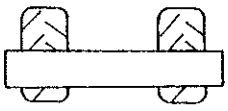
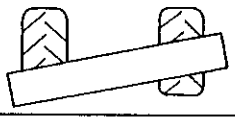
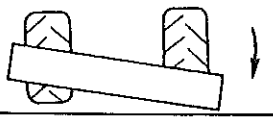
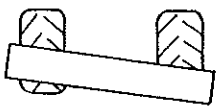
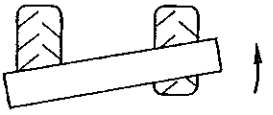
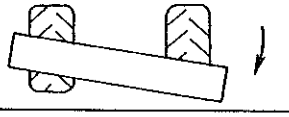
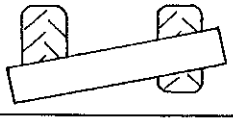
作業機の傾きを調整します。

『水平』……位置にすると作業機は自動的に水平を保持します。

『右下り』…位置にすると自動的に右下りになります。

『左下り』…位置にすると自動的に左下りになります。



切換スイッチ	傾き調整器	手動スイッチ	作業機の動き
「手動」位置		㊤ － 下	右上り 
		上 － ㊦	右下り 
		上 － 下	右上り、右下り、いずれかの位置でそのまま停止
「平行」位置		㊤ － 下	右上り 
		上 － ㊦	右下り 
		上 － 下	自動的に本機と平行 
「自動」位置	「水平」位置	㊤ － 下	右上り 
		上 － ㊦	右下り 
		上 － 下	自動的に水平 
「自動」位置	「右下り」位置	㊤ － 下	右上り 
		上 － ㊦	右下り 
		上 － 下	右下り 
「自動」位置	「右上り」位置	㊤ － 下	右上り 
		上 － ㊦	右下り 
		上 － 下	右上り 

注意

各部の調整を行なうときは、ＰＴＯチェンジを中立にし、周囲の安全を確かめてから行なってください。

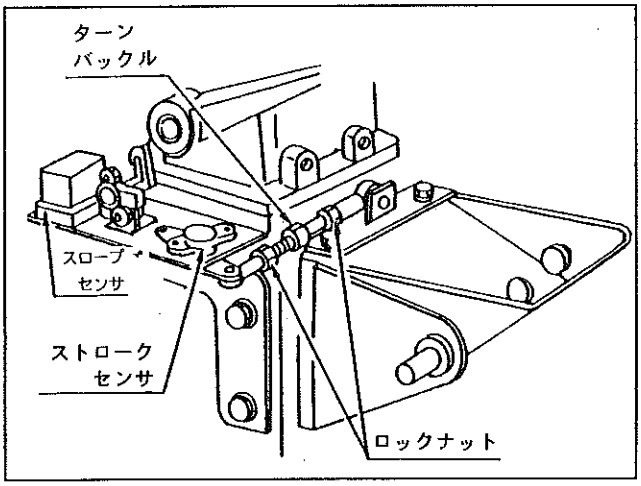
■平行位置の調整

(1) 平行位置の調整は、本機を平たんな路面に停止させて行なってください。

(2) エンジンを始動して
切換スイッチ ……「平行」
位置にしてください。

(3) ロックナットをゆるめ、作業機が本機と平行になる様、ターンバックルで調節します。

(4) ターンバックルを
伸び側に廻すと ……作業機は右下りになります。
縮み側に廻すと ……作業機は右上りになります。



重要

●調整後ロックナットを確実にロックしてください。

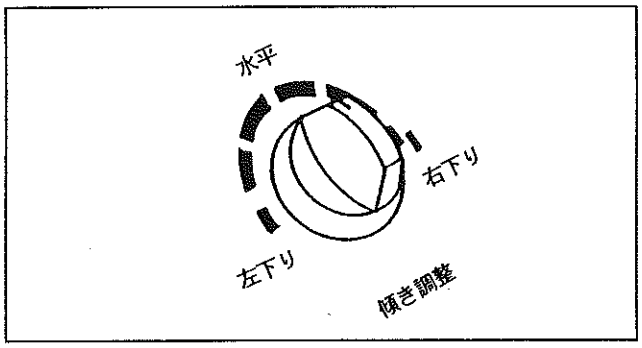
■水平位置の調整

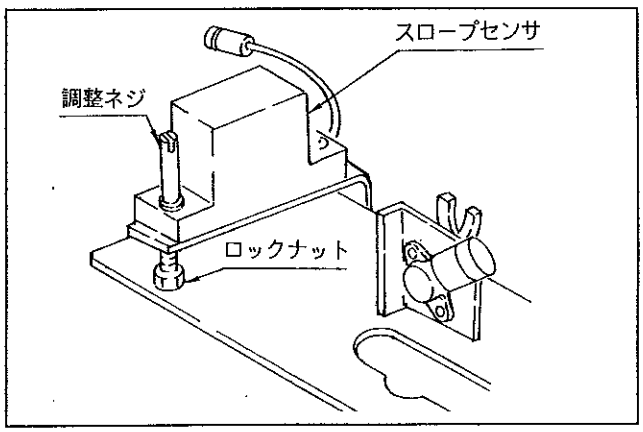
(1) 水平位置の調整は、本機を平たんな路面に停止させて行なってください。

(2) エンジンを始動して切換スイッチを「自動」位置にしてください。

(3) 傾き調整を「水平」位置にしてください。

(4) スロープセンサの調整ネジのロックナットをゆるめ水平位置を調整してください。
調整ネジを
時計回りに回すと ……作業機は右下りになります。
反時計回りに回すと ‥作業機は右上りになります。





重要

●調整後、ロックナットを確実にロックしてください。

■操作方法

▶手動

任意の位置で作業姿勢を固定できますので次のような作業に効果があります。

(1) メロン、スイカなどの広幅うね作り。

(2) プラウ作業のすき込み調整。

▶自動

作業機は自動的に水平になりますので、次のような作業に効果があります。

(1) あぜ際耕うん、枕地、凹凸地での均平耕うん。

(2) 整地板などによる均平作業。

(3) 畝立て、畝崩し作業。

▶平行

作業機は、本機と平行になりますので、従来標準機と同様に作業してください。

重要

「手動」で作業機を傾けた状態で作業機を最上昇位置に持ち上げるとジョイント騒音が高くなる場合があります。

切換スイッチを「自動」で回行時あるいは畦越え時など作業機を持ち上げ、ジョイント騒音が高くなる場合は、切換スイッチを「平行」に切換えてください。

ユニバーサルジョイントを使用する作業機でリフトシリンダを最も縮めた状態で作業機を最上昇位置に持ち上げるときは、ジョイント保護のため切換スイッチを「平行」に切換えてください。

配線点検時はエンジンを停止し、キースイッチを「停止」位置にしてから行なってください。

警告

道路走行、トラックへの積み降ろしの際は切換スイッチを「平行」にしてください。

途中で傾いてアユミ等にひっかけると、傷害事故につながり大変危険です。

オートロータリの取扱い（D型式）

■耕深レバー

ロータリの耕うん深さを調整します。

『耕深を深く』 ……レバーを前方に

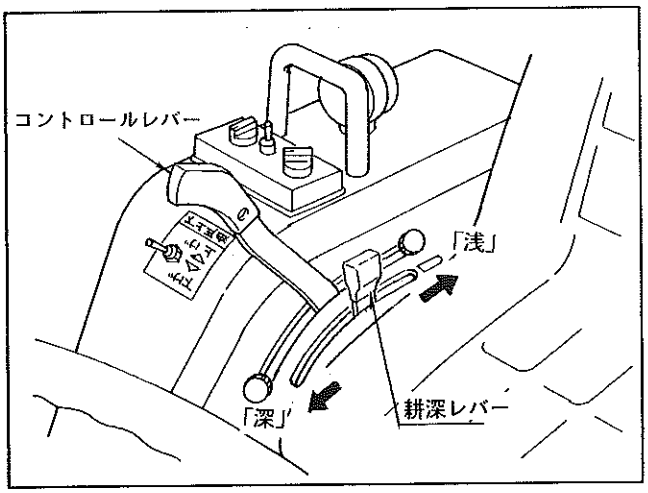
『耕深を浅く』 ……レバーを後方に

希望の耕深でレバーを止めてください。

(1) 耕うん作業中は外側のコントロールレバーを「最下げ」の位置にしてください。

(2) 回行時などのロータリ上げ、下げは外側のコントロールレバーで行なってください。

(3) ロータリ洗浄など、リヤカバーを持ち上げるときは、耕深レバーを「深」方向に倒してから行なってください。

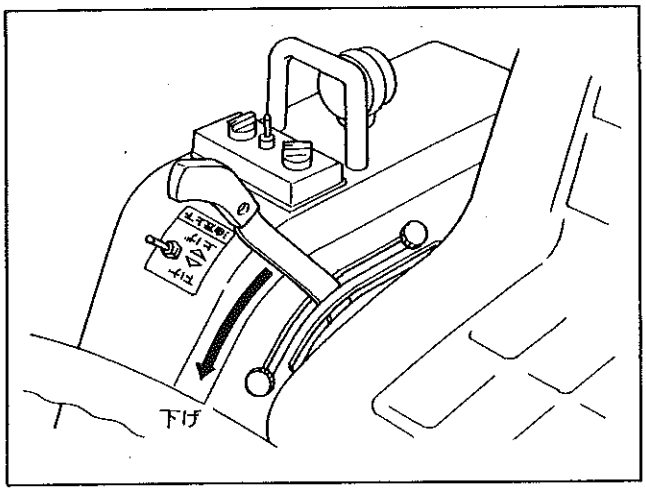


重要

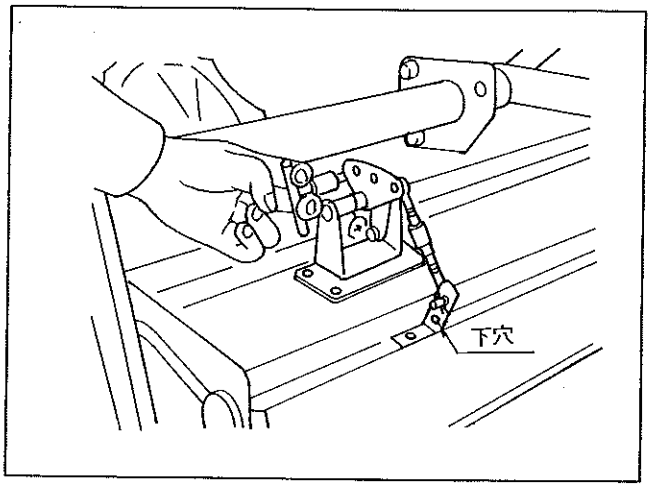
● ロータリの降り速度はあらかじめ油圧降下速度調節つまみで1.0～1.5秒に調節してください。

■ケーブル（オート）の取付け

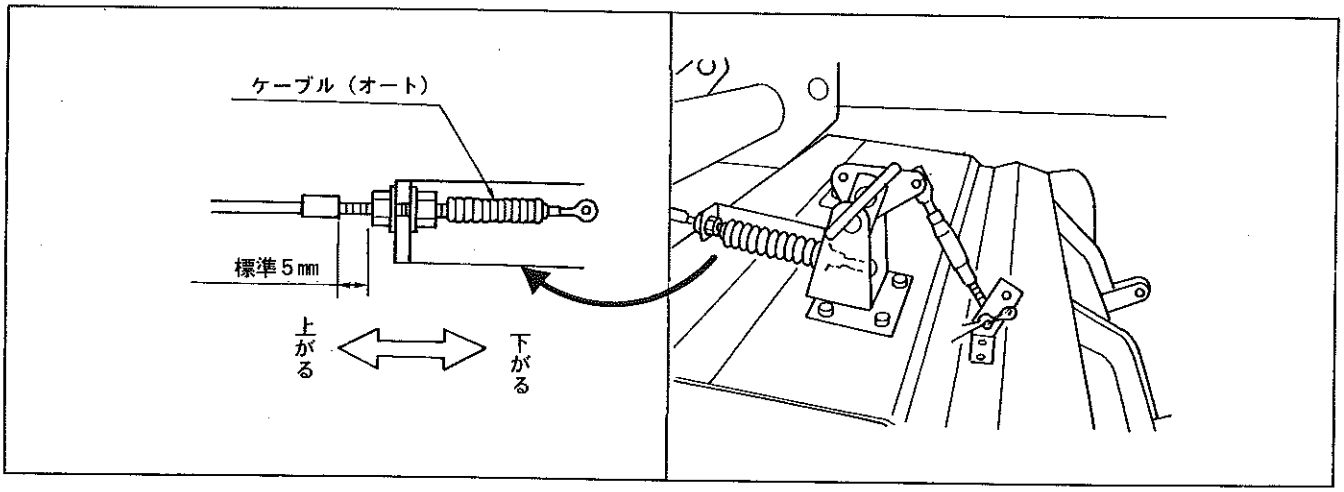
(1) コントロールレバーを“下げ”位置にしてロータリを接地させてください。

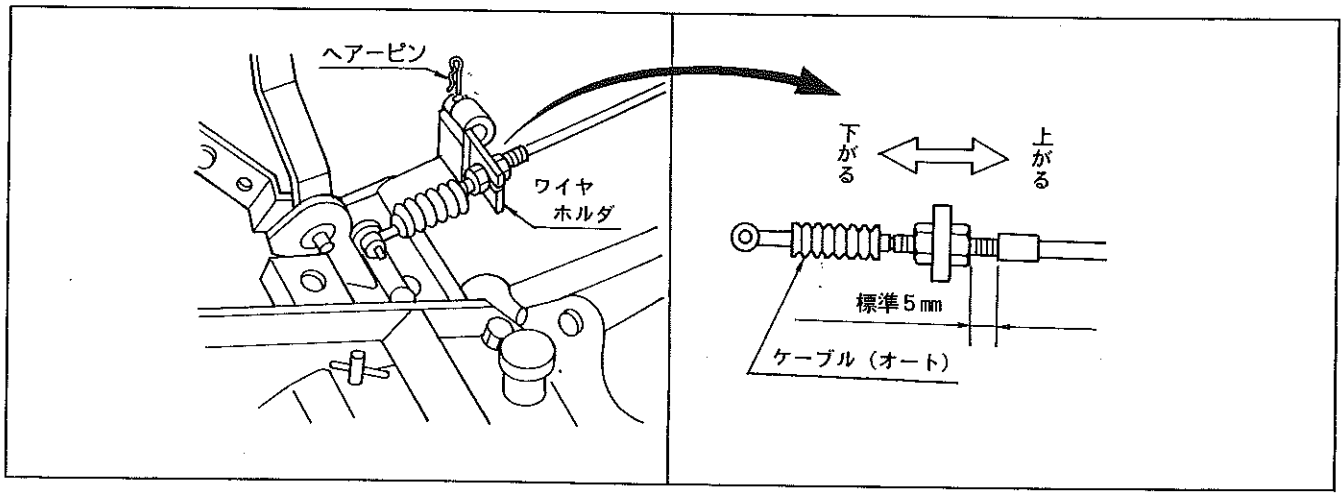


(2) ロータリ側のリンク、ロッドの取付位置を図のようにしてください。



(3) ワイヤホルダを取付けヘアーピンを挿入してください。





(4) エンジンを始動し、リヤカバーの上げ下げに応じて、ロータリが上がり下がりすることを確認してください。

(5) 耕深レバーを最も上げた位置で地面からロータリパイプ中心までの高さが50～60cmであることを確認してください。

重要

オートロータリ作業以外のときは耕深レバーを最下位置でご使用ください。

■ケーブル（オート）の取外し

ロータリを外す時は、ヘアーピンを抜いてケーブル（オート）を取外すと同時に、ワイヤホルダを取外してください。

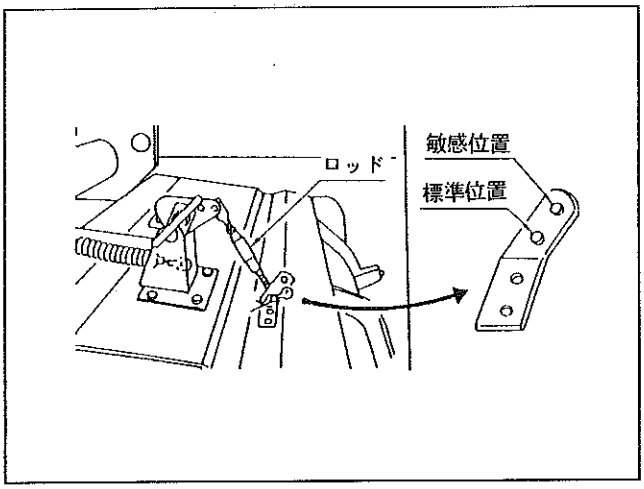
■感度の調節

(1) 感度の調節はロッドの取付位置を変更することにより、「標準」「敏感」の２段階に切換えることができます。

(2) 通常は「標準」位置で作業してください。
次のような場合「敏感」に切換えてください。

・トラクタが上下にゆれるほ場、及び湿田作業

・「標準」位置でエンジン回転がダウンするとき

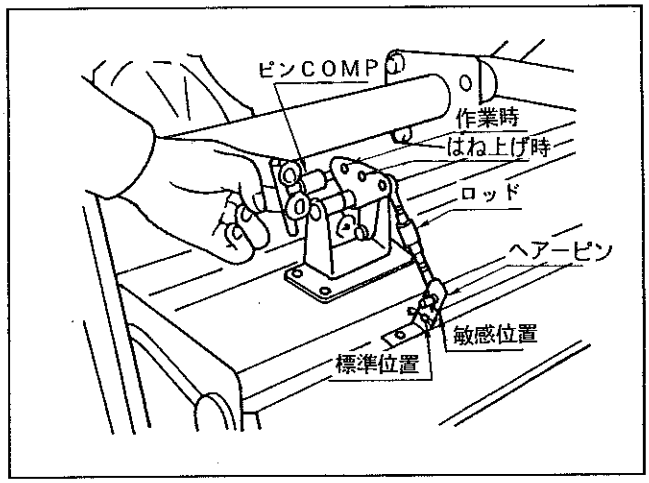


■リヤカバーはね上げのとき

ロータリ洗車時等、リヤカバーをはね上げるときは、次のようにしてください。

(1) 耕深レバーを「最深」位置にしてください。

(2) ヘアーピンを抜いてロッドを取外してください。



重要

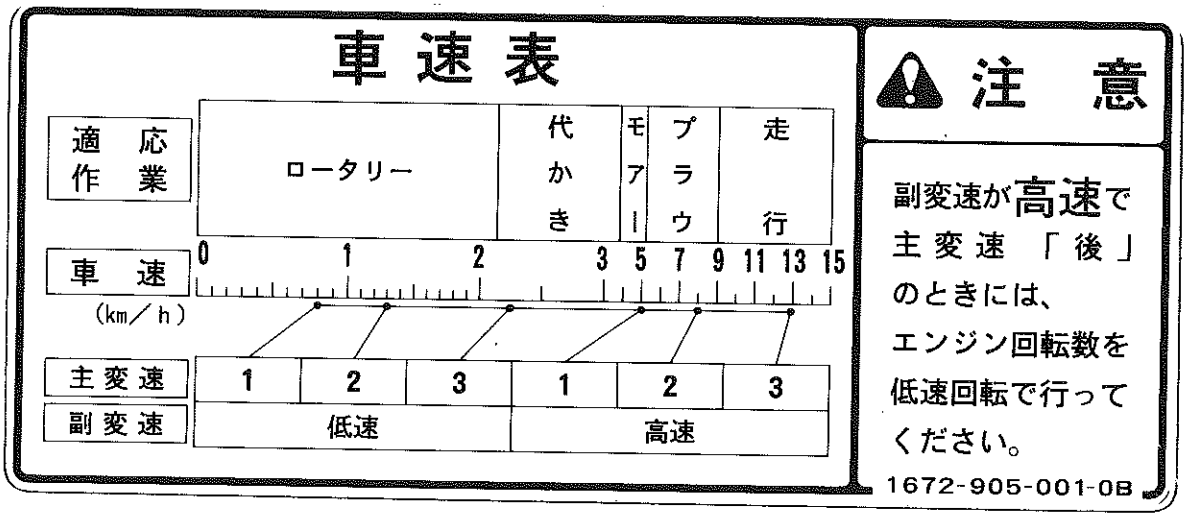
上記のことを守らないと、リヤカバーをはね上げた場合、ケーブル（オート）などの破損の原因となります。

作業運転のしかた

■走行速度とＰＴＯ回転速度

トラクタの走行速度およびＰＴＯ軸回転速度は、作業内容・ほ場の条件により異なります。安全で最適な速度で、作業をしてください。

▶走行速度



次表は、作業の目安として活用してください。

変速レバー位置と作業

作業＼走行変速＼副変速＼主変速	PTO変速	低速 1速	低速 2速	低速 3速	高速 1速	高速 2速	高速 3速
荒耕し		1速					
細土耕うん 細土畦立		2～3速					
代かき			2～3速				
乾土畦立		1～2速					
施肥・播種 マルチ作業		2～3速					
移動					中立		

▶ＰＴＯ軸回転速度

ＰＴＯ		作業内容	回転数／分 TM15 TM17
正転	1速	荒起し耕うん作業	450
	2速	通常耕うん作業	696
	3速	砕土耕うん作業	1140
逆転	（Z型式） 1速	土寄せ作業 （未耕地の耕うん作業はしないでください。）	707

▶安全性

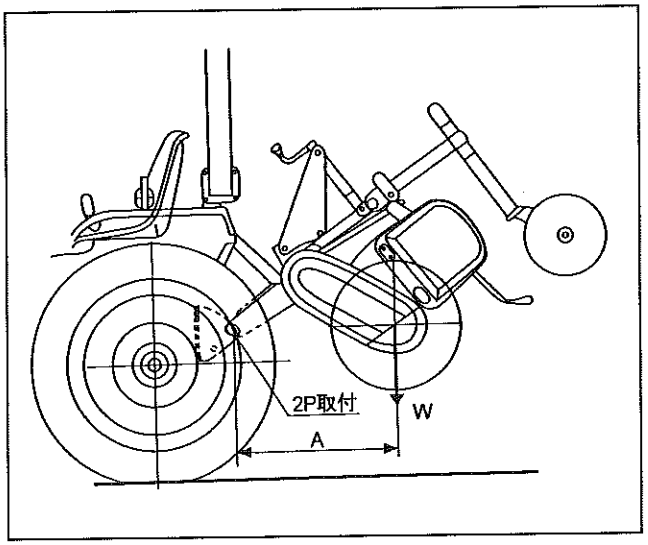
作業時は前輪荷重をトラクタの総重量の20%以上確保してください。

作業機を装着したときの目安は

A：600mm

W：180kg

としてください。前輪荷重20%以下になる場合は、バンパウエイト、フロントウエイトを取り付けて安定した姿勢で作業してください。



警告

作業機を取り付けた時、前輪荷重がトラクタ総重量の20%以下になる場合は、必ずバンパウエイトを装着し、安定した姿勢で作業ができるようにしてください。

また本トラクタではフロントウエイト、バンパウエイトを純正品にて準備しております。それでも尚、前輪荷重が20%に満たない作業機は使用しないでください。

怠るとトラクタの前輪が浮き上がったり、傾いたりして思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

また、バンパウエイトは純正品を使用してください。（111ページを参照してください）

■ほ場の出入り

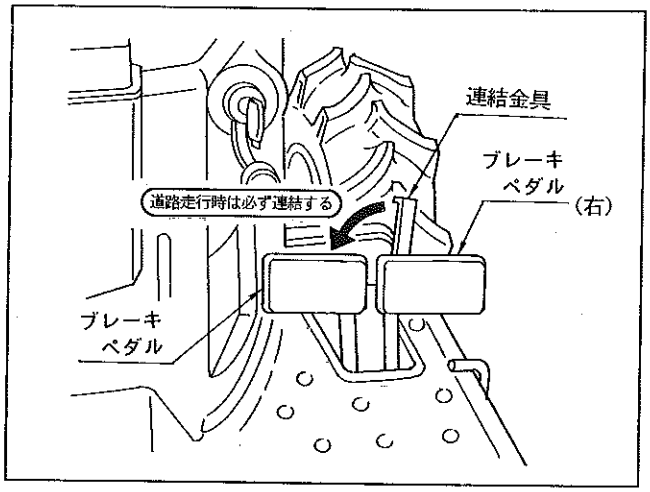
警告

(1) 必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。これを怠ると、ブレーキが片ぎきして、転倒事故を引き起こす危険があります。

(2) 道路とほ場の高低差が大きい場合や畦の高さが高い場合は、必ずアユミを使用してください。使用しなかった場合、衝撃で機械を破損させたり、転倒する恐れがあり危険です。

(3) 畦を横断するときは、作業機の回転を止め作業機を低くして低速で、畦と直角にゆっくり走行してください。斜めになると、スリップや転倒の原因になり大変危険です。

(4) 常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。バンパウエイトがわりに人が乗ったりすると傷害事故を引き起こす恐れがあります。



■ほ場での旋回

(1) ほ場での旋回は、左右のブレーキペダルを連結している連結金具を外して、左右独立して使用すれば、小さく回れます。
この場合は、ハンドルを切ると同時に旋回しようとする方のブレーキペダルを踏込んでください。

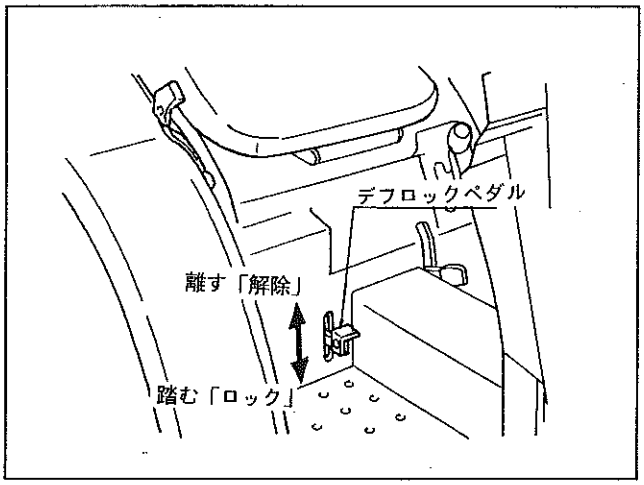
(2) 作業速度やほ場の傾斜の程度に配慮し、安全な作業をしてください。

警告

作業機を装着すると、かなりの長さになり旋回半径が大きくなりますので、周囲の人や構築物に注意してください。これを怠ると傷害事故や機械の破損を引き起こす恐れがあります。

■デフロックの使いかた

デフロック装置は、非常に便利で役立ちますが、取扱いを誤ると転倒などの危険や故障の原因にもなりますので、注意してお使いください。



▶デフロックの使用例

(1) ほ場への出入りに片輪がスリップし、トラクタが進まないとき。
(2) 凹凸ほ場で片輪がスリップするとき。
(3) 軟弱ほ場で片輪がスリップし、走行不能になったとき。
(4) プラウ作業中に車輪がスリップし、けん引力が出ないとき。

重要

(1) デフロックを使用するときは、エンジン回転を低速にしてください。
(2) デフロックペダルから足を離してもデフロックが外れない場合は、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。

警告

(1) 道路走行するときは、デフロックペダルを解除してあるか確認してください。これを怠ると衝突・転倒事故を引き起こします。
(2) デフロックを入れたままで旋回しないでください。これを怠ると衝突・転倒事故等につながり大変危険です。

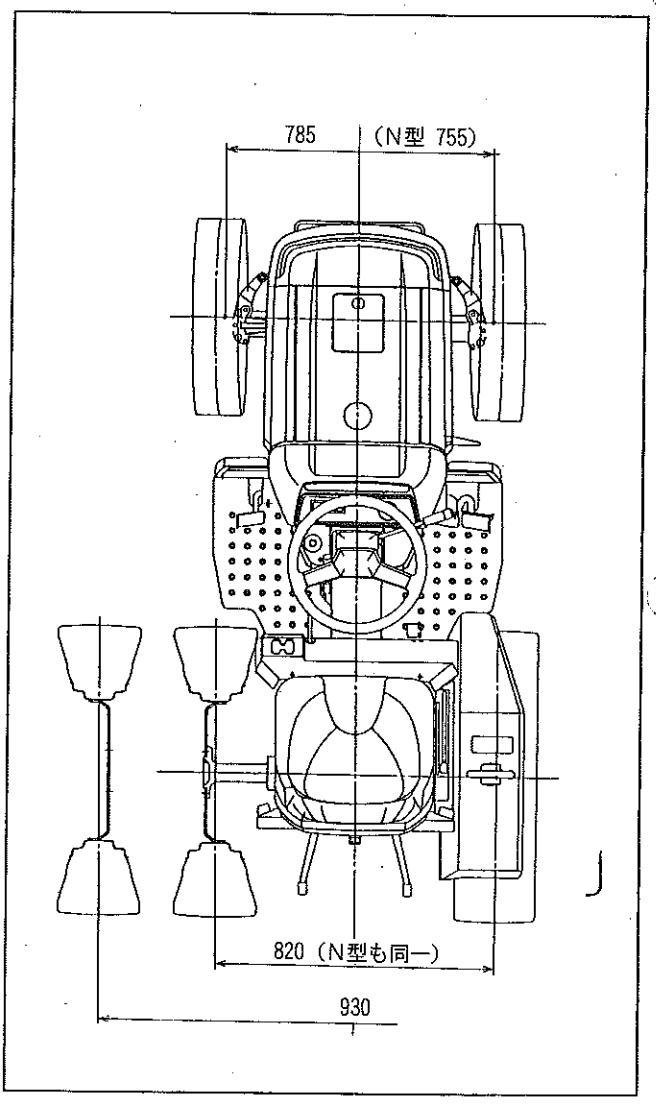
輪距の調節

警告

けん引作業・傾斜地での作業などの場合は、輪距を広くして使用してください。最小輪距では、左右のバランスが不安定になります。
輪距を広げないと、転倒による傷害事故を引き起こす恐れがあります。

■前　輪

前輪輪距は変更できません。前輪タイヤの左右入れ替えは、しないでください。



■後輪輪距調節

(1) ボルト・ナットをゆるめた後、ジャッキで左右の後輪を浮かします。

(2) ボルト・ナットを外し、輪距の調節をします。

警告

ジャッキアップするときは、エンジンを止め、ジャッキとトラクタの安定を確認し、前輪には車止めをしてください。これを怠ると傷害事故を引き起こす恐れがあります。

重要

- タイヤは、側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。
- 各部のボルト・ナットは確実に締付けてください。

前輪 …… 900～1100kgf・cm

後輪 …… 900～1100kgf・cm

点検整備

警告

給油及び点検整備するときは、①トラクタを平たんな広い場所に置き、②エンジンを止め、③パーキングブレーキをかけ、④油圧降下速度調節つまみを回して油圧をロックし、⑤さらにロータリの爪軸の下に木の台を置き、⑥エンジン各部が十分冷えてから、安全を確認して行なってください。

安全を確認せずに点検整備すると傷害事故を引き起こすことがあります。

定期点検整備箇所一覧表

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、販売店・農協または当社営業支店にご相談ください。

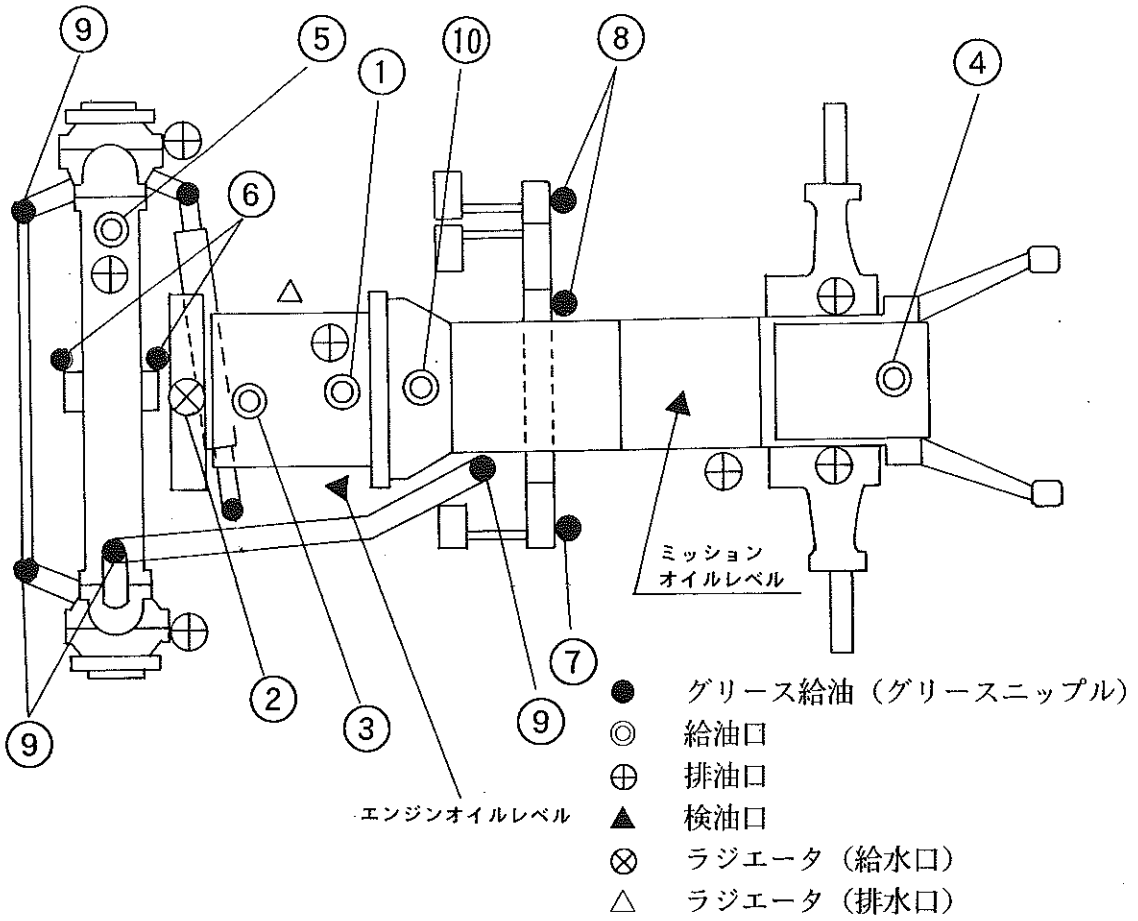
○ 点検、補充、調整　△ 清掃、洗浄
● 交換　★ サービス工場に依頼

区分	項目	運行前点検	定期点検・整備時（アワー・メータ表示） 50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	備考	参照ページ
エンジン	エンジンオイル	○	●		●		●		●		●		●		初期50時間、その後100時間毎交換	60
	エアクリーナ	○		△		△		△		△		△		●	100時間毎清掃 エレメントは5回清掃後又は破損のある場合交換	64
	ラジエータ冷却水	○													1年1回交換	62
	ラジエータ	○														62
	燃料	○														59
	燃料フィルタ	○		△		△		●		△		△		●	100時間毎洗浄 300時間毎エレメント交換	59
	ファンベルト	○														73
	バッテリ液面点検	○		○		○		○		○		○		○	100時間毎点検	69
	オイルフィルタ		★						★						初期50時間、その後300時間毎交換	61
	各部ボルト、ナットのゆるみ	○														−

○ 点検、補充、調整　　△ 清掃、洗浄
● 交換　　★ サービス工場に依頼

区分	項目	運行前点検	定期点検・整備時（アワー・メータ表示） 50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	備考	参照ページ
本体	ミッションオイル	○	●						●						初期50時間 その後300時間毎交換	64
	クラッチペダルの遊び	○														70
	ブレーキペダルの遊び	○														71
	ブレーキペダルの効き具合	○														71
	各レバー類の作動	○														–
	ステアリングホイルの遊び	○						★						★	300時間毎点検	73
	空気圧	○						○						○	300時間毎調整	73
	かじ取り装置ボールジョイント増締															–
	ホイル締付ボルト	○														54
	電装計器作動	○														–
	アクセルレバーアクセルペダル調整							★						★	300時間毎調整	73
	各部のグリースアップ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間毎補充 （代掻時は毎日）	65
	各部ボルトナットのゆるみ	○														–
	クラッチ室、オイル漏れ点検														クラッチ室下部のプラグを抜き、1年1回点検	–
	油圧オイルフィルタ		★				★				★				初期50時間 その後200時間毎清掃	64
	四駆フロントアクスルオイル	○		○		○		○		○		○		●	100時間毎点検 600時間毎交換	
	各部ゴムパイプ			○		○		○		○		○		○	100時間毎点検	–
	電気配線の点検	○			○			○		○		○		○	1年に1回点検	66

給油・給水一覧表

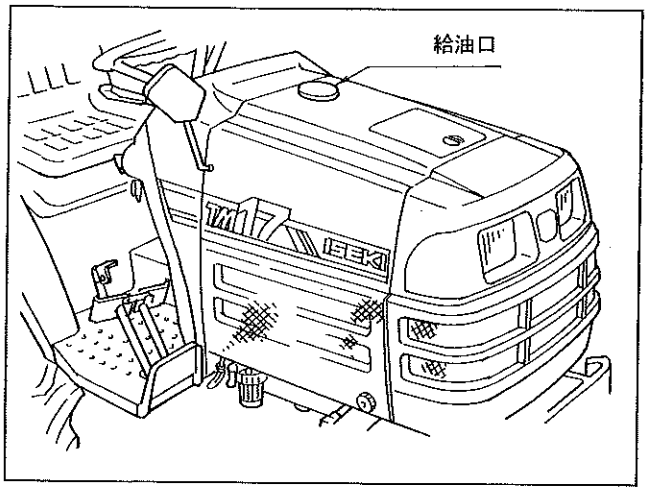


番号	給油（水）箇所	容　量（ℓ）	使　用　オ　イ　ル
①	燃　料	13.5	ディーゼル軽油（ＪＩＳ２～３号）
②	ラジエータ	5.0	不凍液（Ｌ・Ｌ・Ｃ）
③	エンジン	2.7	ヰセキ・ディーゼル・エンジンオイル
④	ミッションケース	13.5 （U型式 14）	ヰセキ・マルチデラックスオイル （#80）
⑤	フロントアクスル	2.7	
⑥	センタピボット	適　量	リチューム系一般グリース
⑦	クラッチペダル		
⑧	ブレーキペダル		
⑨	ドラッグロッド・ タイロッド		
⑩	ステアリング ギヤーボックス	補　充	ヰセキ・マルチデラックスオイル （#80）

点検と清掃

■燃　料

燃料は、ディーゼル軽油（ＪＩＳ２号～３号）を使用してください。



重要

- **燃料タンク内に水、ゴミ等が入らぬよう注意してください。**
- **燃料キャップが締まっているか確認してください。**

> **危険**
> **燃料を補給するときは、くわえたばこなどの火気厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になります。**

▶燃料系統の空気抜きのしかた

次のような場合に燃料系統の空気抜きを行なう必要があります。

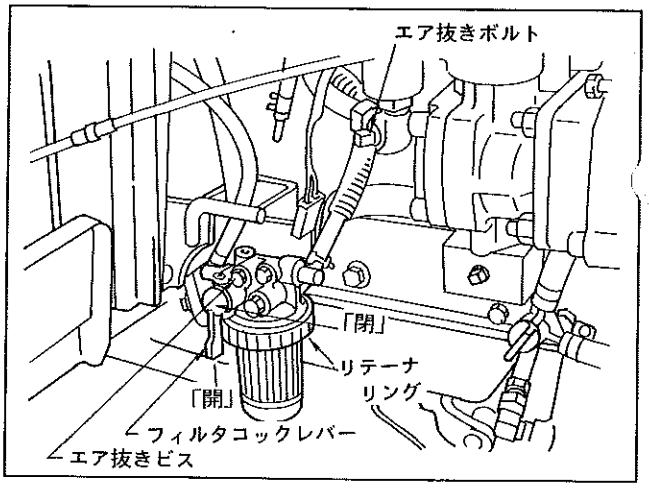
- 燃料切れを起したとき
- フィルタおよび配管を外したとき

(1) 燃料タンクに燃料を満たします。

(2) フィルタコックレバーを「開」にします。

(3) フィルタのエア抜きビスをゆるめ、空気抜きを行なってください。

(4) インジェクションポンプ部のエア抜きボルトをゆるめ、空気抜きを行なってください。



▶燃料フィルタの清掃と交換

(1) 燃料中に含まれる水・ゴミがフィルター内に沈殿しているか点検する。

(2) 水・ゴミがたまっている場合は、リテーナリングを回しカップを外し、エレメントおよびカップ内部を軽油で洗浄してください。

(3) 締付けは、燃料もれのないよう十分注意してください。

重要

●フィルタを外したときは、必ずエア抜きをしてください。

▶燃料ホースと点検

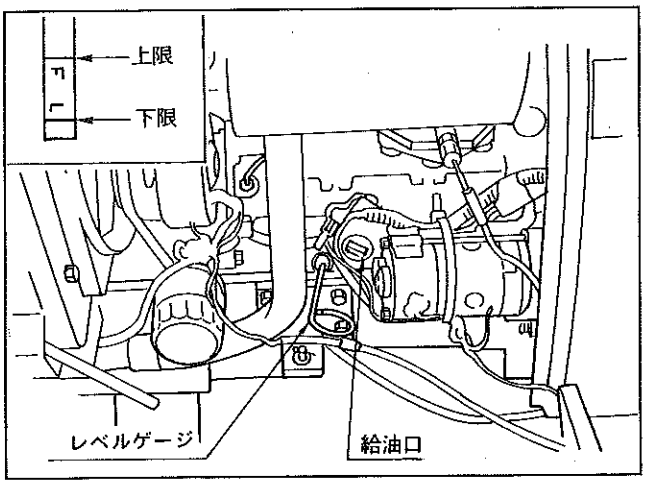
燃料ホースは100時間ごとに点検してください。
ひび・きれつ・燃料もれがあった場合は交換してください。

■エンジンオイル

▶点　検

(1) レベルゲージを抜いて先端をきれいにふき、改めて差込んでから再び抜き「上限と下限の間」にオイルがあるか調べます。

(2) 「下限」以下の場合は、補給してください。



重要

●エンジンオイルは、上限以上に入れないでください。

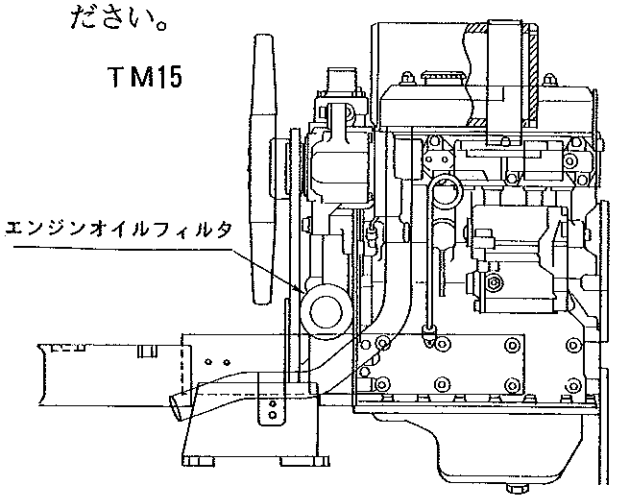
●使用するエンジンオイル、必ず「ヰセキ純正オイル」を使用してください。

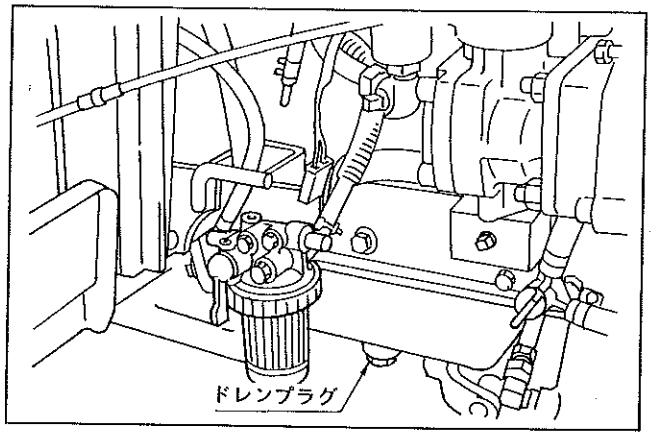
▶オイルの交換

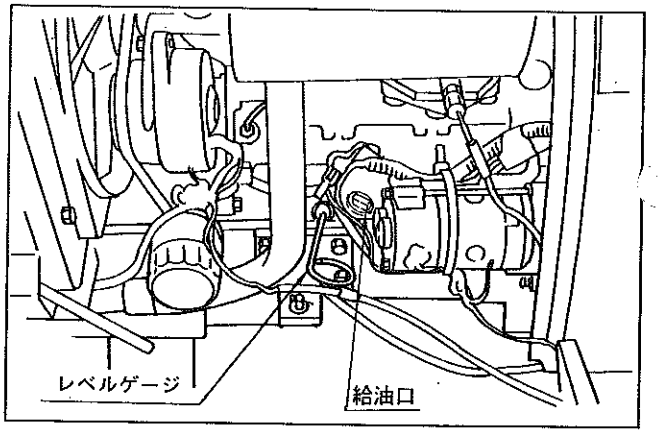
(1) ドレンプラグを外してオイルを排出します。

(2) 給油口からエンジンオイルを規定量入れてください。

TM15







注意

オイル交換による廃油を下水や土壌に捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。販売会社、サービス工場にご相談ください。

▶エンジンオイルフィルタの交換

(1) 市販のフィルタレンチで取外します。

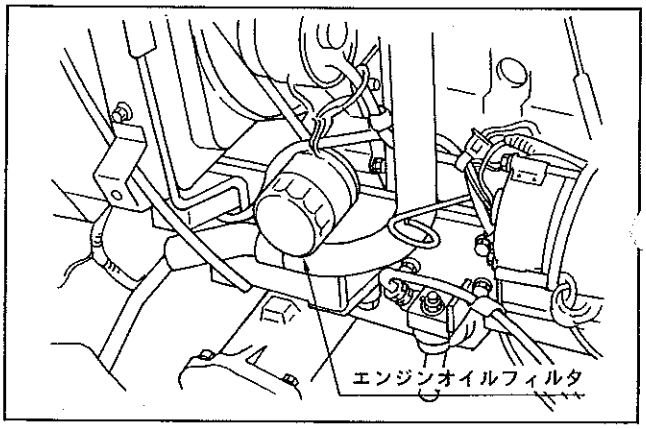
(2) 新しいオイルフィルタのOリングにオイルを薄く塗布してから、手で確実に締付けます。
（シール面のゴムパッキンが接触してから、約⅔回転締付けてください。）

(3) エンジンオイルを規定量まで補給します。

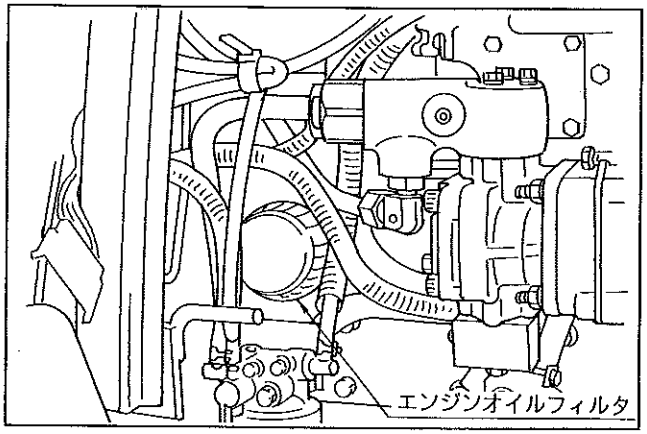
(4) エンジンを約５分間運転し、オイルランプの作動に異常がないか確認してから止めます。

(5) 再びオイルゲージで油面を確認し、不足していればエンジンオイルを補給してください。

TM15



TM17



■冷却水

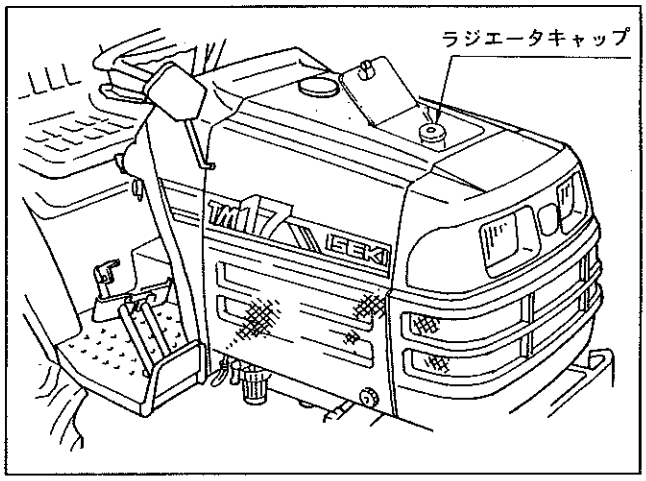
警告

ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。運転停止後10分以上たってよく冷えてから、注意しつつ開けてください。これを怠ると、熱湯が噴出してやけどをする危険があります。

▶点　検

ラジエータキャップをはずし「口元」まで入っているかどうか点検し、少ない場合は補給してください。

冷却水が緑色をしている場合は、不凍液が入っています。



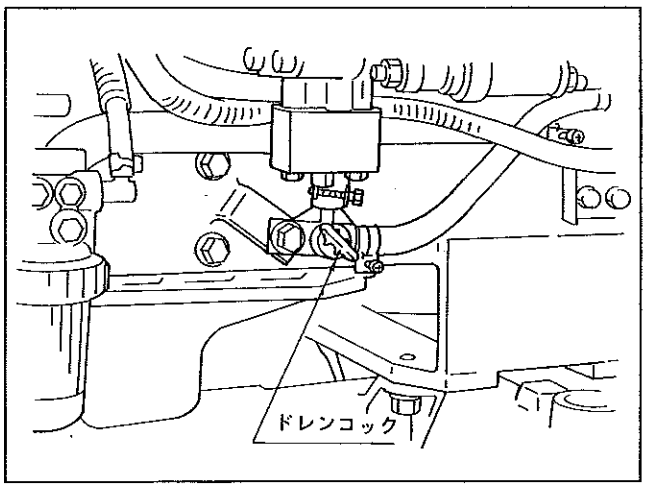
▶交　換

(1) 冷却水を抜くときは、エンジン右側のドレンコックを開けて抜きます。ラジエータキャップを同時に開けると、冷却水は勢いよく排出されます。

(2) 水道の水でラジエータ内部をよく洗浄してください。

(3) ドレンコックを閉じて、冷却水を注入し、ラジエータキャップを確実に締めてください。

(4) エンジンを始動し、約５分間ほどアイドリング回転で運転し、再度冷却水の量を確認し不足していれば補給してください。



▶不凍液の使いかた

冷却水が凍結すると、エンジンを破損することがあります。冬期、気温が0℃以下になるようなときは、不凍液を混入してください。

(1) 不凍液を入れる前に、よくラジエータ内部を洗浄してください。

(2) 不凍液の混合比は、不凍液メーカや気温により異なりますので、不凍液メーカの説明書に従ってください。

(3) 不凍液は水とよく混合し、注入してください。

(4) 不凍液の補給

●蒸発の場合……

冷却水が減った分だけ、水を補給してください。

●ブリーザより漏れた場合……

同じ比率に混合した不凍液を補給してください。

■ラジエータの清掃

警告

エンジンは必ず停止して清掃してください。これを怠ると、回転部に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こす恐れがあります。

▶防虫網の清掃

水田・草地や夜間の作業をすると、ラジエータに草・ワラくず・虫などが付着し詰まることがありますので、こんなときは防虫網を清掃してください。

防虫網を引出して清掃します。

▶ラジエータコアの清掃

フィンとチューブの間にまで、ゴミが入った場合は、水道水で流してください。

重要

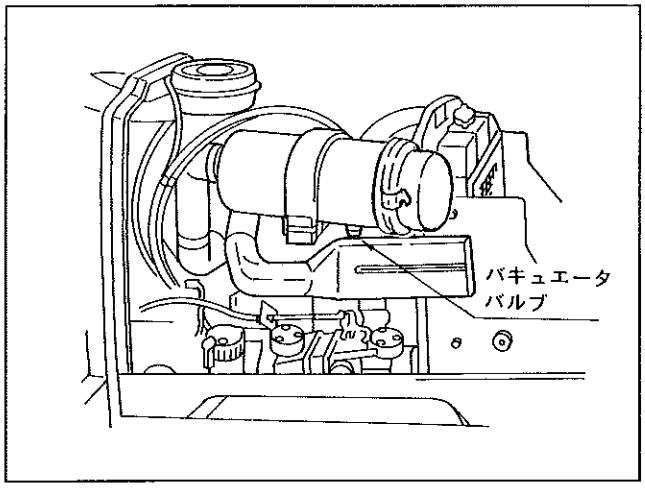
●強い圧力水をかけると、フィンが変形することがありますから、注意してください。

●エンジンまわりの電気配線・電装品には水をかけないでください。

■エアクリーナの清掃

▶バキュエータバルブの清掃

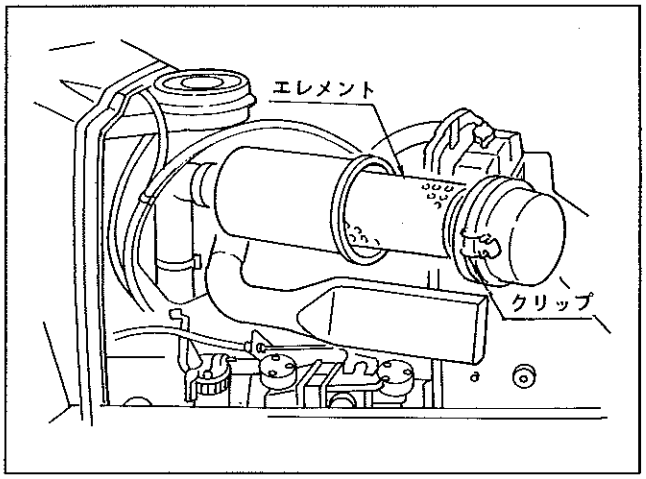
サイドカバーを開け、バキュエータバルブを指でつまんで内部のゴミを落してください。水分があるときは、エアクリーナ内部をボロ布等にてふき取ってください。



▶エレメントの清掃

(1) バンドを外し、エレメントを外へ回します。
(2) クリップを外し、エレメントを取出します。
(3) エレメントの清掃は次の要領で行なってください。
- ●乾いたほこりがついている場合
  エレメントの内側から空気を吹付けるか、または手で軽くたたいてゴミを取除いてください。
- ●湿ったほこり、油分などで汚れている場合
  家庭用中性洗剤を水でうすめエレメントを約30分浸し、その後軽くすすぎ洗いをし、自然乾燥させてください。

(4) エレメント清掃後、確実に組付けてください。



重要

(1) 清掃時エレメントを石やコンクリートでたたかないようにしてください。
(2) エアクリーナ各部の締付けは、確実に行ないゴミを吸込まないようにしてください。

▶エレメントの交換

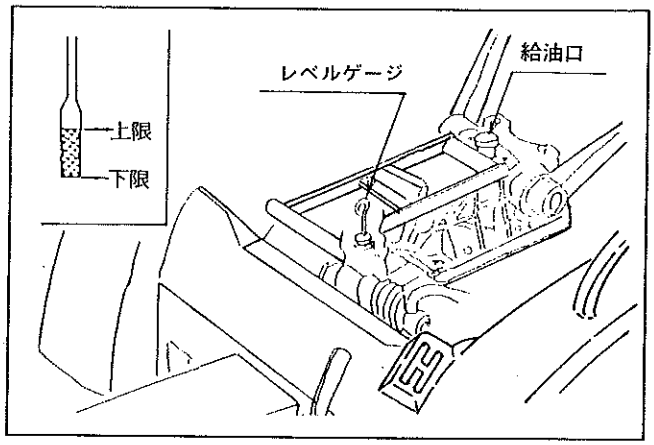
エレメントは5回清掃後または破損している場合は交換してください。

■ミッションケースのオイル

▶点　検

(1) オイルゲージを引いて先端をきれいにふき、一杯差し込んでから再び抜き「上限と下限の間」にオイルがあるか調べます。

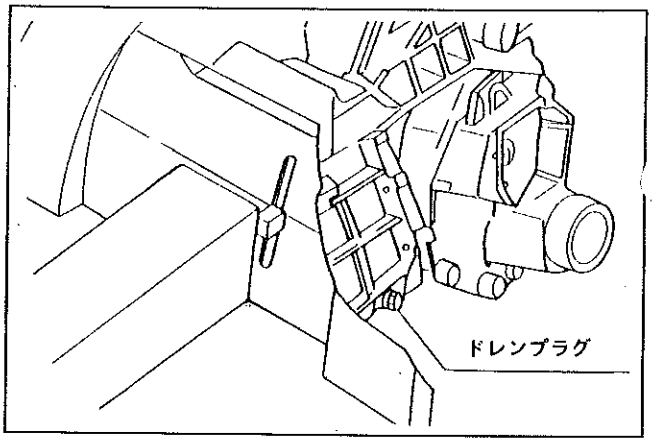
(2) 「下限」以下の場合は補給してください。ただし「上限」以上には入れないでください。



▶交　換

(1) ドレンプラグを外してオイルを排出します。

(2) 給油口からミッションオイル（13.5ℓただしU型式は14ℓ）を入れてください。



■フロントアクスルのオイル

▶点　検

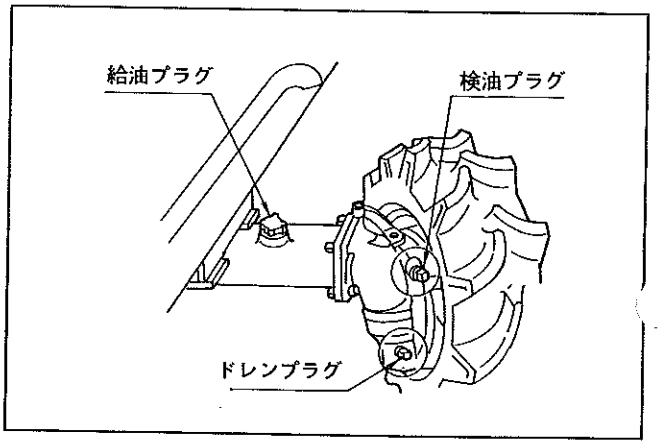
検油プラグを外し、検油口の下までオイルがあるか調べます。少ない場合は補給してください。

▶交　換

(1) 左右のドレンプラグと検油プラグを外してオイルを抜きます。

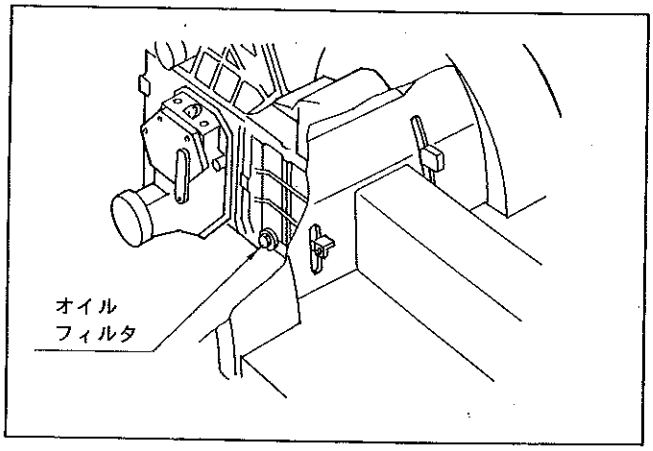
(2) ドレンプラグを締めて、給油口からオイル（2.7ℓ）を入れてください。

(3) 検油プラグ、給油プラグを確実に締めてください。



■油圧オイルフィルタの清掃

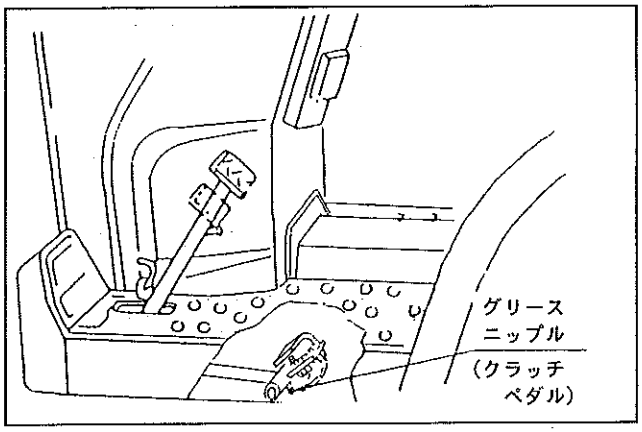
油圧オイルフィルタが詰まると、油圧系統の故障の原因となります。清掃は定期的にサービス工場で行なってください。



■グリースの注入について

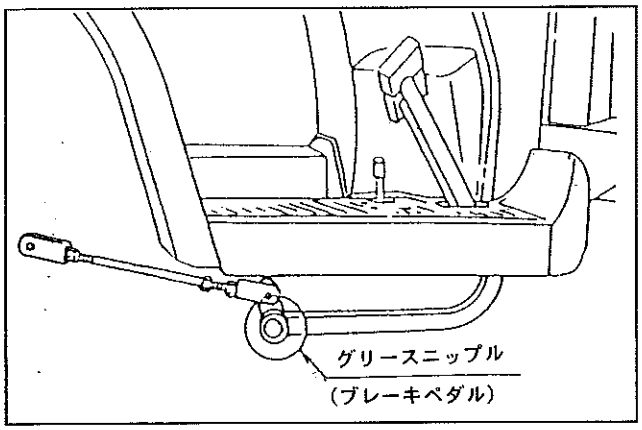
▶クラッチペダル

グリースを小量注入します。



▶ブレーキペダル

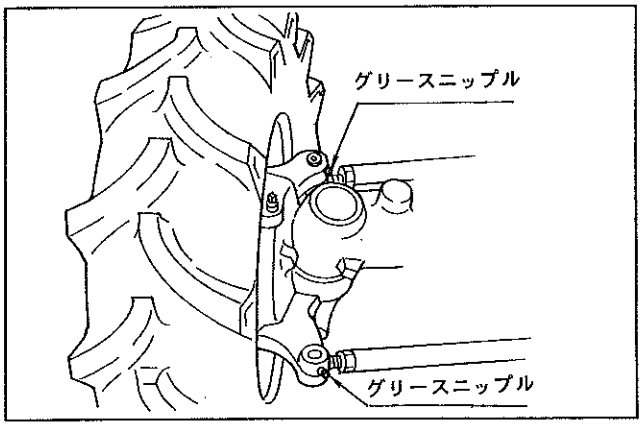
グリースを小量注入します。

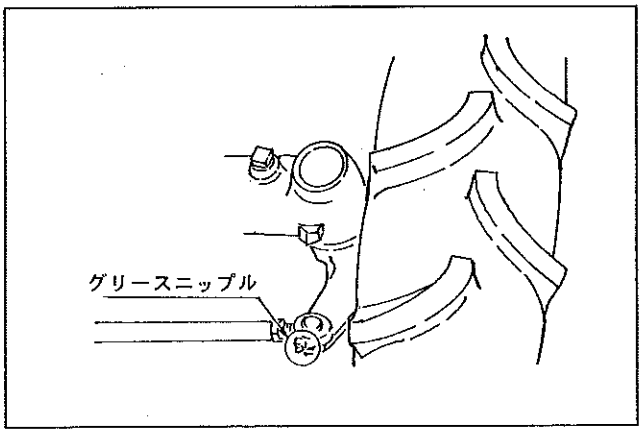


▶ドラッグロッド・タイロッド

グリースを適量注入します。

注入箇所は、ドラッグロッド前後およびタイロッド左右に計４カ所あります。





電気系統の点検と清掃

■電気配線の点検と清掃

注意

(1) 配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり火災事故になる恐れがあり大変危険です。傷んだ配線は、早めに交換・修理してください。

(2) バッテリ、電気配線およびマフラやエンジン周辺部のワラくず・ゴミなどは、取除いてください。これを怠ると火災の原因となります。

(3) 1年に1回、販売店での定期点検を受けてください。また安心して作業できるよう電気配線は、2年毎に交換することをお勧めします。

下記の項目につき定期的に点検してください。

(1) 配線の損傷がないこと。配線被覆が破れている時は、ビニールテープを巻き補修してください。

(2) 配線のクランプのゆるみがないこと。
配線がクランプより外れているときは、所定のクランプに配線をセットしてください。

(3) ターミナル、ブロック（ソケット）の接続部のゆるみがないこと。

(4) 各スイッチが確実に作動すること。

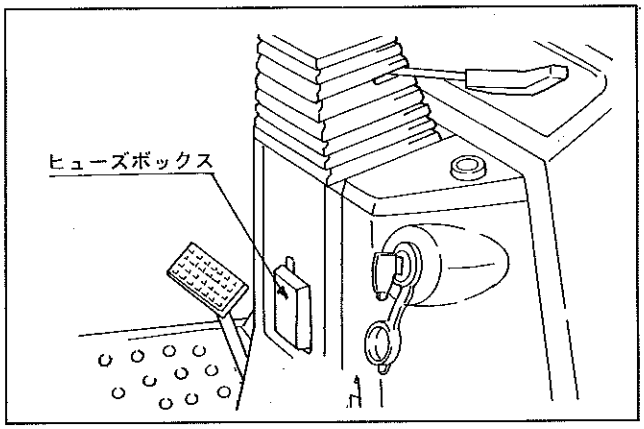
重要

●メータパネル、バッテリ、エンジンまわりの電気配線・電装品および電子油圧操作部には圧力水をかけないでください。
電気部品の故障の原因となります。

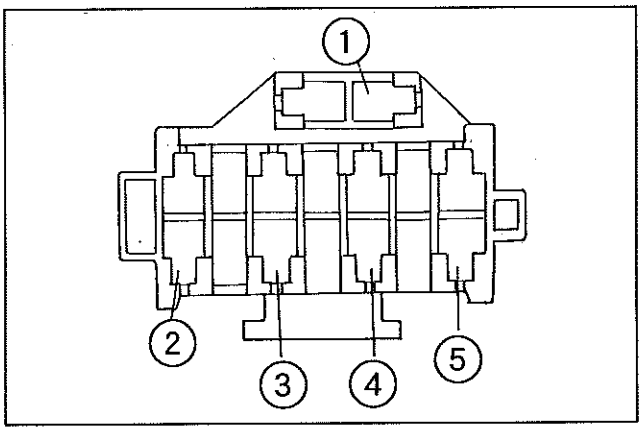
■ヒューズおよびスローブローヒューズの取扱い

▶ヒューズの交換

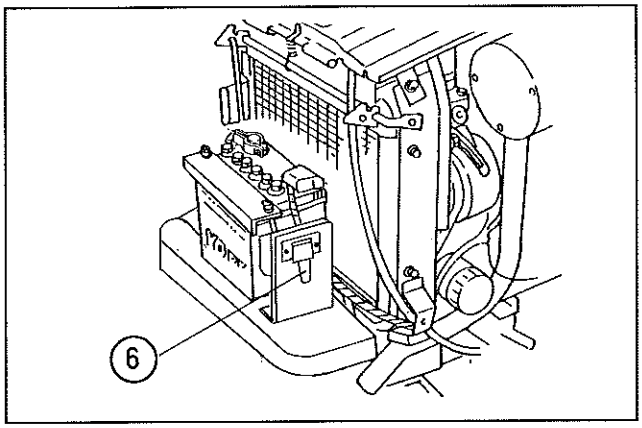
ヒューズはヒューズボックスの中に入っています。ヒューズが切れた場合は、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。大容量のヒューズをつけると焼損の原因となります。



①	エンジンストップリレー	5A
②	エンジンストップリレー	5A
③	インプル（OPT）	15A
④	ライト、ホーン、ウインカ	15A
⑤	レギュレータ、モニタ、バックアップ	10A
⑥	グローコントローラ	5A



（TM15F－U、S、TM17F以外は②～⑥）

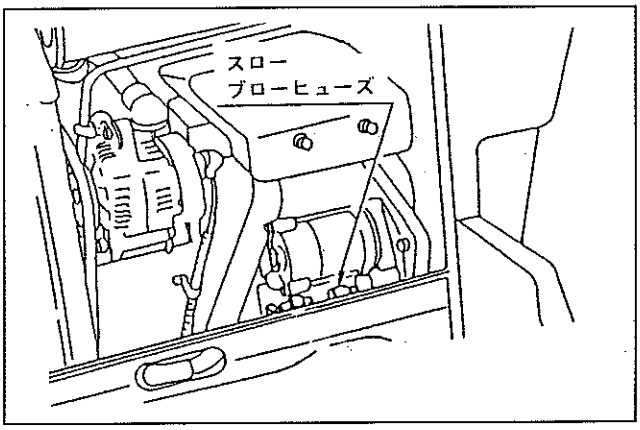


〈スローブローヒューズ〉

本機には配線中にスローブローヒューズが1個（40A）設置されています。このスローブローヒューズは配線を保護するための部品で、切れるとすべての回路の電気が流れません。必ず切れた原因を調べて純正部品のスローブローヒューズと交換してください。

●チェック方法

スローブローヒューズのケース上面よりヒューズが確認できます。溶断している場合、ケースをカプラより抜き交換してください。



重要

●ヒューズが切れた場合は、切れた原因を調べ、修理後に純正部品のヒューズと交換してください。絶対に針金などで代用しないでください。

■バッテリの点検と取扱い

▶バッテリ液の点検

危険

(1) ショートやスパークさせたり、たばこ等の火気を近づけないでください。また充電は、通風のよいところで行なってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。

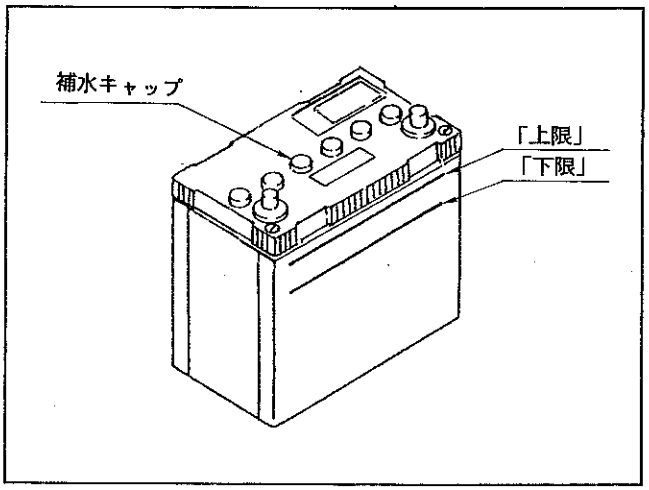
(2) バッテリ液（電解液）は、希硫酸で劇毒物です。バッテリ液を体や服につけないようにしてください。失明ややけどをすることがあり大変危険です。もし目・皮膚・服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

(3) ブースターケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。

（19ページを参照してください。）

バッテリ液は使っているうちに蒸発して減少します。バッテリの前面に２本の線（レベル）があり、その間に液面があればよく、少ないときは上側の線（レベル）まで補給してください。

●液が自然に減ったとき…精製水を補給します。



重要

●バッテリ液が不足すると、バッテリを傷め、多過ぎると液がこぼれて車体を腐蝕させます。

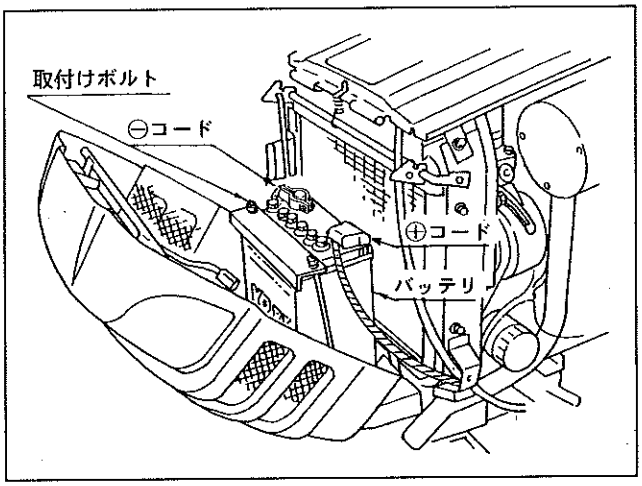
▶バッテリの取扱い

(1) 気温が低下すると、バッテリの性能も低下します。冬期は特にバッテリの管理に注意してください。

(2) バッテリは使用しなくても自己放電しますから補充電を行なってください。
　夏期……１カ月毎
　冬期……２カ月毎

(3) トラクタを長期格納する場合は、バッテリを外し、日光の当らない乾燥した場所に保存してください。どうしてもトラクタに取付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（⊖側）を外してください。

(4) 新品のバッテリと交換する場合は必ず指定した型式（38B20R）のバッテリを使用してください。



重要

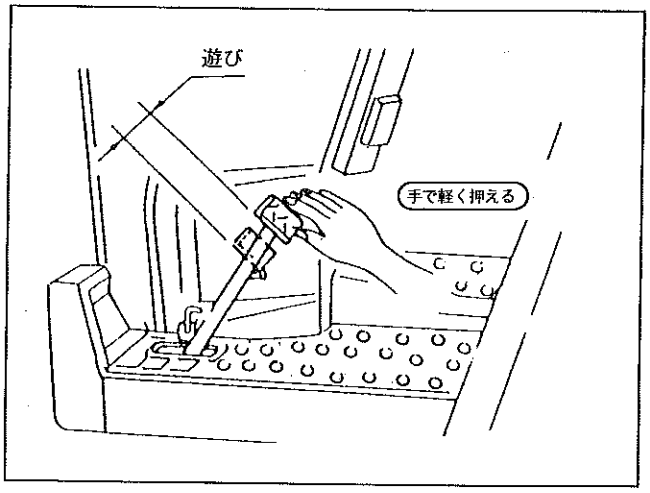
- **バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。**
- **バッテリの急速充電はバッテリの寿命を短くしますから、できるだけ避けてください。**
- **充電は、バッテリの⊕を充電器の⊕に、⊖を⊖にそれぞれ接続して、普通の充電法で行なってください。**
- **バッテリを外し、再度取付けるときにはバッテリの⊕、⊖のコードを元どおりに配線し、まわりに接触しないように締付けてください。**
- **バッテリコード（端子）を取外すときは、⊖コードを先に外します。バッテリコードを取付けるときは、⊕コードを先に取付けます。これを怠るとショートして火花がとんだりします。**

調整のしかた

■クラッチペダル

▶点　検

ペダルの遊び量が20～30㎜あるか確認してください。



重要

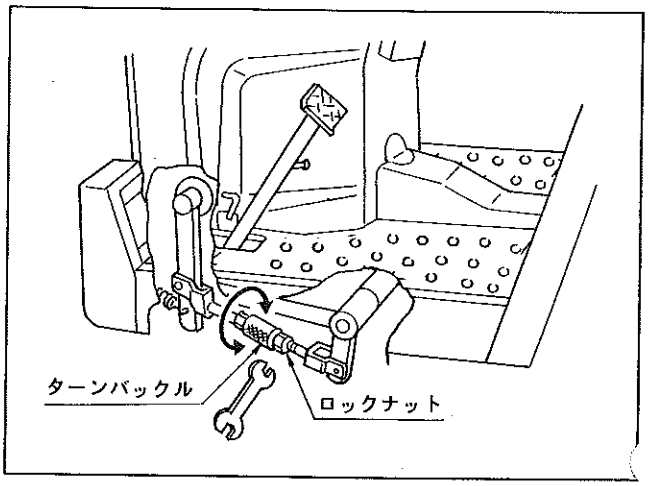
●クラッチの調整が悪いと、クラッチ切れ不良、スリップを起こし損傷につながります。

▶調　整

(1) ロックナットをゆるめます。

(2) ターンバックルを回してペダルの遊び量を20～30㎜に調整します。

(3) ロックナットを確実に締付けてください。

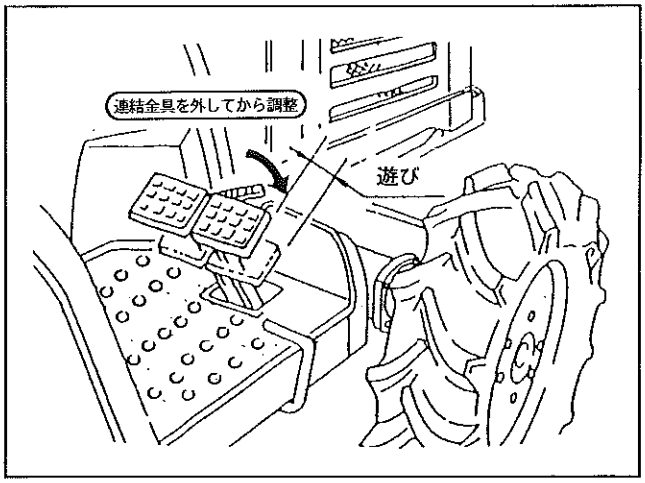


■ブレーキペダル

> **注意**
>
> 調整時左右のペダルの踏込み量を必ず合わせてください。合わせていないと、ブレーキが片ぎきになり、傷害事故を引き起こす恐れがあります。

▶点　検

左右のペダルの遊び量を「20～30㎜」および左右ブレーキの踏込み量が「不均一」になっていないかを調べます。



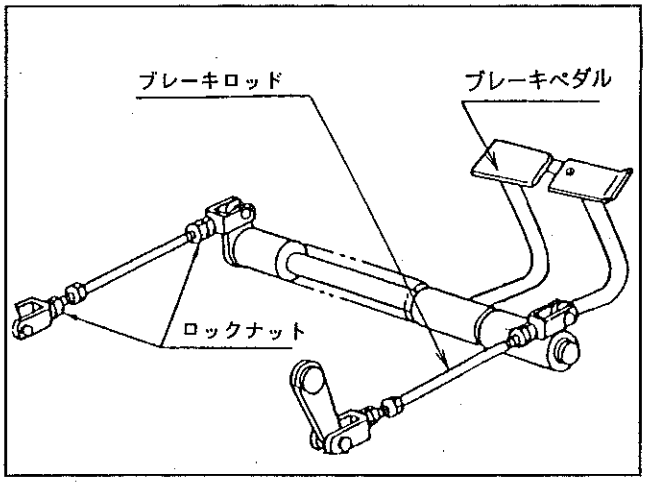
▶調　整

(1) パーキングブレーキを解除します。

(2) ロックナットをゆるめ、ロッドを回してペダル遊び量が「20～30㎜」になるよう、また踏込み量が「均一」になるように調整します。

(3) 前後２カ所のロックナットを確実に締付けてください。

(4) 調整後、パーキングブレーキが確実にかかる事およびブレーキが正常に作動することを確認してください。

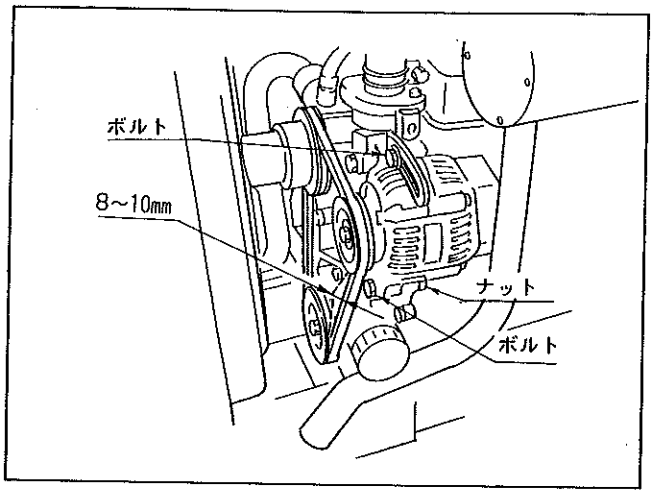


■ファンベルトの張り具合

▶点　検

ベルトの中央部を指先で押さえて８～10㎜程度たわむか確認してください。

ベルトの張りがゆるいと、オーバーヒートや充電不足の原因になります。



▶調　整

(1) オルタネータを取付けているナットとボルトをゆるめます。

(2) オルタネータを動かし、ベルトの張りが８～10㎜たわむ程度に調整します。

(3) 調整後はナットとボルトを確実に締付けます。

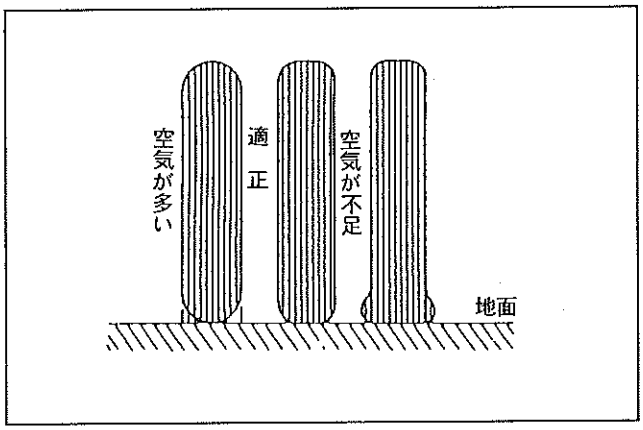
(4) ベルトに亀裂やはがれがないか点検し、損傷があれば新品と交換してください。

警告

マフラーは、エンジン停止直後にさわると、やけどをすることがあります。エンジン停止後十分冷えてから点検を行なってください。

■タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安は次の通りです。



▶標準空気圧

	空　気　圧 (kgf/cm²)	
前　輪	TM15 TM17	1.2 (ただしN型式は2.2)
後　輪	1.6	

警告

(1) タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは、タイヤ破損のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。

(2) タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。
タイヤ破損のおそれがあります。

(3) タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は、必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように、法で決められています。）

■アクセルレバー

アクセルレバーの回動が重くなったり、軽くなったりしたときは、調整をサービス工場に依頼してください。

■ステアリング

ステアリング系統には、はなはだしい遊びやガタがないことを確認してください。
遊びはステアリングホイルの外周で30～60㎜が標準です。

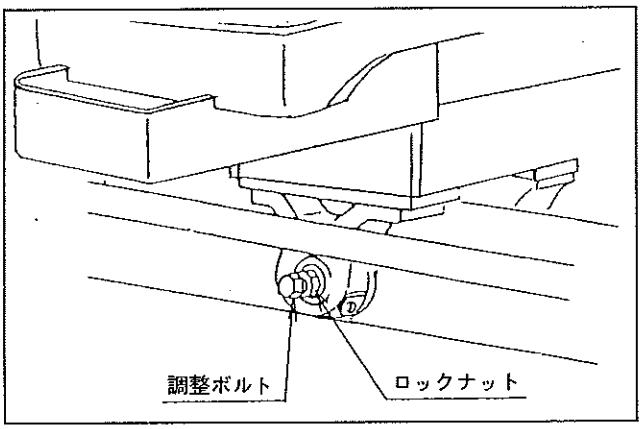
■フロントアクスル支持部

▶点　検

前後方向のガタを点検し、ガタがあれば調整します。

▶調　整

(1) ジャッキで前部を持上げ前輪を浮かします。
(2) ロックナットをゆるめ、ボルトを締込み、ガタを調整します。(前後のガタ0.1～0.3㎜)
(3) ロックナットを確実に締付けてください。



格納時の取扱い

■日常の格納

日常の格納および短期間の格納は、次の要領で行なってください。

(1) トラクタはきれいに清掃しておきましょう。特に代掻、湿田作業後は、きれいに洗車してください。

(2) タンク内防錆のため、燃料は満タンにしてください。

(3) 作業機は必ず降ろしてください。

(4) 格納はできる限り屋内にしてください。

(5) 厳寒時はバッテリをはずし暖かい室内などに保管すると始動時に効果があります。

(6) 外気温が0℃以下になるときは、エンジン凍結割れ防止のため、不凍液を入れるか、または冷却水を完全に抜いてください。

重要

- **洗車するときは、メータパネル、電装品、およびサイドカバー等のマーク貼付部には圧力水をかけないでください。圧力水をかけると、故障の原因となったり、マークのはがれ、部品の変形を起こしたりします。**
- **漏電の原因となるため、メインスイッチのキーは抜いておいてください。**

■長期格納

トラクタを長い間使用しない場合は、きれいに清掃し次の要領で格納してください。

(1) 不具合箇所は整備してください。

(2) エンジンオイルを新しいオイルと交換、5分ほどエンジンをアイドリング回転にて運転し各部にオイルをゆきわたらせます。

(3) ラジエータの冷却水を抜いてください。
排水後「水なし」と書いた札をハンドルにかかげておきましょう。

(4) 各部の給油を必ず行なってください。

(5) 各部のボルト、ナットのゆるみを点検し、ゆるんでいれば締めてください。

(6) タイヤの空気圧は標準よりも少し多目に入れてください。

(7) バランスウエイトなどは外しておきましょう。

(8) 作業機は取外すかまたは下に降ろしてください。

(9) 格納場所は、周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し、シートをかけるようにしましょう。

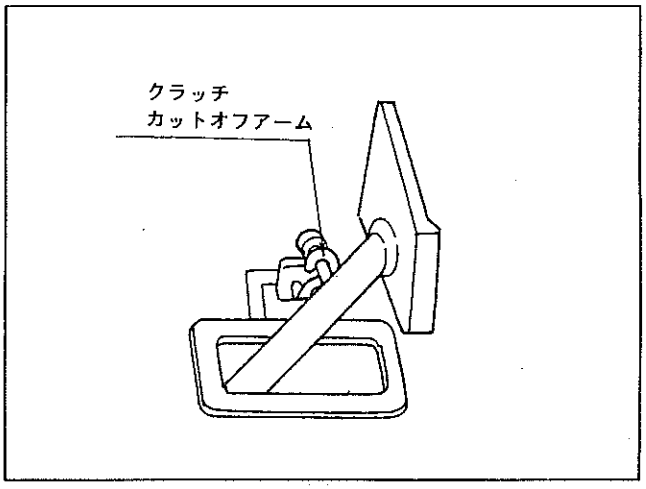
警告

作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です。

(10) 後輪の前後に車止めをしておいてください。

(11) バッテリは、トラクタから外し補充電を行ない、液面を正しく調整して日光の当らない乾燥した場所に保管してください。どうしても取付けたまま保管しなければならない時は、必ずアース側（⊖側）を外してください。

(12) クラッチはカットオフアームを使用し、確実に切れた状態にしておいてください。
クラッチを接続したまま長期間格納すると、クラッチディスクが錆付いてクラッチが切れなくなることがあります。



重要

- **エンジン防錆のため、１ケ月に１回、1500～2000回／分の中速回転で５～10分間運転してください。**
- **バッテリを外さないときは最低限バッテリの⊖端子を外してください。ねずみが配線をかじり、ショートして火災が発生することがあります。**
- **メインスイッチのキーは必ず抜いておいてください。**

■長期格納後の使用

長期格納後の再使用は特に次の内容に注意してください。

- 運行前点検（始業点検）を確実に行なってください。
- エンジンの寿命、性能を保つためエンジン始動後は、アイドリング回転で30分ほど運転してください。

ロータリについて

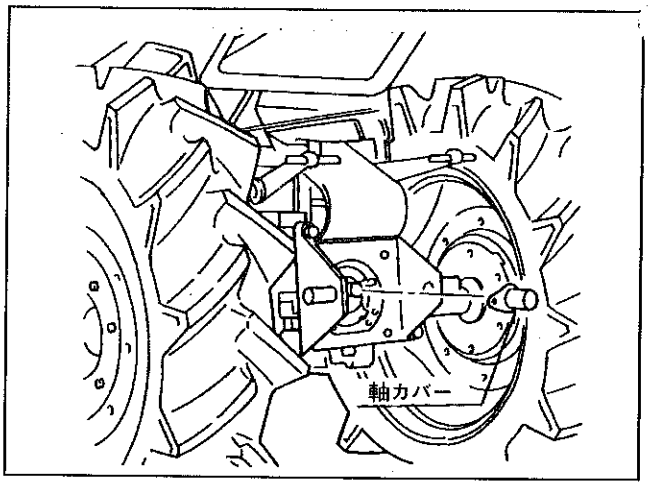
ロータリの取り付け・取り外し

■取り付け前の準備

警告

トラクタのエンジンを停止し、駐車ブレーキをセットして、安全確認して行なってください。
安全を確認せずに行なうと、傷害事故を引き起こすことがあり大変危険です。

(1) ＰＴＯ軸カバーを外します。
安全のため、取り付けてあるトラクタのPTO軸カバーを外してください。ＰＴＯ軸を使わない場合は、必ず元の位置に取り付けてください。

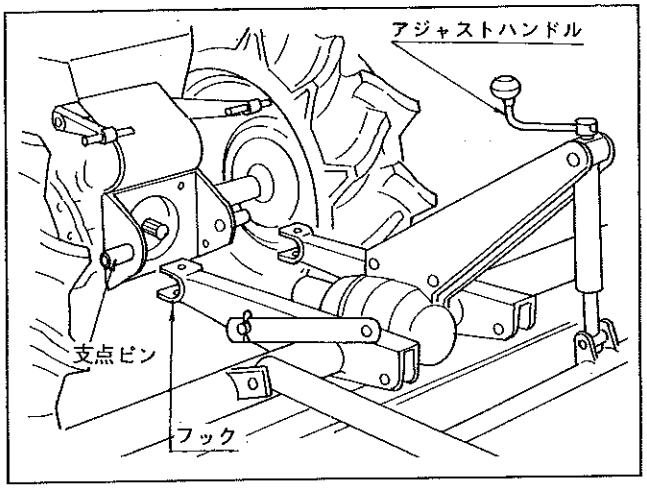


■トラクタへの装着

注意

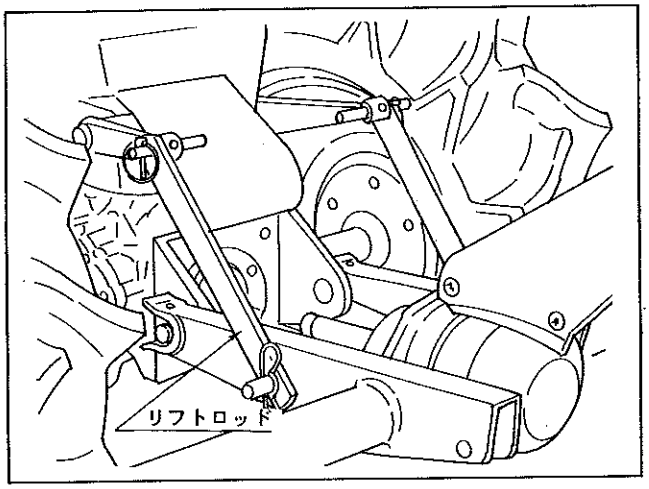
(1) ロータリの取り付け・取り外しは、平たんな場所で行なってください。怠ると機械が急に動いたり傾いたりして、思わぬ事故を引き起こすことがあり大変危険です。
(2) ロータリの取り付け・取り外しは、トラクタと作業機の間に立ってしないで横から扱うようにしてください。トラクタと作業機の間にはさまれたりして、傷害事故を引き起こすことがあり大変危険です。
(3) ロータリに寄りかかったり、乗ったりしないでください。怠ると、転倒したり転落したりして大変危険です。
(4) ロータリの取り付け・取り外しを行なう時は、必ず尾輪（両側）を取り付けて行なってください。
怠ると、ロータリが急に傾いたりして、思わぬ事故を引き起こすことがあり大変危険です。

(1) 路面の平らな場所を選び、ロータリとトラクタの中心を合わせながらロータリの取り付けフックがトラクタの取り付け部（支点ピン）と接触近くまでトラクタをバックさせます。



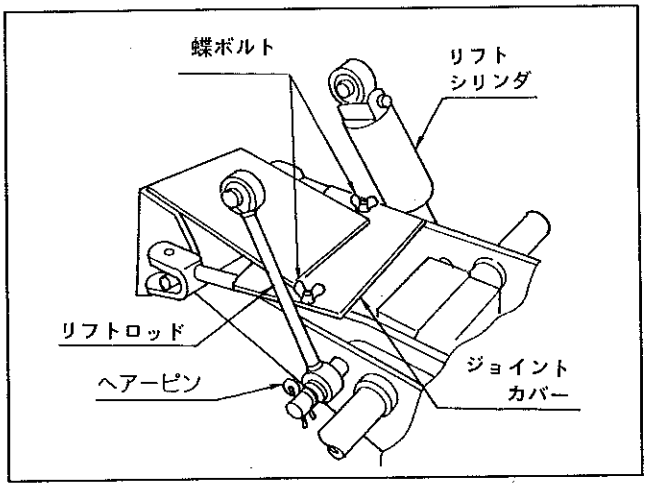
(2) ロータリのフックがトラクタの支点ピンと同じ高さになるようアジャストハンドルで調節し合わせます。

(3) トラクタをバックさせロータリのフックを支点ピンに入れリフトロッドを取り付けてください。

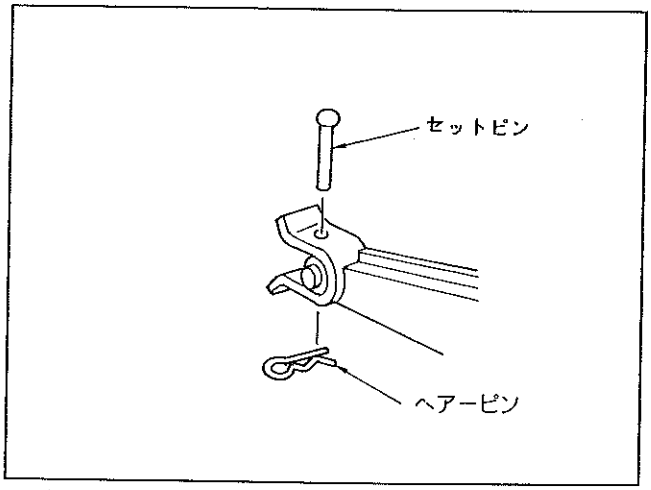


(4) X型トラクタの場合

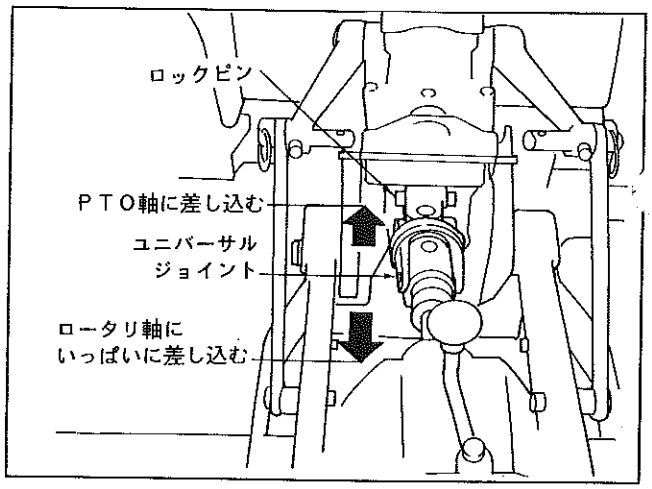
トラクタをバックさせロータリのフックを支点ピンに入れ、まず左側のリフトロッドを取り付け、次に手動スイッチでリフトシリンダの長さを調整して取り付けヘアーピンを挿入してください。



(5) 連結後ロータリを少し吊り上げてセットピンをロータリのフックに通しヘアーピンにてセットしてください。



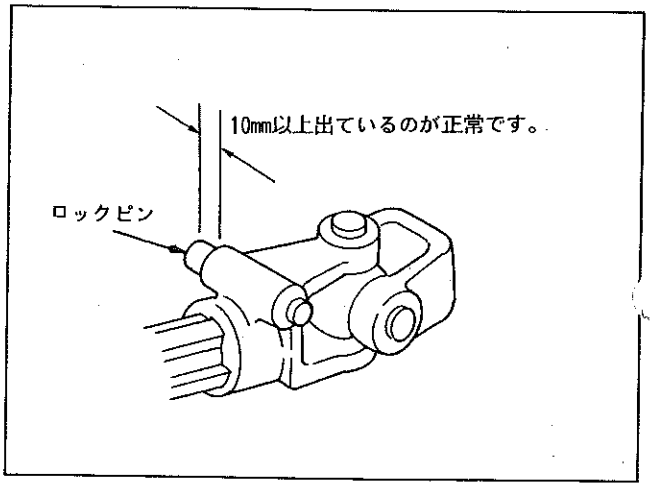
(6) ユニバーサルジョイントの取り付けは、まずロータリ側の軸にいっぱい差込み次にトラクタのＰＴＯ軸にロックピンを押さえながら入れＰＴＯ軸にセットしてください。



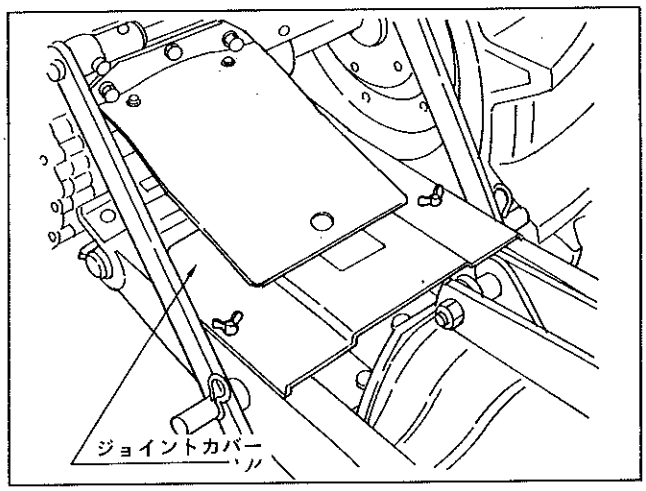
警告

(1) ユニバーサルジョイントを取り付ける時は、トラクタのエンジンを停止し、駐車ブレーキをセットしてから行なってください。怠ると衣服を軸に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすことがあり大変危険です。

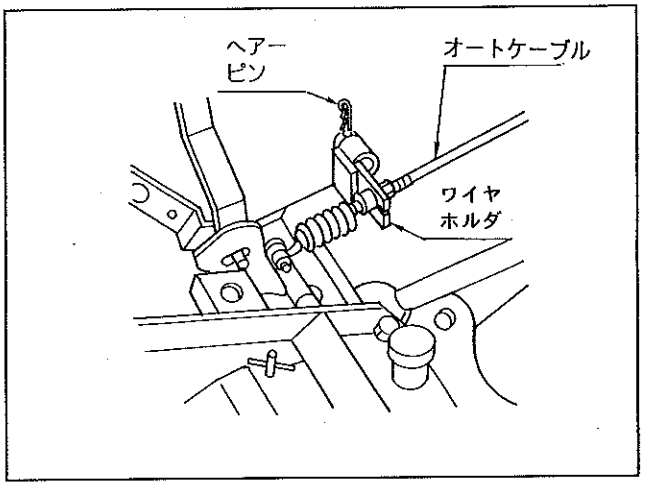
(2) ユニバーサルジョイントが確実にセットできた事を確認してください。
（ロックピン頭が10㎜以上出ているかどうかで確認してください。）



(7) チョウボルトにてジョイントカバーを取り付けてください。



(8) D型トラクタの場合
ロータリを装着後、オートケーブルを取り付けてください。



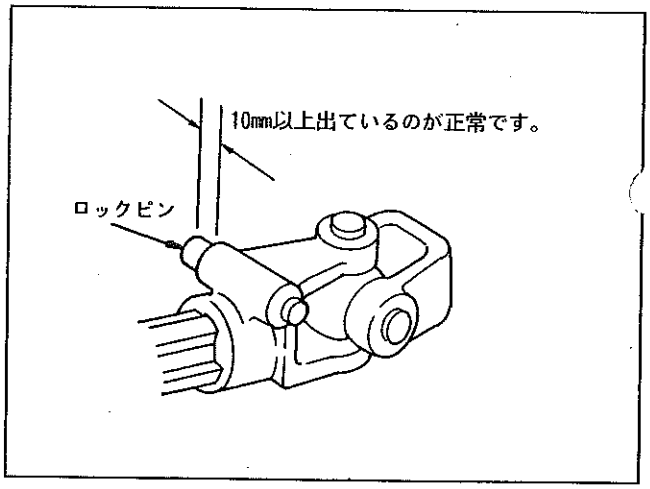
■ロータリの取り外し

取り付け方法の逆順序で行なってください。

作業前の点検

警告

点検は、必ずトラクタのエンジンを停止し、駐車ブレーキをセットし、油圧降下速度調節つまみを締め込み油圧をロックして行なってください。怠ると、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして大変危険です。



■点検箇所

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。作業点検は毎日欠かさず行なってください。

点検は次の順序で実施してください。

(1) 前日の異常箇所

(2) ロータリ取り付け部の点検

①ピンの抜け、脱落

②ユニバーサルジョイントのロックピンのロック状態

(3) ロータリ各部の点検

①ロータリ各部のボルト・ナットのゆるみ

②耕うん爪取り付けボルトのゆるみ

③ギヤケースのオイル量確認

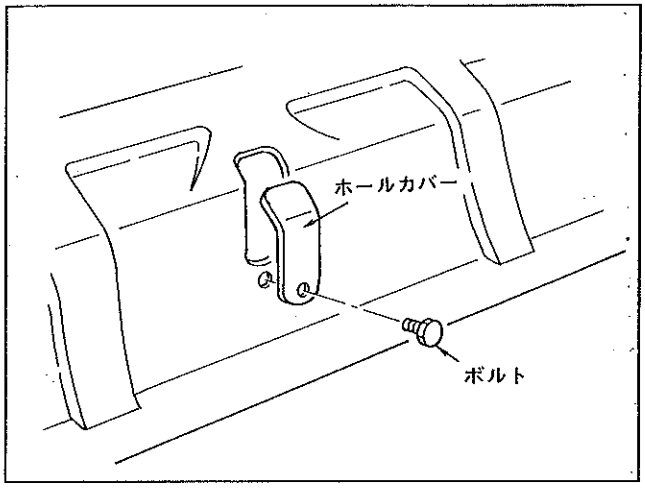
重要

● オイルは工場出荷時に入れてありますが、念のためご使用前に確認してください。

作業に適した調整と使いかた

■ホールカバー

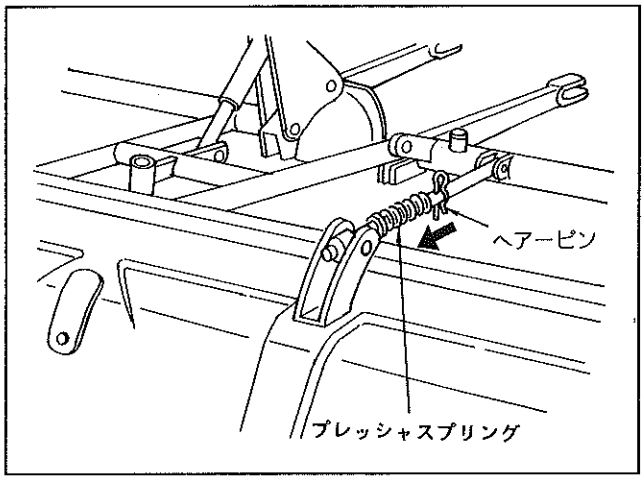
畦立作業をする時に、取外してください。
ボルトを取り、ホールカバーを取外してください。



■プレッシャスプリングの調整のしかた

凹凸の激しいほ場、畦くずし、自動耕深調節作業などで、表面の仕上りを水平にしたい場合にプレッシャスプリングを働かせてください。

(1) 耕うんを行ない、その状態でトラクタを停止し、エンジンを止めてください。
(2) プレッシャスプリングが2～3cmたわむ位置までスプリングを手前に引っ張り、ヘアーピンで位置決めをしてください。
(3) 加圧力の調整は、ヘアーピンの位置を変える事によって、行ないます。矢印方向にセットするに従って、強くなります。



警告

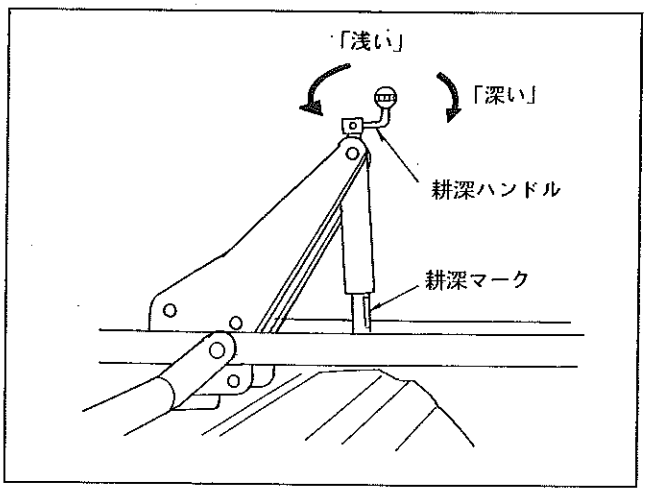
プレッシャスプリングの調整を行なう時は、ロータリを地上に降ろし、トラクタのエンジンを停止してから行なってください。怠ると、ロータリが落下したり、衣服を爪軸に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすことがあり大変危険です。

重要

- **必要以上に加圧力を強くしますと馬力ロスの原因となります。**

■耕深調整のしかた

耕深ハンドルを回すことにより、耕深を自由に選ぶ事ができます。また、耕うん深さ調整の目安として「耕深マーク」の目盛りをご活用ください。

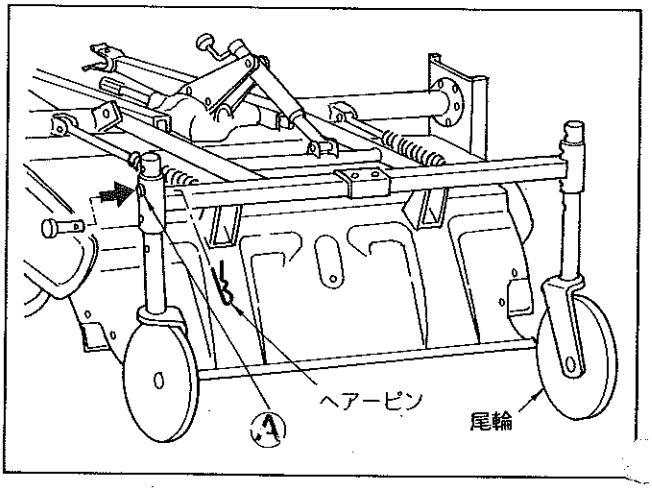


注意

作業中の側方及び前方からの耕深調整は絶対しないでください。もし必要の場合はトラクタを停止してから行なってください。

■尾輪の調整のしかた

尾輪は、上下方向に８段階の調整ができます。
耕深ハンドルを回すことにより、耕うん深さの調整を行ないますが、湿田耕うんや、代かき作業で希望する耕深が得られない時は、尾輪の上下も合わせて調整してください。



重要

●作業中、Ⓐ部のピンは必ず外側から挿入してください。ヘアーピンが抜ける恐れがあります。

作業方法

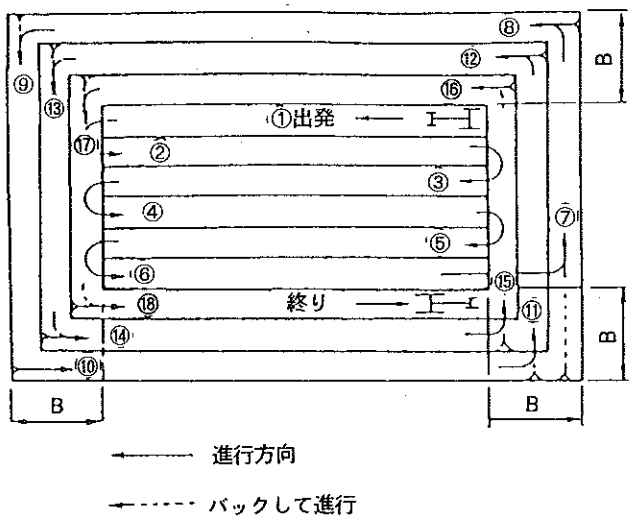
■隣接耕うん

(1) 1枚のほ場を耕起する方法は種々ありますが、図のような方法が能率もよく最も一般的な耕法です。

(2) 出発点は最後にトラクタが外へ出る場所によってきまります。

(3) 旋回あるいはバックする場合は必ずロータリを上げてください。

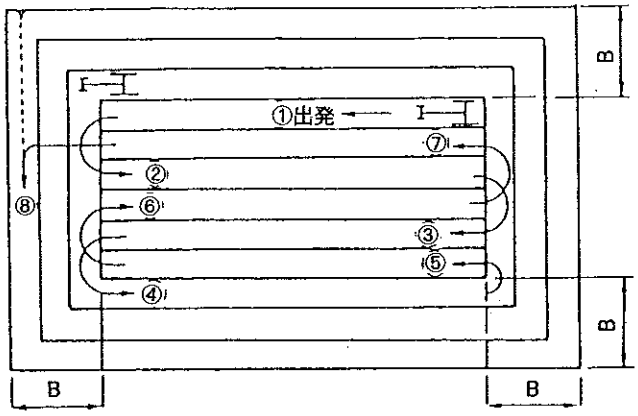
(4) Bの幅はロータリの耕幅の3回分より少し狭くします。



■隔耕うん

(1) 小回りのむずかしい場合や、うねくずし、代かき作業に適します。

(2) 枕地の耕うんは隣接耕うん法と同様に行なってください。



重要

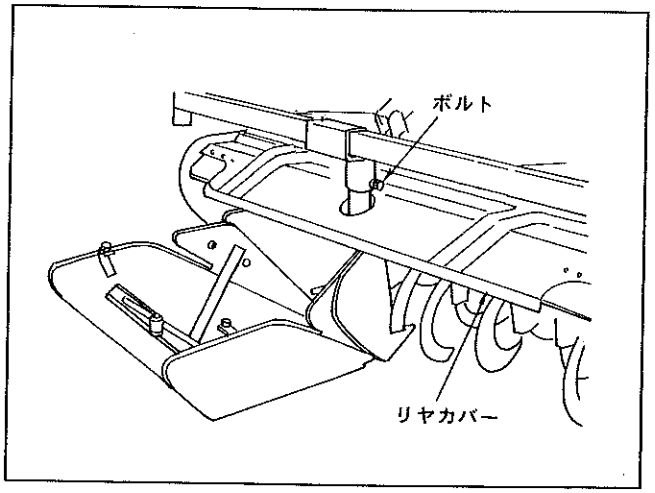
●作業中のロータリ落下速度は、油圧レバーを下げてから接地までの時間を1.0～1.5秒前後に調整してください。調整は、トラクタの油圧降下速度調節つまみで行なってください。

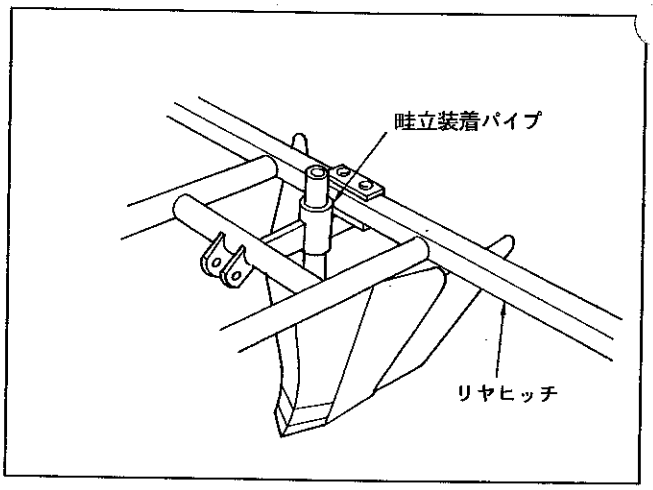
畦立器の取り付けと作業のしかた

■畦立器の取り付けかた

(1) ホールカバーのボルトを外し、ホールカバーを取り外します。

(2) リヤカバーの下側から畦立器を入れ、リヤヒッチの畦立装着パイプに取り付け、ボルトで締付けてください。





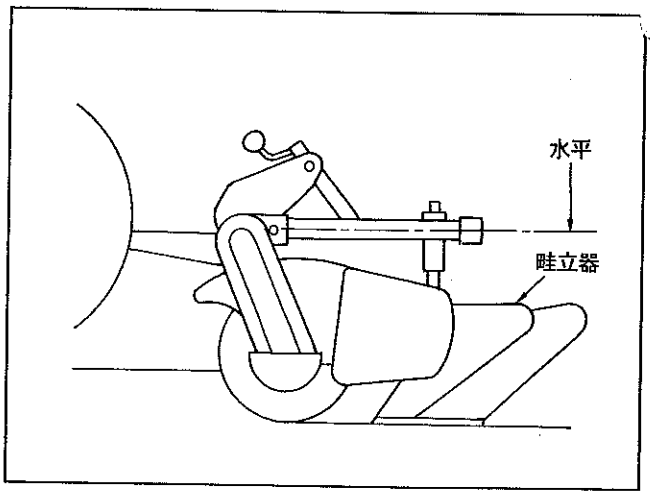
■畦立作業のしかた

(1) 畦立器は希望する耕深でリヤヒッチが水平となるように調整してください。

(2) ロータリの性能を十分発揮するため、畦立器が耕うん爪と接触しない範囲で近接させて使用してください。

(3) 耕深は、畦立器によって決まりますので、尾輪（両側）は取外してください。

(4) 作業条件により、ＰＴＯ変速及び走行速度を選んでください。



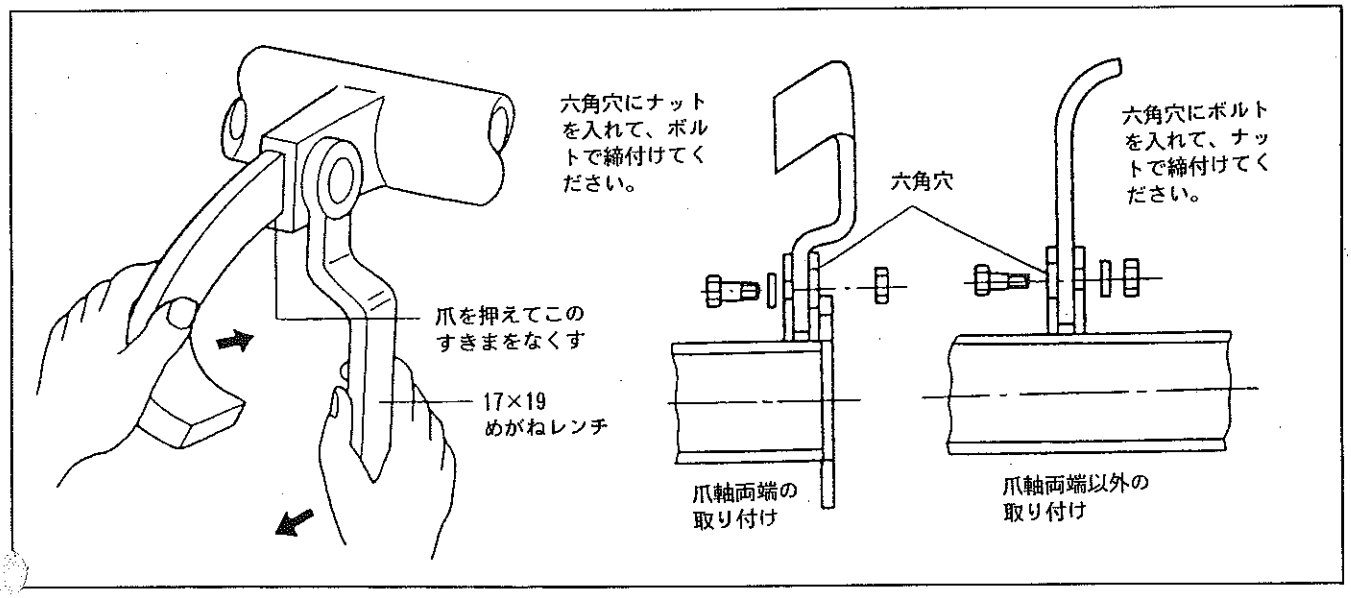
耕うん爪について

警告

(1) 耕うん爪の交換及び増締めする時は、トラクタを平たんな広い場所に置き、エンジンを停止して駐車ブレーキをセットし、行なってください。怠ると機械が急に動いたり、傾いたりして、傷害事故を引き起こす事があり大変危険です。

(2) ロータリの落下を防止するため、油圧降下速度調節つまみを締込み、油圧をロックしてください。なお、より安全性を確保するために、爪軸の下に木の台などをして行なってください。怠ると、ロータリが落下したりして、傷害事故を引き起こす事があり大変危険です。

■耕うん爪の取り付けかた



重要

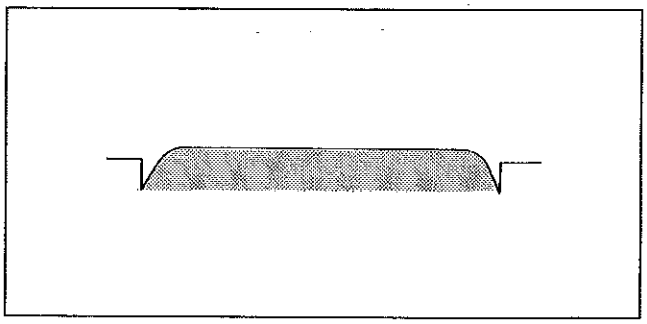
- 爪を抜いて作業すると、爪軸のバランスが狂い、振動や騒音が出ることがありますので、注意してください。
- メガネレンチで力いっぱい締付けてください。
- 耕うん爪は、回転径の正しい「キセキ純正部品」をご使用ください。

■爪配列

爪の配列は、作業に合わせて次の通り使いわけることができます。作業内容に合わせて選択してください。

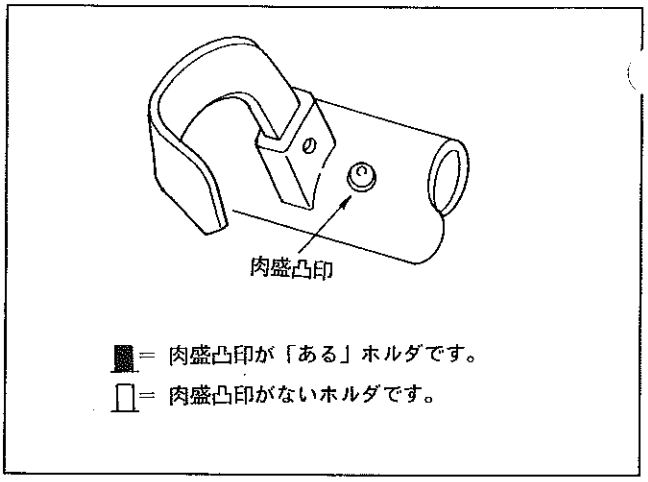
(1) 平面耕（標準）

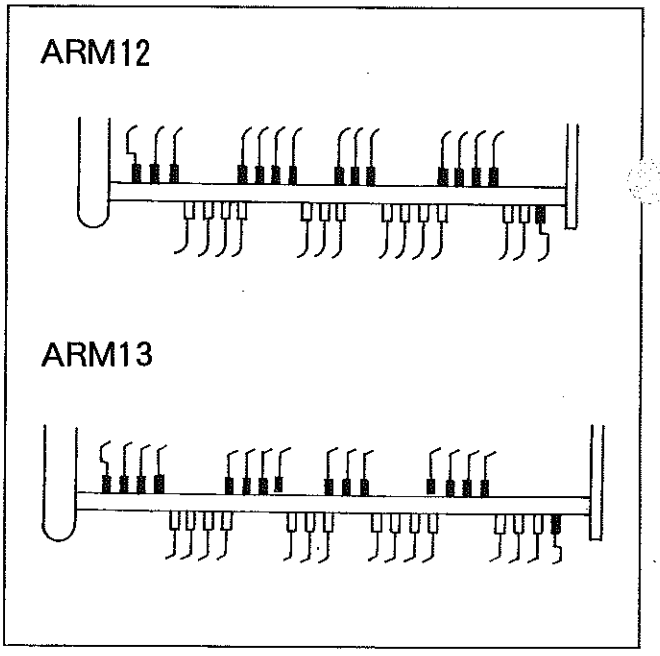
一般水田・畑の耕うん作業・代かき作業・畑の細土・均平作業等に使用できます。



重要

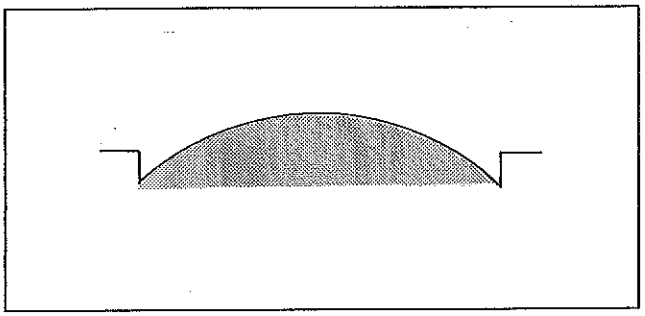
●肉盛凸部のあるホルダには、肉盛凸印側に爪の曲りがくるように取り付けます。その他のホルダには逆に曲った爪を取り付けてください。

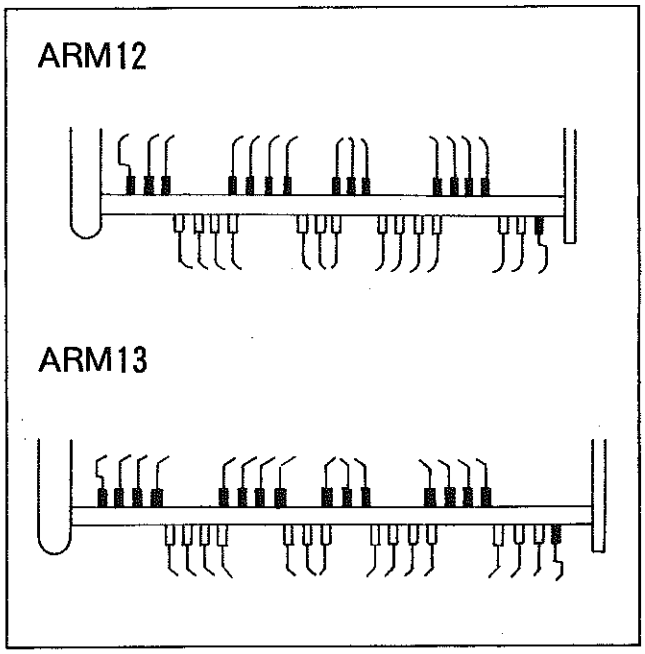




(2) 内盛耕

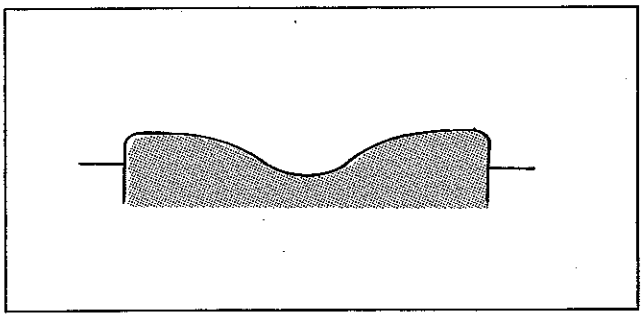
乾土効果を必要とする水田耕うん作業に使用できます。

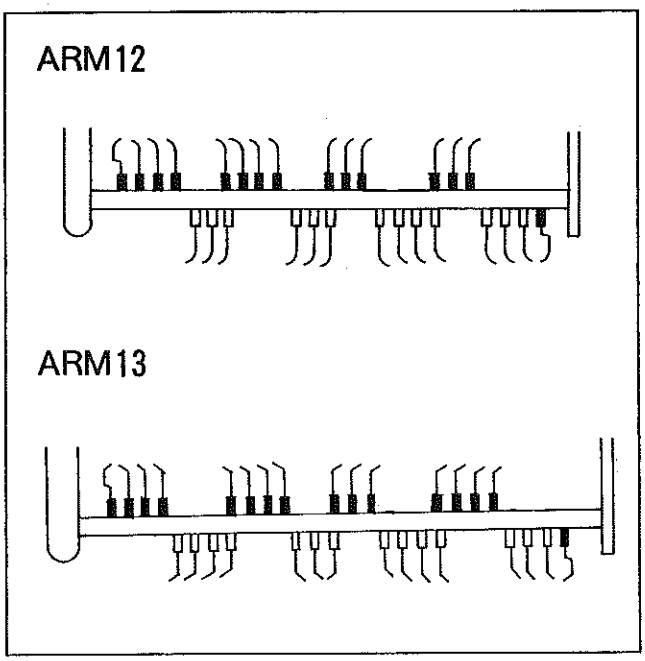




(3) 外盛耕

乾土効果を必要とする水田耕うん作業、溝をまたいでの畦くずし作業、畦立作業に使用できます。





ロータリの手入れと点検・整備

注意

(1) 定期点検をする時は、トラクタを平たんな広い場所に置き、エンジンを停止して、駐車ブレーキをセットし、行なってください。怠ると機械が急に動いたり、傾いたりして、傷害事故を引き起こす事があり大変危険です。

(2) ロータリの落下を防止する油圧降下速度調節つまみを締込み、油圧をロックしてください。なお、より安全性を確保するために、爪軸の下に木の台などをして、行なってください。怠ると、ロータリが落下したりして、傷害事故を引き起こす事があり大変危険です。

■定期点検箇所一覧表

次の定期点検表に従って、必ず定期点検を実施してください。

No.	点検項目		アワメータ表示時間(Hr)						参照ページ
			50	100	150	200	250	300	
1	ギヤケース チェンケース	油量点検		○	○	○	○		89
		オイル交換	●					○	90
2	グリースの補給 ①ユニバーサルジョイント ②耕深ハンドル・ネジ部 ③ロータリ側入力軸		○	○	○	○	○	○	90
3	注油 ①耕深ハンドル・回転部		○	○	○	○	○	○	91

重要

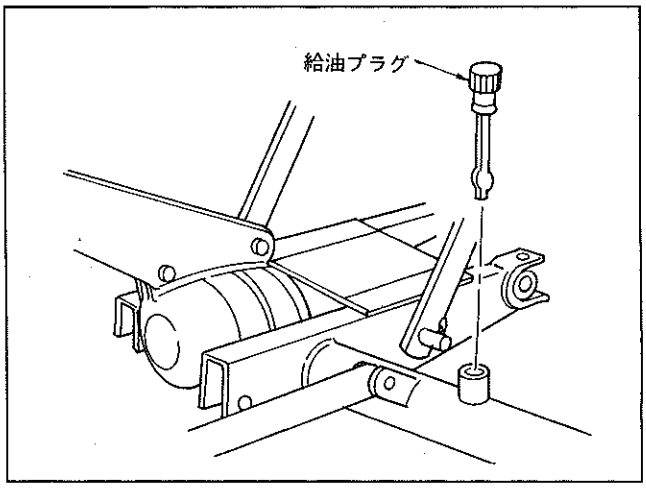
●印は、ならし運転時の50時間使用後に、必ず行なってください。

■オイル量の点検と交換

(1) オイル量点検のしかた

ロータリを降ろして給油プラグを抜き、オイルゲージの先端をきれいにふいて、差込んでから再び抜き「下限」以上オイルがあるか調べます。

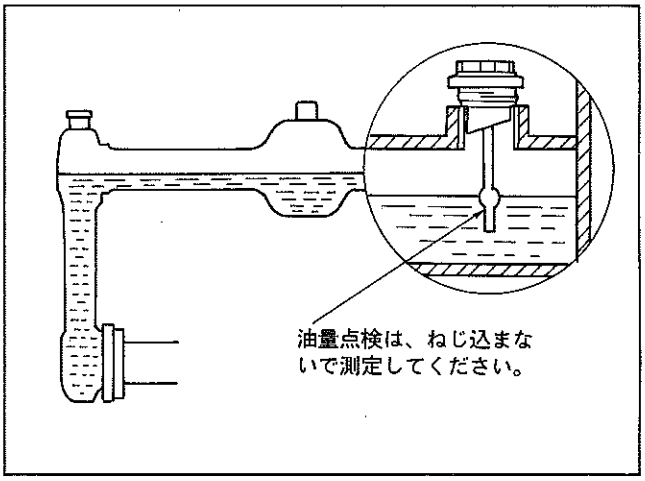
「下限」以下の場合は補給しますが「上限」以上に入れないでください。

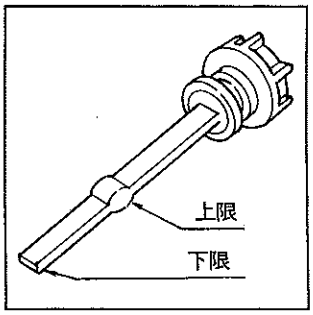


重要

●点検する時は、ロータリをトラクタに装着したまま水平な地面に置いて行なってください。

傾いていると、正確な量を示さないことがあります。



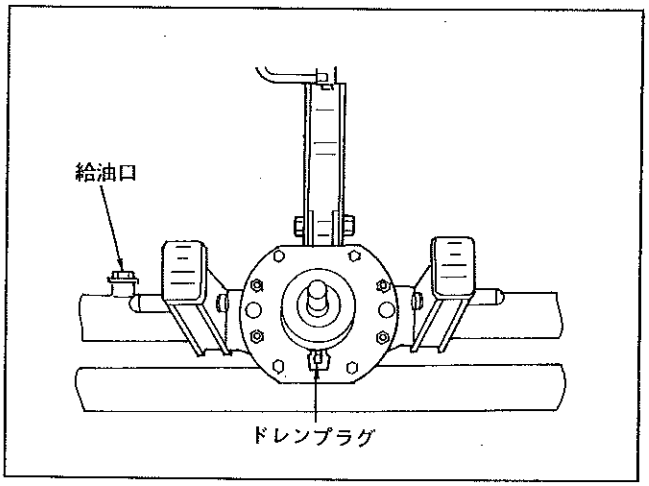


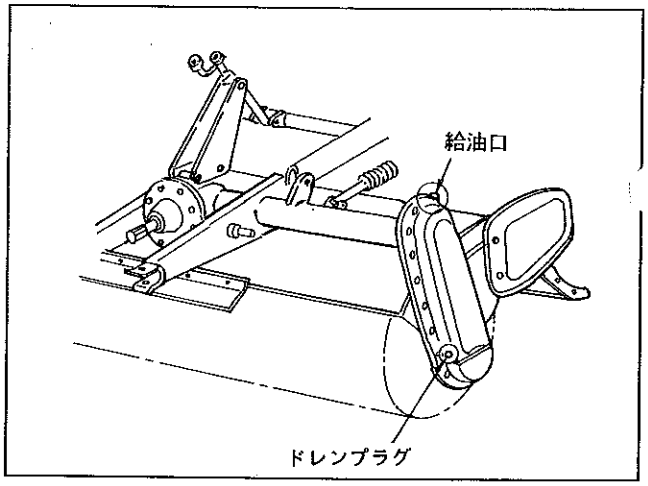
(2) オイル交換のしかた

ギヤケースとチェンケースのそれぞれのドレンプラグを外してオイルを抜きます。オイルが抜けたらドレンプラグをしっかりと締付けてください。

次にオイルを各給油口より規定量（5 ℓ）入れてください。

給油箇所	種　　類	給油量
ギヤケース	ヰセキハイポイド ギヤーオイル#140	5 ℓ



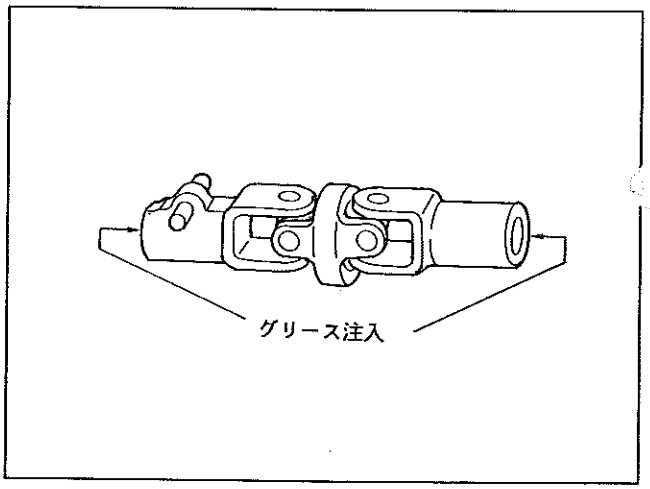


重要

●オイル交換時の規定量（5 ℓ）は完全にオイルを抜き出した場合のオイル量です。オイルゲージにて点検しゲージ上限以上に入れないでください。

■グリースの補給

通常のグリースアップは、定期点検箇所一覧表に従って行なってください。ただし、代かき作業などの作業終了後は必ずグリースアップをしてください。



(1) ユニバーサルジョイント

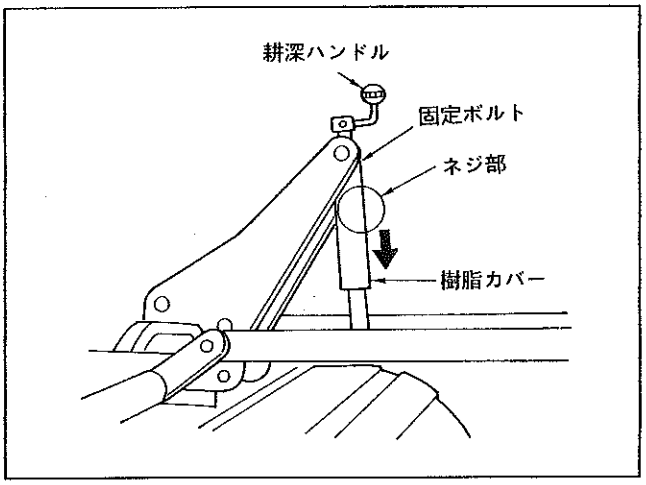
ジョイントを外してスプライン穴部にグリースを薄く塗布してください。

重要

●トラクタ側ＰＴＯ軸・ロータリ側入力軸にも薄く塗布してください。

(2) 耕深ハンドルのネジ部

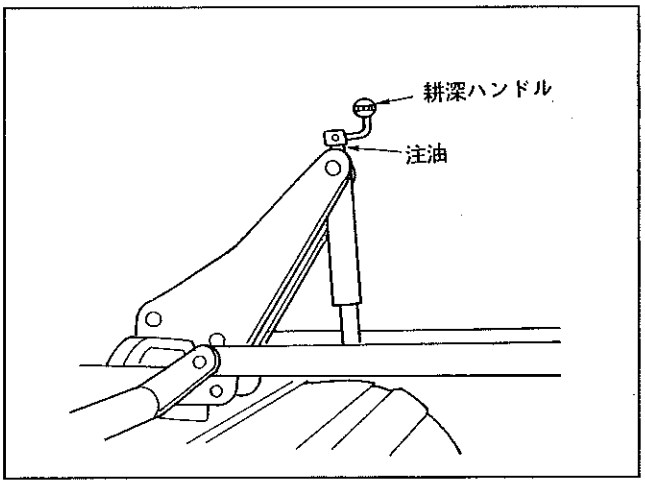
樹脂カバー固定ボルトを外します。ネジ部が見えるまで樹脂カバーをずらし、薄く塗布してください。



■注油箇所

通常の注油は、定期点検箇所一覧表に従って行なってください。ただし、代かき作業などの作業終了後は必ず注油してください。

(1) 耕深ハンドルの回転部

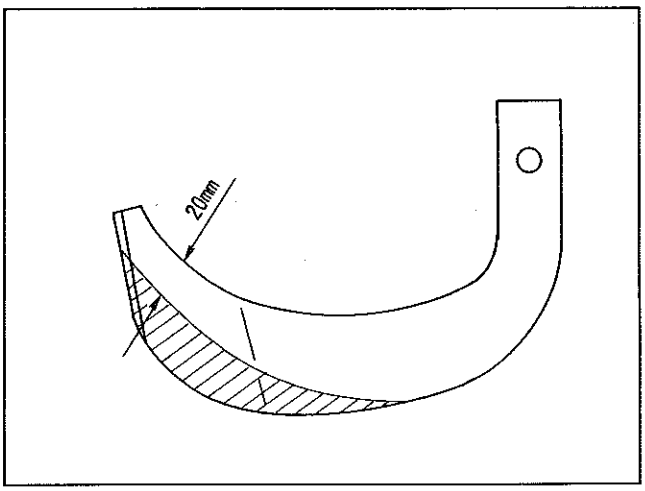


■シールの組替え

整備などの目的でギヤケース、チェンケース等を分解される場合は、必ず新しいオイルシール、メクラブタ等と交換してください。オイルもれの原因となります。液状ガスケットは、スリーボンドＴＢ1208相当品を使用してください。

■耕うん爪の交換時期

耕うん爪が摩耗しますと反転性・細土性が悪くなり、充分な性能が発揮されません。（曲ったり、折れたりしてからでは遅すぎます。）効率の良い耕うん作業をしていただくために、耕うん爪は早目にお取り替えください。



重要

●図のようになりましたら新しい耕うん爪と交換してください。

不調時の処置

本機について

	故障状況	原因	処置
エンジン関係	スタータ・スイッチを回しても、スタータが回らない	○クラッチペダルを踏み忘れていませんか。	○ペダルを踏込む
		○セフティースイッチの故障	○サービス工場で修正または交換
		○バッテリの放電	○バッテリを充電
		○各部端子のゆるみ	○はずれ、ゆるみ、腐蝕を点検し清掃して確実に締付け、グリスを塗布し防錆しておく
		○スイッチの故障	○サービス工場で修理または交換
		○スタータの故障	○サービス工場で修理または交換
	スタータは回るが、回転が上がらない	○バッテリが弱い	○バッテリの充電
		○アース不良	○接続部を清掃しアースを確実に
		○エンジン・オイルの粘度不適	○適性粘度のオイルに交換
		○燃料ポンプの作動不良	○ヒューズの点検
	スタータは回るがエンジンがかからない	○燃料系統にエアー混入	○エアー抜きを行なう
		○燃料フィルタのつまり	○フィルタの清掃または交換
		○燃料が供給されない	○コックを開いて燃料を送る
		○エンジン本体の不具合	○サービス工場で修理する
	エンジン回転が不規則である	○燃料系統エアー混入	○エアー抜きを行なう
		○燃料フィルタのつまり	○フィルタの清掃または交換
		○噴射ノズルのつまり	○サービス工場で修理
		○パイプ系の燃料もれ	○クランプの締付け、パイプ交換 銅ワッシャは表面を磨き締付け
		○燃料噴射の不揃い	○サービス工場で修理
		○燃料ポンプの作動不良	○ヒューズの点検
	エンジンを低速にすると停止する	○インジェクション・ポンプの不良	○サービス工場で修理
		○エンジンのバルブ・クリアランス不良	○サービス工場で修理
		○ノズル不良	○サービス工場で修理

	故障状況	原因	処置
エンジン関係	エンジンが過回転する	○ガバナにゴミ等がつまっている ○オイル上り	○サービス工場で修理 ○サービス工場で修理
	運転中エンジンが突然停止した	○燃料不足 ○エンジンオイル不足 ○ノズル不良 ○オイル不足または潤滑不良によるエンジン焼付	○燃料補給とエアー抜きを行なう。 ○エンジンオイル補給 ○サービス工場に依頼し交換 ○サービス工場に依頼 ○ファンベルトを引張ってクランクプーリが動けば燃料不足か、ノズル不良の場合が多い
	エンジンが過熱する	○冷却水の不足 ○ファンベルトのゆるみ、破損 ○ラジエータの目づまり ○エンジン・オイル不足	○冷却水を補給する ○ベルトの張り調節または交換 ○清掃する ○点検・補給
	エンジンの排気色が白い	○エアー・クリーナがつまっている ○エンジン・オイル量が多すぎる ○燃料供給量の不足	○エレメントの清掃 ○点検し適正量にする ○サービス工場で修理
	エンジンの排気色が黒すぎる	○燃料が良くない ○燃料の供給過剰 ○ノズル圧力の不足	○正規の燃料に入れかえる ○サービス工場で修正 ○サービス工場で修正
	エンジンの出力不足	○ノズルの焼付、つまり及びカーボンがたまっている ○圧縮圧力の不足、バルブ・シート部よりガスもれ ○バルブ・クリアランス調整不良 ○噴射時期不良 ○燃料不足 ○エアークリーナのつまり	サービス工場で修理 ○燃料系統をチェックする ○エレメントを清掃する

故障状況		原因	処置
エンジン関係	運転中エンジンオイル圧力警告灯が点灯する	○エンジン・オイル量が少ない	○規定量まで補給
		○エンジン・オイルの粘度が低い	○適性粘度のオイル交換
		○プレッシャ・スイッチの故障	○スイッチを交換する
		○オイル・ポンプの故障	○サービス工場で修理
		○オイル・フィルター・エレメント目づまり	○エレメントを交換
	運転中にバッテリチャージ警告灯が点灯する	○配線の故障	○端子のゆるみ汚損、ショート、アース不良を修理
		○オルタネータの不良	○サービス工場で修理
		○レギュレータ不良	○サービス工場で修理
		○バッテリの不良または蒸留水不足	○バッテリの交換または蒸留水の補給
		○ファン・ベルトのゆるみまたは破損	○張り調節またはベルト交換
クラッチ関係	クラッチがすべる	○ペダルの調整不良	○ペダルの遊び、踏みしろの調整
		○クラッチ・ライニングの摩耗・焼損	○サービス工場で修正または交換
	クラッチが切れない	○クラッチ・ライニングの錆付き	○サービス工場で修理する
		○ペダルの調整不良	○ペダルの遊び、踏みしろ調整
ブレーキ関係	ブレーキのききが悪い。または片ぎきである	○ブレーキ・ペダルの遊びが多すぎる	○遊び量を調整する
		○ライニング摩耗・焼付	○サービス工場でライニング交換
		○左右の踏込み量が異なる	○踏込み量を左右同じにする
	ブレーキ・ペダルの戻りが悪い	○ブレーキ戻しスプリングの損傷	○スプリング交換
		○各摺動部のグリース切れ	○錆を落としグリース・アップ

	故障状況	原因	処置
バックアップ関係	バックアップしない	○バックアップスイッチ「切」になっている ○バックアップスイッチの不良 ○配線不良	○バックアップスイッチ「入」にしてください ○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で修理または交換
水平制御関係	水平制御装置不調 ○水平手動スイッチを操作しても動かない	○ヒューズの断線 ○バルブ配線のはずれ ○配線の不良 ○バルブゴミ詰り	○配線をチェックし、ヒューズを交換する ○カプラを接続 ○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で修理または交換
	○水平切換スイッチを「平行」にしても平行にならない	○ストロークセンサリンクはずれ ○ストロークセンサ調整不良	○リンクを組付ける ○サービス工場で修理または交換
	○水平切換スイッチを「自動」にしてもロータリが水平にならない	○傾き調整ダイヤルの調整不良 ○スロープセンサの不良 ○スロープセンサの調整不良 ○配線の不良	○トラクタを平たんな所に置いて、ロータリが地面と水平になる様に調整してください。 ○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で調整 ○サービス工場で修理または交換
操行関係	ハンドルが重い ハンドルがとられる	○トーインが正しくない ○タイヤ空気圧の不揃い ○各エンドにガタがある	○サービス工場で修理 ○左・右共に規定空気圧にする ○増し締めまたは部品交換
	ハンドルの遊びが多い	○ハンドル・シャフトの摩耗 ○各エンドにガタがある	○サービス工場で修理 ○サービス工場で修理

	故障状況	原因	処置
電装関係	バッテリが充電しない	○スローブローヒューズの断線 ○配線の故障 ○オルタネータの不良 ○レギュレータ不良 ○ファンベルトのゆるみまたは破損 ○バッテリの機能不良	○配線チェック後にスローブローヒューズの交換 ○端子のゆるみ汚損、ショート、アース不良を修理 ○サービス工場で修理 ○サービス工場で修理または交換 ○張り調節またはベルト交換 ○端子のゆるみ、腐蝕、電解液の不足などを修正する
	ヘッド・ランプが暗い	○バッテリの性能低下 ○結線、接触不良	○充電する ○アース及びターミナルの点検清掃及び増し締め
	ヘッド・ランプが点灯しない	○電球の断線 ○ヒューズの断線 ○接触不良	○電球交換 ○配線をチェックしヒューズを交換する ○アース及びターミナルの点検清掃
	ホーンが鳴らない	○ホーン・ボタンの故障 ○配線不良 ○ホーンの損傷	○交換する ○修理する ○修理または交換する
	ウインカが点滅しない	○電球切れ ○フラッシャ・ユニットの故障 ○接触不良	○電球を交換する ○交換 ○アース及びターミナルの点検清掃

	故障状況	原因	処置
ロータリ関係	ジョイント鳴きの発生	○スプライン部等の摩耗によるガタ	○交換
	注油キャップ部よりの油漏れ	○オイル量の調整不良	○点検・調整
	ギヤ音の発生	○噛み合い不良	○サービス工場で修理
	残耕の発生	○耕うん爪の摩耗 ○耕うん爪の変形	○交換 ○修理または交換
	耕うん時の異音・振動	○爪取付ボルトのゆるみ ○爪配列不良 ○特殊耕うん爪の使用	○増締め・調整 ○爪配列の点検・調整 ○交換（純正品の使用）
	土寄りがする 整地・均平性が悪い	○爪配列不良	○爪配列の点検・調整
		○リヤカバーの押え力不良	○加圧スプリングの調整
		○リヤカバーの変形	○修理または交換

農作業を安全に行なうために

農林水産省より、安全に農作業に従事できるように、農業機械を使用する時の注意事項が「農作業安全基準」として定められています。

この項は、トラクタを使用される方のために特に重要な項目を「農作業安全基準」より抜粋しています。

取扱説明書の内容と併せて熟読の上、事故のない楽しい農作業のためお役立てください。

■トラクタを使用する人の条件

(1) 農用トラクタを使用する作業（以下「トラクタ作業」という。）に従事する者は、運転する機械の操作に十分熟練した者であること。また、運転者は、必要な運転免許をもっている者であること。

(2) 次に該当する者は、トラクタ作業に従事しないこと。

ア 精神病者

イ 酒気をおびた者

ウ 過労、病気、薬物の影響その他の理由により正常な運転操作ができない者

エ 妊娠中の者

オ 18才未満の者

(3) トラクタ作業に従事する者は、とくに健康に留意し、適当な休養をとること。

(4) 服装および保護具の使用

次の農作業に際しては、適正な服装および保護具を用い危険のないよう作業に従事すること。

ア 頭の傷害防止の措置

機械からの墜落および落下物の恐れの大きい場合、交通頻繁な道路での運行の場合等では、頭部保護のために適正な保護具を用いること。

交通頻繁な道路を運行する場合および乗用型トラクタによる作業に従事する場合には、ヘルメットを着用すること。

イ 巻き込まれによる傷害防止の措置

原動機もしくは動力伝動装置のある作業機または駆動する作業機を使用する場合には、衣服の一部、頭髪、手ふき等が巻き込まれないように適正な帽子および作業衣等を使用すること。

ウ 足の傷害およびスリップ防止の措置

機械の作業において、作業機等の落下、土礫の飛散、踏込、踏抜きおよびスリップ等の恐れのある場合には、これらの事故を防止するために適正なはきものを用いること。

エ 粉塵および有害ガスに対する措置

多量の粉塵および有害ガスが発生する作業にあっては、粉塵および有害ガスによる危険防止のための適正な保護具を使用すること。

オ 農薬に対する措置

防除作業においては、呼吸器、目、皮膚等からの農薬による傷害防止のために適正な保護具（保護衣を含む）を使用すること。

カ はげしい騒音に対する措置

はげしい騒音を伴う作業にあっては、耳を保護するための適正な保護具を使用すること。

キ 保護具の取扱い

安全保護具を、常に正常な機能を有するように点検し、正しく使用すること。

■保守管理

(1) トラクタの運転者は、使用の前後に日常の点検整備を行なうほか、定期的に点検整備を行ない、つねに、トラクタ・作業機およびトレーラーを安全な状態に保つこと。

(2) トラクタの運転者は、トラクタおよび作業機の操縦装置、防護装置等危険防止のために必要な装置を、常に点検整備し、正常な機能が発揮できるようにしておくこと。

(3) トラクタおよび作業機の点検整備および修理は交通の危険がなく平坦である等安全な場所でかつ安全な方法で確実に行なうこと。また、屋内でエンジンを運転して点検整備を行なう場合には、換気を適正に行なうこと。

(4) トラクタの点検整備は、必ず原動機を止め、駐車ブレーキをかけ、車止めをつかう等安全な状態で行なうこと。また、油圧装置で重い機械が持ち上げられている下で作業しなければならないときは、ロック装置のあるものについては必ずそれを使用し、かつ、ささえ棒をつかう等急激な落下を防止する措置を講じて行なうこと。

(5) 作業機を上げた位置で点検調整等を行なう場合には、ロック装置のあるものについては、必ずこれを使用し、かつ、ロック装置の有無にかかわらず作業について落下防止の措置を講ずること。

(6) 原動機を停止して点検整備中、不注意により原動機が始動しないような措置を講ずること。

(7) トラクタ、トレーラー等を持ち上げ、その下で修理、車輪幅の調整、車輪の交換等を行なう場合は、地面についている車輪には、車止めをかけること。持ち上げるときのささえは、十分な強度と安全性を有することを確認すること。ジャッキを使用する場合は、ジャッキを車輪またはギヤボックス等安全な箇所にかけ、ジャッキの下は平にして、たおれたり、はずれたりしないようにすること。

(8) トラクタおよび作業機にとりつけられている防護装置等を、トラクタおよび作業機の点検整備または修理等で取りはずす場合は、その部分の作動が停止していることを確認したのち取りはずすこと。また、取りはずした防護装置は、必ず復元すること。

(9) エンジンが動いているときまたは過熱しているときに、燃料の補給をしないこと。
また、燃料の補給時または燃料庫付近では、火を使わず、また喫煙しないこと。
夜間に給油を行なう場合は、裸火を照明に用いないようにとくに注意すること。

(10) ラジエータへの給水のために過熱したラジエータキャップをはずすときは、蒸気または熱湯が噴出する恐れがあるので十分注意すること。また、過熱したラジエータに急に冷たい水を入れると、ラジエータが破裂する恐れがあるので注意すること。

(11) バッテリの点検はエンジンの始動前に行なうこと。また、バッテリには、火気を近づけないこと。とくにバッテリの栓をあけるときは、電解液にふれないように注意すること。

(12) 点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、正しく使用すること。なお、トラクタには、点検整備に必要な工具類を常備しておくこと。

■火災防止と危険物の安全管理

(1) 火災防止

ア 作業中可燃物を原動機、火元等に近づけないこと。

イ 作業中火災の起らないように原動機、火元等を安全に取り扱うこと。

(2) 危険物の安全管理

ア 危険と思われる機械は、作業終了後、おおいをする等安全を確保するための措置を講ずること。

イ 引火または爆発の恐れのある燃料等は、作業終了後必ず所定の格納庫に入れるか、危険のない場所におき、火気厳禁の表示をすること。

ウ 可燃性物質は、作業後火気のない安全な場所に移すこと。

■作業機の着脱および調整

(1) 作業機の着脱は、平坦な場所等の安全な場所で、かつ、安全な方法で確実に行なうこと。特に夜間の作業機の着脱は、安全で適切な照明を用いる等安全に留意して行なうこと。

(2) 乗用型トラクタを移動して作業機を装着する場合には、トラクタと作業機の間に人が入らないように注意すること。トラクタと作業の連結に際しては、いつでも逃げられる安全な態勢で操作し、このときトラクタは必ずブレーキで止めておくこと。

(3) 作業機の装着が終わったときは、確実に装着されているかピンに抜止ピンがしてあるかどうか確認すること。

(4) ユニバーサル・ジョイントは、作業中できるだけ真直ぐになるようにトラクタに装着すること。

(5) 重い作業機を連結または装着した場合には、トラクタにバランス・ウエイトをつけて、バランスの良い状態を保つこと。

(6) 運転者が運転位置をはなれて、作業機を調整する場合は、トラクタの駐車ブレーキをかけ、また、エンジンを停止し、かつ、駆動軸への動力の伝動が断たれていることを確認したうえで行なうこと。

(7) 作業機の下へもぐったり、足を踏み込んだりしないこと。

(8) ロータリ耕作業機のカバーは、土礫が飛散しないように調節すること。

■トラクタを定置作業に使用した時の注意事項

(1) 原動機から作業機への動力伝動は、安全かつ確実な方法によること。人が連結部に接触する恐れがある場合は、そこのベルトに接触しないように配慮すること。また、ベルトの継ぎ目には、突出した金具を使用しないこと。

ベルトの掛けはずしは原則として原動機を停止して行なうこと。

(2) 機械の据付に際しては、確実に固定するとともに作業のために必要な通路および作業場を適切に確保すること。

(3) 室内作業の場合は、適切な換気および採光の措置を講ずること。内燃機関を動力源とする作業または有毒ガスを発生する作業を室内等で行なう場合には、とくに換気を適切にすること。

■乗車等の禁止

(1) トラクタに他人を同乗させないこと。また、作業機に人を乗せないこと。ただし人が座るための座席か、立って乗るためのプラットホームがある場合は、これらの座席またはプラットホームの乗車定員の範囲内の人員については、この限りではない。

(2) 道路走行の場合は、作業機に人を乗せないこと。

(3) 運転者は、トラクタの座席以外の場所に立ったり座ったりして運転しないこと。

(4) 非常の場合を除いて、運行または作業中のトラクタおよび作業機に飛び乗り、または飛び降りをしないこと。

■運転操作

(1) 18歳未満の者は、乗用型トラクタの運転をしないこと。ただし、熟練した大人の監視下の訓練のために運転する場合は、この限りではない。

(2) 機械作業中は、作業関係者以外の者を機械に近寄らせないこと。

(3) 補助作業者および他人に危害を及ぼさないように機械を正しく運転すること。とくに土礫をはね飛ばす恐れのあるロータリ耕うん作業の場合は、子供等が近寄らないように注意すること。

(4) 始動および発進にあたっては、次の事項を守ること。

ア エンジンを始動するときは、変速位置を必ず中立にし、P.T.O軸への動力も断っておくこと。

イ 格納庫内でエンジンを始動するときは、換気がよいことを確認してから始動すること。

ウ 始動ハンドルで始動させる場合は、手がすべらないようハンドルをしっかりにぎって逆回転しないように注意して回すこと。

エ 発進に際しては、変速位置と周辺の安全を確認するとともに、作業機やトレーラーに注意し、人と機械の安全を確認したのちに発進すること。

(5) 作業または運行にあたっては、次の事項を守ること。

ア 運転者は乗用型トラクタの運行中には、運転席に着座して行なう以外の状態でトラクタを操作しないこと。また、運行中非常の場合を除き、運転席をはなれないこと。休けい等でトラクタを離れる場合には、安定した場所に置き、作業機をおろしエンジンを止め、かつ駐車ブレーキをかけておくこと。やむをえず傾斜地にトラクタをおく場合には、必ず車止めをしておくこと。

イ 必要以上の高速運転、急発進、急加速、急制動および急旋回は、厳につつしむこと。

ウ トラクタの運行中は、ハンドルを正しく、しっかりにぎって操作し、わき見運転、いねむり運転をしないこと。

エ 高速走行をしている場合は、急ブレーキをかけることをなるべく避け、とくに旋回の時の急ブレーキは、危険であるので厳重にさけること。

オ トラクタ本体に荷台がある場合を除き、小さな荷物といえどもトラクタ本体の上に積まないこと。

カ 動力伝動装置、回転部等の危険な部分には、接触しないよう注意すること。

キ 乗用型トラクタの旋回の際に、作業機に人が接触しないように周囲にとくに注意をすること。

ク 夜間作業においては、とくに安全に留意

し、適正で安全な照明を行なうこと。

ケ 刃または鋭利な突起を有する機械で作業を行なう場合は、傷害防止のためとくに注意すること。

(6) 道路走行にあたっては、(5)に掲げた事項のほか、次の事項を守ること。

ア 関係法規を守り、安全に運転すること。

イ 他の自動車の運行の妨げとならないように留意すること。

ウ 刃物または鋭利な突起物を有する作業機は、とりはずすこと。やむを得ず装着したまま走行するときは、おおいをつけること。

エ おうとつのはげしい道路、曲折のはげしい道路等においては、高速で運転しないこと。

オ 左右の車輪を別々に制動するブレーキがある場合は、左右のブレーキペダルを一体にした状態で走行すること。

カ トラクタより幅が広い作業機を装着して走行する場合は、作業機の左右で見やすい所に赤い標識（夜間は赤燈）および低速であることを明示するマーク等をつけて他の自動車の注意をうながすとともに、運転者は幅が広いことおよび左右に揺動することに留意して運転すること。また、折りたたみ可能な作業機は必ず折りたたむこと。

キ 見通しの悪い交差点または踏切り等を通過することが多い場合は、トラクタに側写鏡を装備する等車体を突き出さずに左右の安全を確認できるような措置を講ずること。

(7) 作業または運行条件の悪い場合には、(5)および(6)で掲げた事項のほか、次の事項を守ること。

ア 土地条件、気象条件等がトラクタ作業に対して良くない場合には、実施の判断、作業方法および装備の選択等に注意して行なうこと。

イ おうとつの道、坂道、溝や川のそばの道および不整地ではスピードを落とし、また、旋回する際には特別の注意を払うこと。

ウ 坂道を登るときまたは溝から出るときは、途中で馬力不足のため変速操作することのないようにあらかじめ適当な変速位置にし、静かに発進すること。

エ 坂道の途中で変速操作は行なわないこと。

オ 坂道を下るときは、登るときの速度またはそれ以下の速度で走行すること。またクラッチを切ったり変速位置を中立にしたりして、ブレーキだけで速度を制御しようとしないでエンジン・ブレーキを利用して運転すること。

カ 降坂時は、必ずエンジン・ブレーキを用いること。また、操行クラッチを使用しないこと。登坂時における発進では、前輪の浮上りに注意すること。

キ 水田への出入、洗車のため川などへの出入等の場合は、できる限りわたり板等を使用し、転覆・転落等が起らないよう細心の注意を払うこと。

ク 急傾斜地を登り降りするときは、作業機をできるだけ低くして重心位置を下げること。また、とくに穴や溝に落ち込まないように注意するとともに、危険な旋回は絶対に行なわないこと。

ケ そばに溝のある道路、または道の片側もしくは両側が傾斜しているところを走行するときには、路肩の軟弱さおよびトラクタの横すべりに注意すること。とくに溝の満水時には注意すること。

コ 溝または畦畔を横断するときおよび軟弱地を通過するときは、スリップおよび転倒を

防ぐために速度を落とす等とくに注意をすること。

サ 溝または軟弱地に落ち込んでスリップしたときは、状況をよく判断して無理な脱出を試みないこと。とくに作業機を取りはずしたり、バランス・ウエイトをはずしたりしないこと。やむを得ずこれらをはずして自力で脱出を試みる場合には、とくに転倒の恐れが大きいので細心の注意を払うこと。

シ 重い荷物のけん引や抜根をするときは、けん引索を緊張させるまで徐々に前進し一旦停止してから静かにけん引すること。また、乗用型トラクタでは、けん引索とトラクタとの連結点を後車軸中心線より低い位置にすること。

ス トラックまたはトレーラーへのトラクタの積み降しをするときは、転倒および落下を防ぐために、わたし板の固定角度、強度、すべり止めおよびトラクタの前後のバランス、速度にとくに注意すること。

■推奨潤滑油一覧表

区分	メーカ名	商品名	出荷時充填油
エンジンオイル ディーゼル	井関農機	キセキ・ディーゼル・エンジン・オイル（ＳＡＥ　10W／30）	○
	他有名メーカのグレードＣＣ品以上使用		
ギヤーオイル フロントアクスルミッションケース	井関農機	キセキ・ハイポイド・ギヤー・オイル（#80）	○
	〃	キセキマルチデラックスオイル（#80）	
	他有名メーカのグレードＧＬ－４以上使用		
一般グリース	協同油脂	ユニルーフNo.２	○
	他有名メーカのリチューム系一般グリース		
燃料	有名メーカ品	ディーゼル軽油 ＪＩＳ２号～３号（３号は厳寒時）	○
不凍液	モービル石油	モービルロングライフクーラント（L.L.C.）	○
	シェル石油	アンチフリーズ	
	他有名メーカ品を使用		

■主要諸元

この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

名称			TM17F			
型式名			ヰセキT0294			
区分			P	P1	NDP	NDP1
駆動方式			4輪駆動			
機体寸法	全長 (mm)		2030		2000	
	全幅 (mm)		1060			
	全高 (mm)		1910	1965	1885	1940
	最低地上高 (mm)		290		265	
機体質量(重量) (kg)			580		565	
エンジン	型式名		ヰセキE3100			
	種類		水冷4サイクル3気筒ディーゼル			
	総排気量(cc{ℓ})		1006{1.006}			
	出力/回転速度 (kw{PS}/rpm)		12.1{16.5}/2500			
	使用燃料		ディーゼル軽油JIS2号・3号(3号は北海道厳寒時)			
	燃料タンク容量 (ℓ)		13.5			
	バッテリ (V.Ah)		12・28			
走行部	タイヤ	前輪	5.00 - 12		5 - 12	
		後輪	8 - 18		8 - 16	
	軸距 (mm)		1320			
	輪距 (mm)	前輪	785		755	
		後輪	820、930			
	クラッチ型式		乾式単板			
	ブレーキ型式		ドラム機械式(乾式)			
	かじ取方式		パワーステアリング(U型式)またはマニュアルステアリング			
	変速		選択かみ合い式			
	変速段数 (段)		前進6・後進2			
	走行速度 (km/h)	前進	別表			
		後進	別表			
最小旋回半径 (m)			1.7			
PTO	クラッチ形式		乾式単板			
	回転数 (rpm)		450、696、1140			
			逆転707			
	軸径 (mm)		35(6スプライン)			
	最大出力(kw{PS})		10.8{14.8}			
けん引装置			固定ヒッチ			
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール			
	装着方式		ロータリ装着2P方式			
型式検査合格番号			-			
安全鑑定合格番号			20039			
型式認定番号または新型自動車番号			農1974			
安全キャブ/フレーム	型式名		ヰセキSF154	ヰセキSF160	ヰセキSF154	ヰセキSF160
	型式検査合格番号		95020	96099	95020	96099
	種類		2柱式安全フレーム			

この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

名称			TM15F					
型式名			ヰセキT0284					
区分			-	U	P	P1	ND	NDP	NDP1
駆動方式			4輪駆動						
機体寸法	全長 (mm)		2030				2000		
	全幅 (mm)		1060						
	全高 (mm)		1215	1245	1910	1965	1190	1885	1940
	最低地上高 (mm)		290				265		
機体質量(重量) (kg)			550	555	580		535	565	
エンジン	型式名		ヰセキE393						
	種類		水冷4サイクル3気筒ディーゼル						
	総排気量(cc{ℓ})		928{0.928}						
	出力/回転速度 (kw{PS}/rpm)		10.9{14.8}/2500						
	使用燃料		ディーゼル軽油JIS2号・3号(3号は北海道厳寒時)						
	燃料タンク容量 (ℓ)		13.5						
	バッテリ (V.Ah)		12・28						
走行部	タイヤ	前輪	5.00 - 12				5 - 12		
		後輪	8 - 18				8 - 16		
	軸距 (mm)		1320						
	輪距 (mm)	前輪	785				755		
		後輪	820、930						
	クラッチ型式		乾式単板						
	ブレーキ型式		ドラム機械式(乾式)						
	かじ取方式		パワーステアリング(U型式)またはマニュアルステアリング						
	変速		選択かみ合い式						
	変速段数 (段)		前進6・後進2						
	走行速度 (km/h)	前進	別表						
		後進	別表						
最小旋回半径 (m)			1.7						
PTO	クラッチ形式		乾式単板						
	回転数 (rpm)		450、696、1140						
			逆転707						
	軸径 (mm)		35(6スプライン)						
	最大出力(kw{PS})		9.8{13.3}						
けん引装置			固定ヒッチ						
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール						
	装着方式		ロータリ装着2P方式						
型式検査合格番号			-						
安全鑑定合格番号			20039						
型式認定番号または新型自動車番号			農1974						
安全キャブ/フレーム	型式名		-	ヰセキSF154	ヰセキSF160	-	ヰセキSF154	ヰセキSF160	
	型式検査合格番号		-	95020	96099	-	95020	96099	
	種類		-	2柱式安全フレーム		-	2柱式安全フレーム		

■主要諸元（ロータリ）

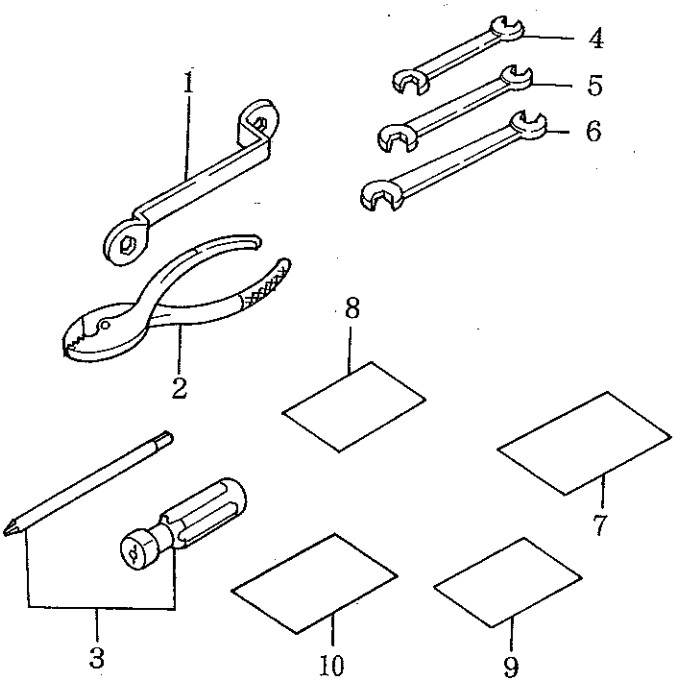
この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

機種		ARM12	ARM13
駆動方式		サイドドライブ	
機体寸法	全長 (mm)	1280	
	全幅 (mm)	1350	1450
	全高 (mm)	938	
重量 (kg)		150	156
適応トラクタ		TM15	TM17
装着方式		2Pリンク方式	
標準耕幅 (cm)		120	130
標準耕深 (cm)		～16	
爪軸回転数 (rpm)		156, 242, 396, 246 (逆転)	
耕うん爪外径 (cm)		45	
耕うん爪取付け法		ホルダタイプ	
耕うん爪の種類と本数		C140 (L) (R) 各13 C149 (L) (R) 各1	C140 (L) (R) 各14 C149 (L) (R) 各1

■走行速度表（km/h）

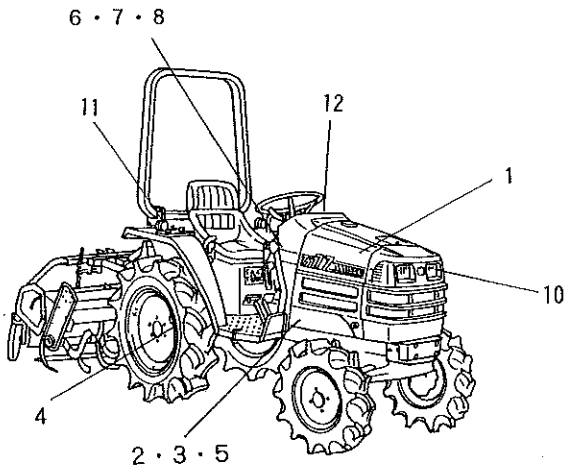
方向	副変速	主変速	TM15F TM17F	TM15F－ND TM17F－NDP
前進	低　速	1	0.82	0.77
		2	1.28	1.20
		3	2.11	1.98
	高　速	1	4.98	4.68
		2	7.75	7.28
		3	12.80（14.08）	12.04（13.24）
後進	低　速	後　進	1.08	1.01
	高　速	後　進	6.54	6.15

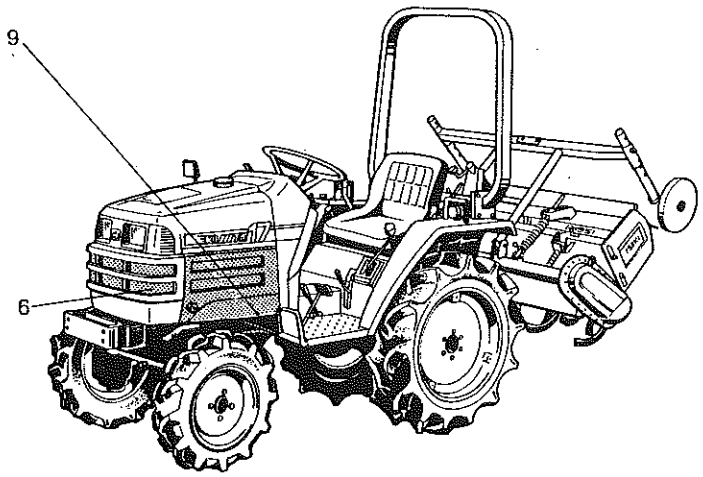
■付属工具一覧表

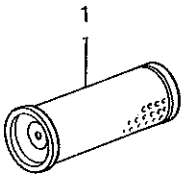
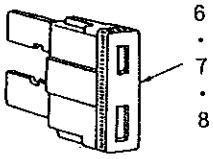
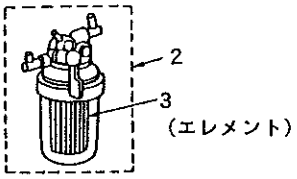
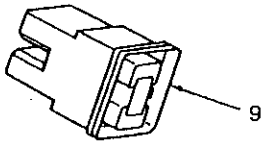
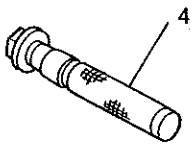
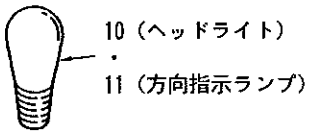
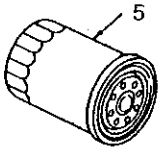
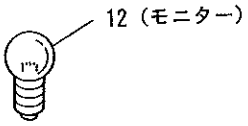


番号	品　　名	個数
1	メガネレンチ（17－19）	1
2	プライヤ	1
3	サシカエドライバ　ＡＳＳＹ	1
4	リョウクチスパナ（マル）　10×12	1
5	リョウクチスパナ（マル）　14×17	1
6	リョウクチスパナ（マル）　19×22	1
7	トリアツカイセツメイショ	1
8	ホショウショ（TM15）	1
9	カード（リサーチ）	1
10	サービスブック	1

■主な消耗部品一覧表





エアクリーナ エレメント 	ヒューズ 
燃料フィルタ 	ヒューズ （スローブロー） 
油圧オイルフィルタ 	電　球 
エンジンオイルフィルタ カートリッジ 	モニタランプ 

図番	品　　名	品　　番
1	ペーパーエレメント	1675－104－210－0
2	フィルタ　ASSY	1600－105－230－0
3	エレメント	1514－102－011－0
4	サクションフィルタ	1427－503－006－1
5	カートリッジ（オイルフィルタ）	6213－240－002－0
6	ヒューズ（ブレード／32V05A）	1560－664－264－0
7	ヒューズ（ブレード／32V10A）	1575－623－010－0
8	ヒューズ（ブレード／32V15A）	1575－623－011－0
9	ヒューズ（スローブロー）	1560－650－222－0
10	バルブ（ランプ　12V／25／25W）	1444－621－251－0
11	バルブ（ランプ／12V20W）	1444－621－242－0
12	バルブ（12V3.4W）	3650－270－214－0

注文部品一覧

■注文装備

品目（規格寸度）	数 量	摘 要
○バンパウエイト	一 式	15kg×４（バンパ一式が一緒に必要です）
○リヤホイルウエイト	一 式	22kg×２
		19kg×４
○特殊工具	一 式	エンジン，バックアップ
○トレラヒッチ	一 式	
○バンパ	一 式	
○３Ｐリンク	一 式	
○メカ式オートロータリ	一 式	
○ロプス	一 式	
○フロントホイルウエイト	一 式	17kg×２
○フロントウエイト	一 式	30kg＋28kg
○フロントウエイト	一 式	28kg
○フロントウエイト	一 式	30kg

索　引

［あ］

アクセルレバー 25
アクセルペダル 25
アユミ 9
アワーメータ 24
安全カバー 5
安全な作業をするために 3
安全表示ラベル貼付位置 16
安全フレーム 20
安全表示ラベルについて 15

［い］

インジェクションポンプ 58

［う］

ウィンカスイッチ 23
内盛耕 87
畦立器の取り付けかた 84
畦立作業のしかた 84
運転免許証の携帯 2

［え］

エアクリーナエレメント 63
エアクリーナの清掃 63
エンジンオイル圧力警告灯 24
エンジンオイルフィルタ 60
エンジンオイル量 59
エンジンの始動 32
エンジンブレーキ 37

［お］

オートロータリの取扱い 47
オイル交換 89
オイルの規定量 90
オイルフィルタ 64
オルタネータ 72

［か］

型式認定 1
傾き調整ダイヤル 43

［き］

キースイッチ 8
切換スイッチ 43
逆転PTO切換レバー 28
給油口 59

［く］

空気圧 73
クラッチカットオフアーム 26
クラッチペダル 26
クラッチペダルの遊び 70
グリースの補給 ..... 9(

［け］

ケーブル(オート) 47
計器 23
検油プラグ 64

［こ］

耕うん爪 85
耕深レバー 47
耕深調整のしかた 82
耕深ハンドル 82
小型特殊自動車 1
コントロールレバー 40
コントロールバルブ ..... 4(
コンビネーションスイッチ 23

［さ］

最高速度 1
サイドカバー 30
サービスについて 21
作業灯 11
作業方法 83
作業前の点検 31

［し］
シート 25
シートカバー 13
シートベルト 29
シールの組換え 91
主変速レバー 27
手動スイッチ 43
主要諸元 105
ショート 19
軸カバー 76

［す］
水温警告灯 24
水平ロータリの取扱い 43
ステアリングホイルの遊び 73
スタータスイッチ 92
スローブローヒューズ 67

［せ］
セイフティスイッチ 92
製造番号 22
センタピボット 57

［そ］
走行速度 50
総排気量 1
外盛耕 87

［た］
タイヤサイズ 1
タイヤの空気圧 73
タイロッド 57
暖機運転 34
暖機運転時間 34

［ち］
注油 91

［つ］
爪の交換時期 91
爪配列 86

［て］
定期点検箇所一覧表 55,88
デフロックペダル 29
電気配線の点検 66

［と］
トラクタメータ 24
トラックへの装着 76
トラックへの積み込み・積み降ろし 9
ドラッグロッド 57
取り外しかた 79
ドレンコック 61
ドレンプラグ 64
ドローバ 11

［な］
ナンバープレートの取付け 2

［ね］
燃料キャップ 58
燃料タンク 58
燃料フィルタ 59
燃料ホース 59
燃料残量警告灯 24

［は］
排気ガス 5
バックアップ表示灯 24
バックミラー 25
バッテリ 18
バッテリ液 19
バッテリケーブル 19
バッテリチャージ警告灯 24
バッテリの脱着 19
パーキングブレーキ 27

［ひ］
ヒュージブルリンク 67
ヒューズボックス 67
PTO回転速度 50
PTO変速レバー 28
尾輪 82

［ふ］
ファンベルトの張り 72
フィルタコックレバー 58
副変速レバー 27
不凍液 62
フラッシャユニット 96
フロントアクスル 73
フロントグリル 30
ブースターケーブル 19
ブレーキペダル 26
ブレーキペダルの遊び 71
プレッシャスプリング調整のしかた 81

［へ］
ヘッドランプ 23
平面耕 86

［ほ］
ホールカバー 81
ホーン 23
ホーンボタン 23
補修用部品供給年限 21
ポジションコントロール 40

［ま］
マニュアルステアリング 105
マフラー 11

［み］
ミッションオイル 64
ミッションオイル量 64

［め］
メインスイッチ 23

［も］
モニタランプ 24

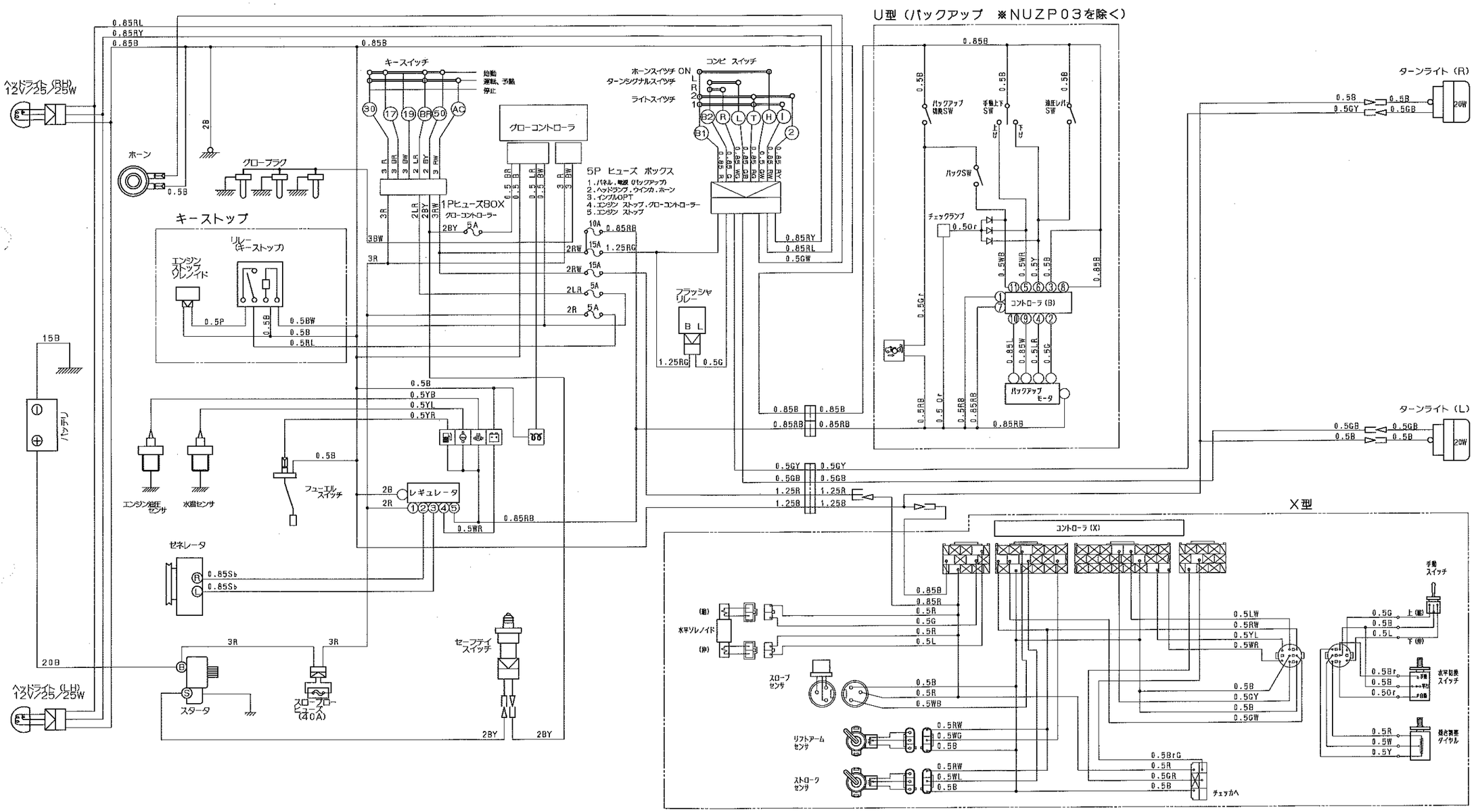
［ゆ］
ユニバーサルジョイント 78
ユニバーサルジョイントのロックピン 78
油圧オイルフィルタ 64
油圧降下速度調節つまみ 41
油圧シリンダ 40
油圧ポンプ 40
油量点検 89

［ら］
ライティングスイッチ 23
ラジエータ 61
ラジエータの清掃 62
ラジエータキャップ 61

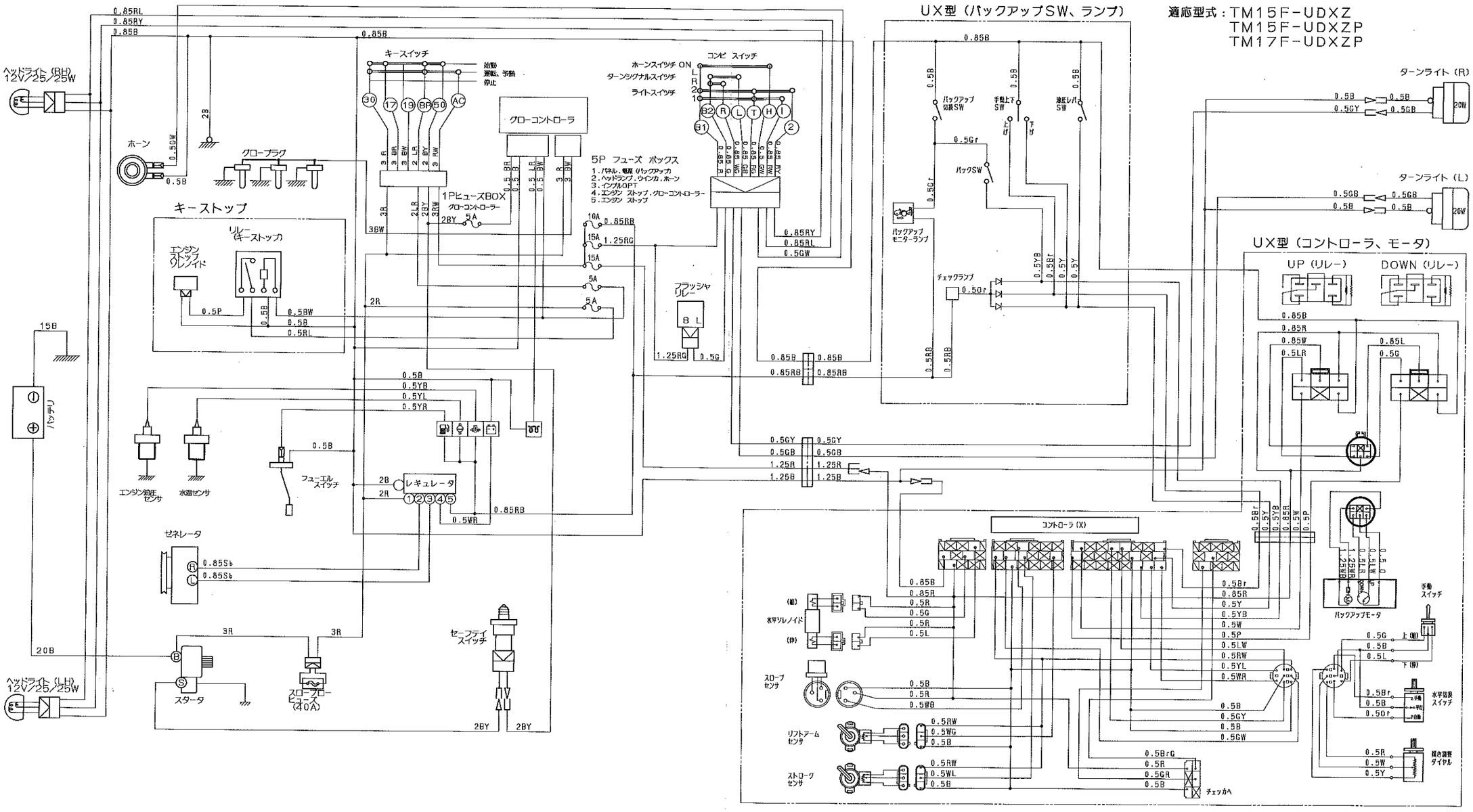
［り］
リフトシリンダ 77
リヤカバー 49
リヤヒッチ 84
輪距 54

［れ］
冷却水 61

配　線　図


U型（バックアップ　※NUZP03を除く）
X型
ヘッドライト（RH）
12V/25/25W
ヘッドライト（LH）
12V/25/25W
ホーン
グロープラグ
キースイッチ
始動
運転、予熱
停止
ホーンスイッチ ON
ターンシグナルスイッチ
ライトスイッチ
コンビ スイッチ
グローコントローラ
5P ヒューズ ボックス
1.パネル，電源（バックアップ）
2.ヘッドランプ，ウインカ，ホーン
3.インジルOPT
4.エンジン ストップ，グローコントローラー
5.エンジン ストップ
1Pヒューズ BOX
グローコントローラー
キーストップ
リレー（キーストップ）
エンジンストップソレノイド
フラッシャリレー
バックアップ切換SW
手動上下SW
油圧レバーSW
バックSW
チェックランプ
コントローラ（B）
バックアップモータ
ターンライト（R）
ターンライト（L）
コントローラ（X）
水平ソレノイド
スロープセンサ
リフトアームセンサ
ストロークセンサ
チェッカへ
手動スイッチ
水平設置スイッチ
傾き警報ダイヤル
エンジン温度センサ
水温センサ
フューエルスイッチ
レギュレータ
セネレータ
スタータ
スローブローヒューズ（40A）
セーフティスイッチ

配　線　図（ＵＸ型式）


適応型式：TM15F-UDXZ
TM15F-UDXZP
TM17F-UDXZP
UX型（バックアップSW、ランプ）
UX型（コントローラ、モータ）
キースイッチ
始動
運転、予熱
停止
ホーンスイッチ ON
ターンシグナルスイッチ
ライトスイッチ
コンビ スイッチ
ヘッドライト(RH)
12V 25/25W
ホーン
グロープラグ
グローコントローラ
5P フューズ ボックス
1．パネル、電源（バックアップ）
2．ヘッドランプ、ウインカ、ホーン
3．インプルOPT
4．エンジン ストップ、グローコントローラー
5．エンジン ストップ
1PヒューズBOX
グローコントローラー
キーストップ
リレー
（キーストップ）
エンジン
ストップ
ソレノイド
フラッシャ
リレー
バックアップ
切換SW
手動上下
SW
油圧レバ
SW
バックSW
バックアップ
モーターランプ
チェックランプ
ターンライト（R）
ターンライト（L）
20W
UP（リレー）
DOWN（リレー）
バッテリ
エンジン油圧
センサ
水温センサ
フューエル
スイッチ
レキュレータ
セネレータ
スタータ
スローブロー
ヒューズ
(40A)
セーフティ
スイッチ
ヘッドライト(LH)
12V 25/25W
コントローラ(X)
(縮)
水平ソレノイド
(伸)
スロープ
センサ
リフトアーム
センサ
ストローク
センサ
チェッカへ
バックアップモータ
手動
スイッチ
上(縮)
下(伸)
水平調整
スイッチ
揺き調整
ダイアル

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

井関農機株式会社

本社	〒799-2692	松山市馬木町700 ☎089-978-1211
本社事務所営業本部	〒116-8541	東京都荒川区西日暮里5丁目3番14号 ☎03-5604-7625
北海道支店	〒060-0805	札幌市手稲区新発寒5条1丁目1101-12 ☎011-667-6277
〃	〒068-0005	岩見沢市5条東12丁目5番地 ☎0126-22-2666
東北支店	〒989-2421	宮城県岩沼市下野郷字新南長沼1-2 ☎0223-24-1111
関東支店	〒300-2346	茨城県筑波郡伊奈町青木560 ☎0297-58-5131
関西支店	〒523-0016	滋賀県近江八幡市千僧供町字大橋602 ☎0748-37-3831
中四国支店	〒799-2692	松山市馬木町700 ☎089-979-4111
九州支店	〒861-2297	熊本県上益城郡益城町大字安永1400 ☎096-286-4020

1672-912-001-6J